

基本計画書

基本計画								
事項		記入欄				備考		
計画の区分		学部設置						
フリガナ設置者		ガッコウホカイシン トウカイガク						
フリガナ大学の名称		トウカイガク 東海大学 (Tokai University)						
大学の本部の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1						
大学の目的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。						
新設学部等の目的		【健康学部】 健康とは、身体的健康のみを指すものではない。WHOの定義を持ち出すまでもなく、社会的健康（人間関係、生きがい等）と経済的健康（所得・収入等）も身体的な健康に大きな影響を及ぼす。さらに、精神的健康（メンタル）は、身体的健康、社会的健康、経済的健康に影響を及ぼすと同時に、これらの健康が相互に作用することによって、精神的健康も満たされることができる。このように、健康を構成する要素は、それぞれが独立したものであると同時に密接な関係にあり、お互いに影響を与えあっている。さらに、これらの要素は、個人の次元のみならず、家族・家庭の健康、集団や組織の健康、地域社会の健康など、より複雑に多層化して、より複雑に影響を与えあっている。現在の日本を見ると、人口減少とともに高齢化が急速に進展しており、2040年代半ばにピークを迎えるまで高齢者数の大幅な増加が見込まれ、住まい、生活、医療、介護等の支援等への対策が不可避である。この状況により、健康増進や予防等を広く捉え、「健康」を一体的に提供できる社会体制や、コミュニティでの仕組みづくりが強く求められており、様々な分野を跨り、多層化する社会構成の中に存在する、「健康」を捉え、理解し、整理し、そして新しい“健康社会”を作っていく、「マネジメント能力」が、現代の日本には必要とされている。 本学部においては、「健康社会」の実現を目指し、Bio-Psycho-Social（身体生理的・心理的・社会的）な諸要素で構成される「健康」を総合的に捉え、生じている諸問題の解決を目指していく。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、「健康をマネジメント」できる人材を養成する。 【健康学部健康マネジメント学科】 学部で養成する人材像を受け、子供から高齢者、障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく健康に過ごせる“健康社会”の実現を目指し、「健康」を総合的に捉えたうえで、「健康」を成し遂げる社会を、“どのようにデザインしていくのか”という命題にアプローチする人材、すなわち「健康をマネジメント」する能力を持った人材を育成する。 具体的には、健康社会の創生のため、健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”などを身に付けるために、“社会構成”、“身体”、“こころ”を理解し、それらを結び付けて考え、行動することが出来る「T字型人材」の養成を目指す。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	健康学部 [Undergraduate School of Health Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	健康マネジメント学科 [Department of Health Management]	4	200	—	800	学士 (健康マネジメント学)	平成30年4月 第1年次	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	計		200		800			

同一設置者内における変更 状 況 (定員の移行, 名称の変更 等)		文化社会学部 (平成29年4月届出) アジア学科 (70) ヨーロッパ・アメリカ学科 (70) 北欧学科 (60) 文芸創作学科 (60) 広報メディア学科 (100) 心理・社会学科 (90) 医学部 看護学科 (平成29年4月届出) (85) 文学部 アジア文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 ヨーロッパ文明学科 (廃止) (△70) ※平成30年4月学生募集停止 アメリカ文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 北欧学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 文芸創作学科 (廃止) (△55) ※平成30年4月学生募集停止 広報メディア学科 (廃止) (△110) ※平成30年4月学生募集停止 心理・社会学科 (廃止) (△100) ※平成30年4月学生募集停止 健康科学部 (廃止) ※平成30年4月学生募集停止 看護学科 (廃止) (△75) (3年次編入学定員) (△20) 社会福祉学科 (廃止) (△85) (3年次編入学定員) (△10) 文学部 歴史学科〔定員減〕 (△45) (平成30年4月) 政治経済学部 政治学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経済学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経営学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 体育学部 体育学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 競技スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 武道学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 生涯スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 工学部 機械工学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 動力機械工学科〔定員減〕 (△50) (平成30年4月) 航空宇宙学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月)							
		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
教育課程	新設学部等の名称	講義	演習	実験・実習	計				
	健康学部健康マネジメント学科	81科目	17科目	19科目	117科目	124単位			
教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼任 教員
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新 設	健康学部	人	人	人	人	人	人	人
		健康マネジメント学科	8 (8)	6 (6)	6 (6)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	23 (23)
		文化社会学部	5	3	1	0	9	0	60
		アジア学科	(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(60)
		文化社会学部	3	3	3	0	9	0	52
		ヨーロッパ・アメリカ学科	(3)	(3)	(3)	(0)	(9)	(0)	(52)
		文化社会学部	3	0	3	0	6	0	36
		北欧学科	(3)	(0)	(3)	(0)	(6)	(0)	(36)
		文化社会学部	5	1	1	0	7	0	31
		文芸創作学科	(5)	(1)	(1)	(0)	(7)	(0)	(31)
	分	文化社会学部	8	2	0	0	10	0	44
		広報メディア学科	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(44)
		文化社会学部	5	5	0	0	10	0	49
		心理・社会学科	(5)	(5)	(0)	(0)	(10)	(0)	(49)
		医学部	9	8	9	3	29	0	88
		看護学科	(9)	(8)	(9)	(3)	(29)	(0)	(88)
		計	46 (46)	28 (28)	23 (23)	7 (7)	104 (104)	0 (0)	— —
	既 設	文学部	4	0	2	0	6	0	14
		文明学科	(4)	(0)	(2)	(0)	(6)	(0)	(14)
		文学部	8	4	3	0	15	0	24
		歴史学科	(8)	(4)	(3)	(0)	(15)	(0)	(24)
		文学部	3	2	1	0	6	0	20
		日本文学科	(3)	(2)	(1)	(0)	(6)	(0)	(20)
		文学部	4	2	1	0	7	0	10
		英語文化コミュニケーション学科	(4)	(2)	(1)	(0)	(7)	(0)	(10)
		政治経済学部	8	5	1	0	14	0	12
		政治学科	(8)	(5)	(1)	(0)	(14)	(0)	(12)
要 分	政治経済学部	6	3	2	0	11	0	12	
	経済学科	(6)	(3)	(2)	(0)	(11)	(0)	(12)	
	政治経済学部	7	4	0	0	11	0	9	
	経営学科	(7)	(4)	(0)	(0)	(11)	(0)	(9)	

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

教 員 組 織 の 概 要	既 員 組 織 設 置 の 概 要	法学部 法律学科	14 (14)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	5 (5)
		教養学部 人間環境学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	21 (21)
		教養学部 芸術学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	73 (73)
		教養学部 国際学科	4 (4)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
		体育学部 体育学科	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	4 (4)
		体育学部 競技スポーツ学科	7 (7)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	7 (7)
		体育学部 武道学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)
		体育学部 生涯スポーツ学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)
		体育学部 スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		理学部 数学科	11 (11)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	13 (13)
		理学部 情報数理学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)
		理学部 物理学科	14 (14)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	18 (18)
		理学部 化学科	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
		理学部 基礎教育研究室	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部 情報科学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	7 (7)
		情報理工学部 コンピュータ応用工学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
		工学部 生命化学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		工学部 応用化学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部 光・画像工学科	7 (7)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
		工学部 原子力工学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	7 (7)
		工学部 電気電子工学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	4 (4)
		工学部 材料科学科	8 (8)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
		工学部 建築学科	11 (11)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	31 (31)
		工学部 土木工学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	9 (9)
		工学部 精密工学科	8 (8)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		工学部 機械工学科	9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)
		工学部 動力機械工学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	15 (15)
		工学部 航空宇宙学科	14 (14)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	2 (2)
		工学部 医用生体工学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		観光学部 観光学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)
		情報通信学部 情報メディア学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		情報通信学部 組込みソフトウェア工学科	5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		情報通信学部 経営システム工学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	6 (6)
		情報通信学部 通信ネットワーク工学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		海洋学部 海洋文明学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		海洋学部 環境社会学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		海洋学部 海洋地球科学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	7 (7)
		海洋学部 水産学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (8)
		海洋学部 海洋生物学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)

教員組織の概要	既設	海洋学部	5	4	1	0	10	0	11
		航海工学科	(5)	(4)	(1)	(0)	(10)	(0)	(11)
		海洋学部	1	1	2	0	4	0	12
		海洋フロンティア教育センター	(1)	(1)	(2)	(0)	(4)	(0)	(12)
		医学部	106	125	193	412	836	0	162
		医学科	(106)	(125)	(193)	(412)	(836)	(0)	(162)
		経営学部	6	2	1	1	10	0	1
		経営学科	(6)	(2)	(1)	(1)	(10)	(0)	(1)
		経営学部	6	2	1	1	10	0	4
		観光ビジネス学科	(6)	(2)	(1)	(1)	(10)	(0)	(4)
		基盤工学部	6	1	1	0	8	0	1
		電気電子情報工学科	(6)	(1)	(1)	(0)	(8)	(0)	(1)
	組織	基盤工学部	5	2	2	0	9	0	14
		医療福祉工学科	(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(0)	(14)
		農学部	7	2	0	0	9	0	4
		応用植物科学科	(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(4)
		農学部	5	1	2	1	9	0	4
		応用動物科学科	(5)	(1)	(2)	(1)	(9)	(0)	(4)
		農学部	5	2	2	0	9	0	5
		バイオサイエンス学科	(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(0)	(5)
		国際文化学部	8	3	0	3	14	0	12
		地域創造学科	(8)	(3)	(0)	(3)	(14)	(0)	(12)
		国際文化学部	7	2	2	0	11	0	6
		国際コミュニケーション学科	(7)	(2)	(2)	(0)	(11)	(0)	(6)
	施設	国際文化学部	7	2	1	0	10	0	10
		デザイン文化学科	(7)	(2)	(1)	(0)	(10)	(0)	(10)
		生物学部	5	3	3	0	11	0	10
		生物学科	(5)	(3)	(3)	(0)	(11)	(0)	(10)
		生物学部	4	2	1	1	8	0	4
		海洋生物科学科	(4)	(2)	(1)	(1)	(8)	(0)	(4)
		現代教養センター	18	20	7	1	46	0	25
			(18)	(20)	(7)	(1)	(46)	(0)	(25)
		国際教育センター	26	30	31	2	89	0	245
			(26)	(30)	(31)	(2)	(89)	(0)	(245)
		情報教育センター	6	6	5	0	17	0	23
			(6)	(6)	(5)	(0)	(17)	(0)	(23)
概要	課程資格教育センター	11	9	4	0	24	0	56	
		(11)	(9)	(4)	(0)	(24)	(0)	(56)	
	創造科学技術研究機構	0	3	2	1	6	0	0	
		(0)	(3)	(2)	(1)	(6)	(0)	(0)	
	海洋研究所	2	1	0	0	3	0	0	
		(2)	(1)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	
	総合医学研究所	0	0	1	0	1	0	0	
		(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	
	先進生命科学研究所	1	0	0	0	1	0	0	
		(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	
	教育開発研究センター	2	1	1	0	4	0	0	
		(2)	(1)	(1)	(0)	(4)	(0)	(0)	
要分	スポーツ医科学研究所	4	1	1	0	6	0	0	
		(4)	(1)	(1)	(0)	(6)	(0)	(0)	
	沖縄地域研究センター	1	0	0	0	1	0	0	
		(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	
	総合科学技術研究所	2	1	0	0	3	0	0	
		(2)	(1)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	
	情報技術センター	0	1	0	0	1	0	0	
		(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	
総合科学技術研究所	1	0	1	0	2	0	0		
	(1)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(0)		
平和戦略国際研究所	0	1	0	0	1	0	0		
	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)		
計	599	367	339	432	1,737	0	—		
	(599)	(367)	(339)	(432)	(1,737)	(0)	—		
合計	645	395	362	439	1,841	0	—		
	(645)	(395)	(362)	(439)	(1,841)	(0)	—		

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	605人 (605)	419人 (419)	1,024人 (1,024)
	技術職員	60 (60)	83 (83)	143 (143)
	図書館専門職員	56 (56)	30 (30)	86 (86)
	その他の職員	18 (18)	115 (115)	133 (133)
	計	739 (739)	647 (647)	1,386 (1,386)

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし		
	校 舎 敷 地		1,614,127.67 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		1,616,180.55 m ²				
	運 動 場 用 地		421,731.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		421,731.97 m ²				
	小 計		2,035,859.64 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,037,912.52 m ²				
	そ の 他		219,768.53 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		219,768.53 m ²				
合 計			2,255,628.17 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,257,681.05 m ²				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			580,976.38 m ² (580,976.38 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)		580,976.38 m ² (580,976.38 m ²)				
教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
		507 室	230 室	1,481 室	89 室 (補助職員 18 人)		6 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			健康学部健康マネジメント学科			24 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 大学全体での共用分として、電子データベースは59種〔うち国外36種〕学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約27,746種〔うち国外約11,728種〕と、電子ブックは約10,000点〔うち国外約7,000点〕がそれぞれ利用可能。	
			健康学部	70,954 [16,197] (67,754[15,473])	828 [648] 706 [533]		619 [590] (502 [476])	470 (450)	0 (0)		0 (0)
	計	70,954 [16,197] (67,754[15,473])	828 [648] 706 [533]	619 [590] (502 [476])	470 (450)	0 (0)	0 (0)				
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
			21,620.00 m ²		3,567 席		2,248,166冊				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			34,224.13 m ²		400mトラック 1面						
維 経 費 の 見 積 り の 概 要	積 経 費 の 見 積 り の 概 要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体
		教員1人当たり研究費等			330千円	330千円	330千円	330千円	― 千円	― 千円	
		共同研究費等			1,947千円	1,947千円	1,947千円	1,947千円	― 千円	― 千円	
		図書購入費		2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	― 千円	― 千円	
	設備購入費		40,193千円	40,193千円	40,193千円	40,193千円	40,193千円	― 千円	― 千円		
	学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,477千円	1,177千円	1,177千円	1,177千円	― 千円	― 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常経費補助金、資産の運用、手数料及び国庫助成金等							

既設大学	大学 の 名 称	東 海 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	備 考
		年	人	年次 人	人		倍			
大 学	文学部		930	—	3,720		1.10	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.14	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	70	—	280	学士(文学)	1.09	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.10	昭和42年	〃	
	文学部 文学学科		175	—	700		1.11	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.18	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	40	—	160	学士(文学)	1.04	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.10	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	30	—	120	学士(文学)	1.12	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.12	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.12	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.13	平成13年	〃	
大 学	政治経済学部		450	—	1,800		1.09	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.08	昭和41年	〃	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.09	昭和41年	〃	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.10	昭和49年	〃	
	法学部		300	—	1,200		1.06	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.06	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.11	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学部 人間環境学科	4	160	—	640	学士(教養学)	1.11	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	90	—	360	学士(教養学)	1.05	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.17	昭和47年	〃	
	体育学部		440	—	1,760		1.07	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.07	昭和42年	〃	
	体育学部 体育学科	4	130	—	520	学士(体育学)	1.08	平成16年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	昭和43年	〃	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.05	昭和46年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	平成16年	〃	
大 学	理学部		320	—	1,280		1.05	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.08	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.07	昭和49年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.04	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.02	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.09	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.09	平成13年	〃	
	情報理工学部 情報科学学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.08	平成13年	〃	
	工学部		1,460	—	5,840		1.05	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.12	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	40	—	160	学士(工学)	0.97	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.07	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.03	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
大 学	工学部 生命化学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.14	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.02	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	0.95	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科		150	—	600		0.99	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.07	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.84	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.15	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	

大 学 等 の 状 況	既 設	観光学部			200	—	800		1. 12	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
		観光学科		4	200	—	800	学士(観光学)	1. 12	平成22年	〃	
		情報通信学部			320	—	1, 280		1. 10	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
		情報メディア学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 08	平成20年	〃	
		組込みソフトウェア工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 09	平成20年	〃	
		経営システム工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 13	平成20年	〃	
		通信ネットワーク工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 11	平成20年	〃	
		海洋学部			530	—	2, 120		1. 01	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
		海洋文明学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	0. 99	平成16年	〃	
		環境社会学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 09	平成23年	〃	
		海洋地球科学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		水産学科		4	120	—	480	学士(海洋学)	1. 06	平成18年	〃	
		海洋生物学科		4	90	—	360	学士(海洋学)	1. 05	平成18年	〃	
		航海工学科			80	—	320		0. 79	平成23年	〃	
		航海学専攻		4	20	—	80	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		海洋機械工学専攻		4	60	—	240	学士(海洋学)	0. 70	平成23年	〃	
		医学部			118	—	692		0. 84	昭和49年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		医学科		6	118	—	692	学士(医学)	0. 84	昭和49年	〃	
		健康科学部			160	3年次 30	700		1. 06	平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		看護学科		4	75	3年次 20	340	学士(看護学)	1. 11	平成7年	〃	
		社会福祉学科		4	85	3年次 10	360	学士(社会福祉学)	1. 02	平成7年	〃	
		総合経営学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		マネジメント学科		4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		経営学部			230	—	920		0. 92	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		経営学科		4	150	—	600	学士(経営学)	1. 02	平成25年	〃	
		観光ビジネス学科		4	80	—	320	学士(経営学)	0. 72	平成25年	〃	
		産業工学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		環境保全学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		電子知能システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		機械システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		建築学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		基盤工学部			140	—	560		0. 76	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		電気電子情報工学科		4	80	—	320	学士(工学)	0. 57	平成25年	〃	
		医療福祉工学科		4	60	—	240	学士(工学)	1. 01	平成25年	〃	
		農学部			230	—	920		1. 04	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
		応用植物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 05	平成20年	〃	
		応用動物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 06	平成20年	〃	
		バイオサイエンス学科		4	70	—	280	学士(農学)	0. 99	平成20年	〃	
		国際文化学部			260	—	1, 040		0. 85	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		地域創造学科		4	110	—	440	学士(教養学)	1. 04	平成20年	〃	
		国際コミュニケーション学科		4	80	—	320	学士(教養学)	0. 79	平成20年	〃	
		デザイン文化学科		4	70	—	280	学士(教養学)	0. 60	平成24年	〃	
		生物学部			140	—	560		1. 06	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		生物学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 03	平成24年	〃	
		海洋生物科学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 09	平成24年	〃	
		《大学院》										
		総合理工学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		総合理工学専攻 博士課程		3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0. 34	平成17年	〃	
		地球環境科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		地球環境科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(工学)	0. 06	平成17年	〃	
		生物科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		生物科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(応用学)	0. 23	平成17年	〃	

既設	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.62	昭和49年	〃
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	〃
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.37	昭和44年	〃
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.49	昭和49年	〃
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.08	昭和51年	〃
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.00	昭和44年	〃
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.33	昭和46年	〃
設	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	1.18	昭和49年	〃
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.16	昭和51年	〃
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.25	平成26年	〃
	政治学研究科								昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	〃
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.06	昭和48年	〃
	経済学研究科				—				昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	〃
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃
大	法学研究科				—				平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	法学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.05	平成2年	〃
	法学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃
	人間環境学研究科				—				平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.65	平成19年	〃
	芸術学研究科								昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.25	昭和48年	〃
	造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.50	昭和48年	〃
	体育学研究科								昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
体育学専攻	修士課程	2	15	—	30	修士(体育学)	1.36	昭和51年	〃	
等	理学研究科								昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	数理学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.37	昭和43年	〃
	物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	〃
	化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.29	昭和43年	〃
	工学研究科								昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	情報理工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年	〃
	電気電子システム工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年	〃
	応用理学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和38年	〃
	光工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和47年	〃
の	工業化学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和45年	〃
	金属材料工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和48年	〃
	建築学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和39年	〃
	土木工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和41年	〃
	機械工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和42年	〃
	航空宇宙学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和46年	〃
	電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.14	平成28年	〃
	応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.17	平成28年	〃
	建築土木学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.02	平成28年	〃
状	機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.17	平成28年	〃
	医用生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.31	平成26年	〃
	情報通信学研究科								平成24年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.68	平成24年	〃
	海洋学研究科								昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1
	海洋工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和42年	〃
	海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	1.07	平成27年	〃
	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.60	平成7年	〃
先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.52	平成17年	〃	
況	健康科学研究科								平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.55	平成11年	〃
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.45	平成11年	〃

既 設 大 学 等 の 状 況	産業工学研究科		2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成29年度より学生募集停止
	生産工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	情報工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	社会開発工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	農学研究科		2	12	—	24	修士(農学)	0.58	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.58	平成20年	〃	
	国際地域学研究科		2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止
	国際地域学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
	理工学研究科		2	—	—	—	修士(理学)	—	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止
	環境生物科学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(理学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	100	—	200	短期大学士(食物栄養学)	0.85	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	
	児童教育学科		2	100	—	200	短期大学士(児童教育学)	1.08	昭和44年	〃	
	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	80	—	240	短期大学士(看護学)	1.10	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	
	大 学 の 名 称		東海大学福岡短期大学								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	情報処理科		2	—	—	—	短期大学士(情報学)	—	平成2年	福岡県宗像市田久1-9-1	平成29年度より学生募集停止
	国際文化学科		2	—	—	—	短期大学士(国際文化学)	—	平成2年	〃	平成29年度より学生募集停止

附属施設の概要	名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 118,828.50㎡、建物 85,897.78㎡ 名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ 名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,950.38㎡ 名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 46,636.17㎡	
---------	---	--

教 育 課 程 等 の 概 要														
（健康学部 健康マネジメント学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2		○								兼1
	社会科学	1前	2			○								兼1
	自然科学	1後	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1		○								兼1
	ボランティア	1後	1			○								兼1
	地域理解	1前	1			○								兼1
	国際理解	1前	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前	1				○						兼2
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1前	2				○						兼1
	英語リーディング&ライティング	1後	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2前	2				○						兼1
	アカデミック英語	2後	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅳ 主専攻科目	共通基礎	健康学概論	1前・後	2		○			1					
	健康学入門演習 1	1前	1				○		7	6	6	4		
	健康学入門演習 2	1後	1				○		7	6	6	4		
	小計（3科目）	—	4	0	0	—			8	6	6	4	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	現代社会の理解	環境と健康A	1前・後		2		○				1			
		環境と健康B	1前・後		2		○				1			
		環境と健康C	1前・後		2		○		2					
		社会学	1後		2		○		1					
		現代社会と福祉A	1前		2		○		1					
		現代社会と福祉B	1後		2		○		1					
		コミュニティデザイン論	3前		2		○				1			
		公衆衛生学	1前・後		2		○				1			
		小計（8科目）	—	0	16	0	—			5	0	4	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	ソーシャルウェルネス	ウエルネス総論	1後		2		○									兼2
		ウエルネス経営論	2前		2		○			1						
		生命倫理学	1後		2		○									兼1
		介護学入門	2前		2		○				1					
		地域福祉の理論と方法A	2前		2		○			1						
		地域福祉の理論と方法B	2後		2		○			1						
		高齢者と福祉	2後		2		○			1						
		障害者と福祉	2後		2		○								兼1	
		子ども家庭と福祉	2前		2		○				1					
		生活困窮と公的扶助	2後		2		○								兼1	
		自立支援とテクノロジー	3後		2		○								兼1	
		社会保障A	1前		2		○						1			
		社会保障B	2後		2		○								兼1	
		保健医療サービス	2後		2		○			1						
		公共政策	3前		2		○						1			
		福祉行財政と計画	3後		2		○			1						
		権利擁護と成年後見制度	3前		2		○								兼1	
		健康経済論	2前		2		○			1						
		健康産業論	2後		2		○			1						
		多職種連携論	2前		2		○			1						
		福祉サービスの組織と経営	3後		2		○				1					
		人的資源管理論	3後		2		○								兼1	
		非営利組織論	3後		2		○			1						
		小計（23科目）		—	0	46	0	—			6	2	1	0	0	兼6

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	ソ リ ュ ー シ ョ ン （ 技 法 ）	ヘルスリサーチ入門	1前・後	2		○					1			
		社会調査法	3前	2		○			1					
		社会統計学	3前	2		○			1					
		健康統計学	1前・後	2		○					1			
		健康情報解析法	3後	2		○					1			
		ヘルスリサーチの実践	3後	4		○					1			
		小計（6科目）	—	0	14	0	—			1	0	2	0	0
	ソ リ ュ ー シ ョ ン （ 相 談 援 助 技 術 ）	ソーシャルワーク基礎1	1前	2		○			1					
		ソーシャルワーク基礎2	1後	2		○				1				
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	2後	2		○					1			
		相談援助の理論と方法A	2前	4		○			1					兼1 オムニバス
		相談援助の理論と方法B	3前	4		○			1	1				オムニバス
		ソーシャルワーク演習1	2前	2			○			2	1			兼1
		ソーシャルワーク演習2	2後	2			○							兼1
		小計（7科目）	—	0	18	0	—			1	3	1	0	0
	健 康 と 運 動	健康づくり運動の理論とプログラム	1前・後	2		○			1					
		健康づくり運動の実技と指導A	1前・後	1				○	1					
		健康づくり運動の実技と指導B	1前・後	1				○			1			兼1 オムニバス
		健康づくり運動の実技と指導C	2前・後	1				○			1			
		健康づくり運動の実技と指導D	2前・後	1				○				1		兼1 オムニバス
		健康と運動の生理学	2前・後	2		○					1			
		機能解剖とバイオメカニクス	2前・後	2		○						1		
		運動療法と介護予防	3前・後	1				○			1	1		オムニバス
		運動による外傷・障害と救急処置	3前・後	2		○						1		兼1 オムニバス
		小計（9科目）	—	0	13	0	—			1	0	2	1	0

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	メンタルヘルス	心理学概論	1前		2		○				1				
		心と身体のしくみ 1	2前		2		○				1				
		心と身体のしくみ 2	2後		2		○						1		
		精神保健福祉概論	3後		4		○				1				
		健康と運動の心理学	2前・後		2		○					1			
		精神保健の課題と支援 1	2後		2		○			1					
		精神保健の課題と支援 2	3前		2		○					1			
		精神医学 1	3前		2		○			1					
		精神医学 2	3後		2		○			1					
		小計（9科目）	—	0	20	0	—			1	3	2	1	0	
	健康と栄養	栄養学入門	1前・後		2		○							1	
		細胞の構造と機能	1前・後		2		○							1	
		食べ物の化学	1後・2前		2		○							1	
		遺伝と環境	1前・後		2		○							1	
		食品の安全性	1後・2前		2		○							1	
		美と健康の科学	1前		2		○				1				
		加齢と栄養	1後		2		○				1				
		生命の化学 1	1前・後		2		○							1	
		生命の化学 2	1前・後		2		○							1	
		機能栄養学	2前		2		○				1				
機能性食品の開発		3前		2		○				1					
健康科学実習		3前		2				○	1	1		3			
生体分子の分析技術		3後		2		○							1		
体の変化を捉える技術		3後		2		○							1		
小計（14科目）	—	0	28	0	—			1	1	0	3	0			

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	学外実習	フィールドワーク A	1・2休	2				○		1				集中
	学外実習	フィールドワーク B	1・2休	2				○		1				集中
	学外実習	フィールドワーク C	3・4休	2				○	1					集中
	学外実習	インターンシップ A	3・4休	2				○	1					集中
	学外実習	インターンシップ B	3・4休	2				○	1					集中
	学外実習	小計（5科目）	—	0	10	0	—		2	1	0	0	0	
	ゼミナール	健康学専門演習 1	2前	2				○	7	6	6	4		
		健康学専門演習 2	2後	2				○	7	6	6	4		
		健康学専門演習 3	3前	2				○	7	6	6	4		
		卒論演習 1	3後	2				○	7	6	6	4		
		卒論演習 2	4前	2				○	7	6	6	4		
		卒業論文・卒業研究	4後	2				○	7	6	6	4		
		小計（6科目）	—	12	0	0	—		7	6	6	4	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康学部 健康マネジメント学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	資格関連科目	ソーシャルワーク演習 3	3前			2		○			1				兼1
		ソーシャルワーク演習 4	4前			2		○		1	1				
		ソーシャルワーク演習 5	3後			2		○		1		1			
		相談援助実習指導	2後			6		○		3	3	1			兼2
		相談援助実習	3休			6			○	3	3	1			兼2 集中
		精神保健福祉に関する制度とサービス	4前			4	○					1			
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	3前			2	○				1				
		精神科リハビリテーション学	4前			4	○			1					
		精神保健福祉援助実習指導	4前			6		○		1	1	1			兼1
		精神保健福祉援助実習	4休			7			○	1	1	1			兼1 集中
		精神保健福祉援助演習 1	3後			2		○			1				
		精神保健福祉援助演習 2	4前			2		○				1			
		精神障害者の生活支援システム	3後			2	○								兼1
		小計（13科目）	—	0	0	47	—			4	4	2	0	0	兼4
合計（117科目）		—	38	165	47	—			8	6	6	4	0	兼23	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康学部 健康マネジメント学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（健康マネジメント学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。（詳細は別紙参照） （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目 <必修科目> ■共通基礎4単位修得 ■ゼミナール12単位修得（計16単位） <選択必修科目> ■現代社会の理解8単位以上修得 ■ソーシャルウェルネス20単位以上修得 ■ソリューション（技法） ■ソリューション（相談援助技術）4単位以上修得 ■学外実習2単位以上修得（計34単位） <選択科目> ■健康と運動 ■メンタルヘルス ■健康と栄養 の3つの区分より、合わせて22単位以上修得（計22単位） <自由科目> 資格取得希望者のみ履修。卒業要件に含まない。 ■資格関連科目0単位（区分Ⅳ計72単位） ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位30単位修得 合計124単位修得						1 学年の学期区分	2 学期							
						1 学期の授業期間	1 5 週							
						1 時限の授業時間	9 0 分							

教 育 課 程 等 の 概 要														
（健康科学部 社会福祉学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代教養科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61
Ⅳ 主専攻科目	学部総合科目													
	健康科学論	1前・後	1			○			1		2			兼2
	看護福祉パートナーシップ実践法A	3前		1			○			2				兼1
	看護福祉パートナーシップ実践法B	3後		1			○		2					
	小計（3科目）	—	1	2	0	—			3	2	2	0	0	兼3

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	人と社会の理解	人間科学論	1前・後	1			○							兼1
		人間の成長と発達	1前		2		○			1				
		社会学概論	1前・後		2		○		1					
		心理学概論	1前・後		2		○		1					
		人間関係論	1後		2		○			1				
		法学概論	1前・後		2		○							兼1
		小計（6科目）	—	1	10	0	—		2	1	0	0	0	兼2
	感性を育てる	ことばと表現	1前・後		1		○							兼1
		音楽と表現	1前		1		○							兼1
		造形と表現A	1前・後		1		○							兼1
		造形と表現B	1前・後		1		○							兼1
		身体と表現	1後		1		○							兼1
		演劇と表現	1前		1		○							兼1
		小計（6科目）	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼4
	社会福祉学習の基幹演習	社会福祉入門演習 1	1前・後	1				○	1	4	3			
		社会福祉入門演習 2	1前・後	1				○	1	5	3			
		社会福祉専門演習 1	2前・後	1				○	2	4	2			
		社会福祉専門演習 2	2前・後	1				○	2	3	3			
		卒論演習 1	3前・後	1				○	7	9	5			
		卒論演習 2	4前・後	1				○	7	9	5			
		卒業論文・卒業研究	4前・後	4				○	7	9	5			
		小計（7科目）	—	10	0	0	—		7	9	5	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	社会福祉の本質、目的	社会福祉原論 1	1前・後	2			○			1					
		社会福祉原論 2	3前・後	2			○				1				
		社会保障論	1前・後		4		○			1					
		社会福祉発達史 A	2前		2		○				1				
		社会福祉発達史 B	2後		2		○				1				
		小計（5科目）	—	4	8	0	—			2	1	0	0	0	
	社会福祉の領域	高齢者福祉論	2前・後		4		○			1	1				
		障害者福祉論 A	2前・後		2		○					1			
		障害者福祉論 B	2前・後		2		○					1			
		子ども家庭福祉論 A	2前・後		2		○				1	1			
		子ども家庭福祉論 B	2前・後		2		○					1			
		女性福祉論	2前		2		○					1			
		公的扶助論	2前・後		2		○			1					
		地域福祉論 A	2前・後		2		○				1				
		地域福祉論 B	2前・後		2		○			1					
		就労支援	3前・後		1		○			1		1			
		権利擁護と成年後見	3前・後		2		○					2			
		更生保護	3前・後		1		○								兼1
		小計（12科目）	—	0	24	0	—			3	2	3	0	0	兼1
IV 主専攻科目	社会福祉の援助活動と技術	福祉計画論	2前・後		2		○			1					
		相談援助の基盤と専門職 1	1前・後	2			○				1				
		相談援助の基盤と専門職 2	1前・後	2			○				1				
		相談援助の理論と方法 A	2前・後		4		○			1	1				
		相談援助の理論と方法 B	2前・後		4		○			1	1				

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	社会福祉の援助活動と方法、技術	精神保健福祉援助技術総論	2後	2		○				1				兼1
		社会福祉調査論	2前・後	2		○			1					
		スクールソーシャルワーク論	2前	2		○								
		精神保健福祉援助技術各論	2後	4		○				1	1			
		相談援助演習A	3前・後	1			○			2	2			
		相談援助演習B	3前・後	1			○			2	1			
		相談援助演習C	3前・後	1			○			2	1			
		相談援助演習D	3前・後	1			○		1	2	1			
		精神保健福祉援助演習1	3前・後	1			○			1				
		精神保健福祉援助演習2	3前・後	1			○			1				
		ヒューマンサービス演習1	1前・後	1			○			1				
		ヒューマンサービス演習2	1前・後	1			○			1	1			
		ヒューマンサービス演習3	1前・後	1			○			1				
		相談援助演習E	3前・後	1			○		1	1	1			
		スクールソーシャルワーク演習	3後	1										兼1
		小計（20科目）	—	5	30	0	—		3	7	4	0	0	兼1
	社会福祉実習	社会福祉実習入門	1前・後	2		○				1	3			兼2
		社会福祉現場実習指導1	2前・後	1			○		3	5	3			
		社会福祉現場実習指導2	2前・後	1			○		4	5	3			兼1
		社会福祉現場実習指導3	3前・後	1			○		3	5	3			兼2
		社会福祉現場実習A	3前・後	4				○	4	5	3			兼2
		社会福祉現場実習B1	3前・後	2				○	4	5	3			兼2

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	社会福祉現場実習B 2	3前・後		2				○	4	5	3			兼2
	社会福祉現場実習C 1	3前・後		1				○	4	5	3			兼2
	社会福祉現場実習C 2	3前・後		3				○	4	5	3			兼2
	介護福祉現場実習指導 1	2前		1			○		1	1	1			
	介護福祉現場実習指導 2	2後		1			○		1	1	1			
	介護福祉現場実習指導 3	3前		1			○		1	1	1			
	介護福祉現場実習指導 4	3後		1			○		1	1	1			
	介護福祉現場実習 1	2前・後		2				○	1	1	1			
	介護福祉現場実習 2	2前・後		3				○	1	1	1			
	介護福祉現場実習 3	3前・後		1				○	1	1	1			
	介護福祉現場実習 4	3前・後		4				○	1	1	1			
	精神保健福祉現場実習指導 1	3後		1			○		1	2	1			
	精神保健福祉現場実習指導 2	3前		1			○		1	2	1			
	精神保健福祉現場実習指導 3	3後		1			○		1	2	1			
	精神保健福祉現場実習 1	3前・後		2				○	1	2	1			
	精神保健福祉現場実習 2	3前・後		3				○	1	2	1			
	スクールソーシャルワーク実習指導	3前		1			○							兼1
	スクールソーシャルワーク実習	3後		2				○						兼1
	社会福祉専門実習	4前・後		2				○	7	9	5			
	小計（25科目）	—	0	44	0	—			7	9	5	0	0	兼3

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみA	2前・後	4		○			1					兼1
		こころとからだのしくみB	2前・後	2		○								兼1
		こころとからだのしくみC	2前・後	2		○			1					
		老人心理学	2前・後	2		○			1					
		障害者心理学	2前・後	2		○				1				
		障害者の理解1	3前	1			○				1			
		障害者の理解2	3後	1			○							兼2
		認知症の理解1	3前	1			○				1			
		認知症の理解2	3後	1			○				1			
		小計（9科目）	—	0	16	0	—		2	1	1	0	0	兼3
	関係領域	日本国憲法	1前・後	2		○								兼1
		福祉科教育法1	2前	2		○					1			
		福祉科教育法2	2後	2		○					1			
		小計（3科目）	—	0	6	0	—		0	0	1	0	0	兼1
IV 主専攻科目	介護	介護概論	2前・後	4		○				1				
		リハビリテーション論	2前・後	2		○								兼2
		生活支援技術1	1前・後	1		○				1				兼1
		生活支援技術2	2前	2		○				1				兼2
		生活支援技術3	2後	2		○				1				兼2
		生活支援技術4	2前・後	2		○								兼1
		生活支援技術5	3前・後	2		○								兼1
		生活支援技術6	3前・後	2		○								兼2

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 社会福祉学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	介護	生活支援技術 7	3前・後	1		○								兼1
		生活支援技術 8	3前・後	1		○								兼3
		介護過程 1	2後	1		○			1					
		介護過程 2	2前	1		○					1			
		介護過程 3	3後	1		○			1					
		介護過程 4	3前	1		○					1			
		介護過程 5	3後	1		○			1					
		介護コミュニケーション技術 1	2前	1		○			1					
		介護コミュニケーション技術 2	2後	1		○			1					
		医療的ケア 1	3後	4		○					1			
		医療的ケア 2	3前	1			○				1			
		医療的ケア 3	3後	1			○				1			兼1
		小計（20科目）	—	0	32	0	—		1	1	1	0	0	兼1
IV 主専攻科目	保健医療福祉	医療福祉論	2前・後	2		○			1					兼1
		精神保健福祉論	2前	4		○				1	1			
		精神障害者の生活支援システム	2後	2		○								
		精神医学	3後	4		○			1					
		精神保健学	3前	4		○			1		1			
		精神科リハビリテーション学	3前	4		○			1					
		小計（6科目）	—	0	20	0	—		2	1	1	0	0	兼1
IV 主専攻科目	国際社会福祉	国際社会福祉論	2後	2		○				1				
		社会福祉英語	2後	1		○				1				
		国際福祉演習 A	3前・後	2			○			1				
		国際福祉演習 B	3前・後	2			○			1				
		小計（4科目）	—	0	7	0	—		0	1	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学部 社会福祉学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ 主専攻科目	社会福祉の運営、経営	社会福祉管理運営論	3前・後		2		○				1				
		社会福祉施設論	3後		2		○					1			
		社会福祉行財政	3前・後		2		○				1				
		小計（3科目）	－	0	6	0	－			0	2	1	0	0	
	福祉情報科学	保健福祉情報科学 1	1前・後	1			○			1					
		保健福祉情報科学 2	2前・後		1		○			1					
		小計（2科目）	－	1	1	0	－			1	0	0	0	0	
	講社会福祉特	社会福祉学特講	1前・後		2		○					1			
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	1	0	0	
	地域社会への貢献	地域保健福祉活動論	1前		2		○			1					
		生涯健康活動論	1後		2		○			1					
		ボランティア論	1前		2		○			1					
		手話コミュニケーション	1後		2		○								兼1
		レクリエーション活動援助法	1後		2		○								兼1
		小計（5科目）	－	0	10	0	－			2	0	0	0	0	兼2
	合計（151科目）		－	36	236	0	－			7	9	5	0	0	兼103
	学位又は称号	学士（社会福祉学）			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係						
	卒業要件及び履修方法									授業期間等					
	以下の合計で124単位以上修得する。（履修科目の登録の上限：24単位（1学期））									1 学年の学期区分		2 学期			
□科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）：4単位修得									1 学年の授業期間		1 5 週				
□科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得															
体育科目（必修科目）：2単位修得									1 学期の授業期間		1 5 週				
□科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目（必修科目）：8単位修得															
□科目区分Ⅳ 主専攻科目（必修科目）：22単位修得									1 時限の授業時間		9 0 分				
(選択科目)：40単位修得															
□科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位：42単位修得									1 時限の授業時間		9 0 分				
合 計：124単位修得															

授 業 科 目 の 概 要				
(健康学部 健康マネジメント学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。		
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
		社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
		自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
		ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
		地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
		国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	
IV 主専攻科目	共通基礎	健康学概論	この科目は、現代社会の健康・福祉問題、地域社会の課題、健康社会の設立等の必要性を理解することを目的とした、新入生を対象とした科目である。健康社会を実現するために必要な、社会的、経済的な要素に加え、こころ、運動、栄養に視野を広げ、基本的な健康を理解することを目的とする。従来の勘と経験による健康法ではなく、「科学的証拠（エビデンス）」に基づく、健康な個人・社会の実現」に焦点を置き、高齢化・少子化・グローバル化等による生活環境・社会環境の変化を、広い視野で総合的に捉えるための基礎となる科目である。	
		健康学入門演習 1	「健康学入門演習 1」では、健康学に対して抱いた興味や関心を、より明確なものにするため、①大学で学ぶことの意義、②「健康」とは何か、③現代社会における「健康学」の課題とは何か等について、現代社会の問題点を把握し考察する力を養う。また、大学での学習方法を身に付け、大学で学ぶということの意味を明確にすることを目的とし、少人数のグループで「読む」「書く」「話す」「聞く」「理解する」など、大学での学修を深めていくための基礎的な力を培うことも目的とする。	
		健康学入門演習 2	「健康学入門演習 2」では、自分の課題と希望を明確化していくために、現代社会における「健康を巡る諸問題」を知り、考察する力を身に付けていく。具体的には、「健康学入門演習 1」で培った「読む」「書く」「話す」「聞く」「理解する」力を更に向上させるため、ゼミ形式の授業で、「調べる」「議論する」「まとめる」等を実際に行い、「健康」に対しての広い視野の獲得と、自ら考えることが出来る力を養っていく。また、「健康」を学ぶ大学生として、「その課題や、将来の進路、健康との関わり方」についても考える授業とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	現代社会の理解	環境と健康 A	現代社会は、多様な考えが錯綜し、我々を取り巻く環境も刻々と変化している。そして、ここに生じる問題は、非常に広い範囲でお互いに影響を与えている。これらの問題を解決するためには、新しい技術や考え方等を複合的に捉えて、問題を解決することが必要であり、“幅広い視野で物事を捉え、結合して考える力”を身に付けることが不可欠である。この科目は、“健康に関わる最新的话题として、運動経験による情動など心理社会的な発達”をテーマに、学生自身が「健康社会の創設」に向けて、分析し、考える力を養うことを目的にしている。	
		環境と健康 B	現代社会は、多様な考えが錯綜し、我々を取り巻く環境も刻々と変化している。そして、ここに生じる問題は、非常に広い範囲でお互いに影響を与えている。これらの問題を解決するためには、新しい技術や考え方等を複合的に捉えて、問題を解決することが必要であり、“幅広い視野で物事を捉え、結合して考える力”を身に付けることが不可欠である。この科目は、健康に関わる最新的话题として、“スポーツと健康の関連性などのライフスタイルの形成”をテーマに、学生自身が「健康社会の創設」に向けて、分析し、考える力を養うことを目的にしている。	
		環境と健康 C	現代社会は、多様な考えが錯綜し、我々を取り巻く環境も刻々と変化している。そして、ここに生じる問題は、非常に広い範囲でお互いに影響を与えている。これらの問題を解決するためには、新しい技術や考え方等を複合的に捉えて、問題を解決することが必要であり、“幅広い視野で物事を捉え、結合して考える力”を身に付けることが不可欠である。この科目は、健康に関わる最新的话题として、“生物心理社会モデル”をテーマに、学生自身が「健康社会の創設」に向けて、分析し、考える力を養うことを目的にしている。	
		社会学	この科目の目標は、社会のあり方や出来事に対する日頃の何気ない疑問に対して、その成り立ちや仕組みから、改めて問い直す「社会学的なものの見方」を身につけることにある。したがって、この授業では、社会学の伝統的理論や学説史を概説するのではなく、現代の日本社会の諸現象（例えば「少子化」「ニート」等）を素材に、統計資料や新聞記事等を用いることにより、日常生活における身近な問題を科学的に思考する方法論を学び、社会的な健康を取り巻く多様な分野・考え方を結びつける力を、養うことを目的にしている。	
		現代社会と福祉 A	この科目は、社会福祉学の基礎理論を、体系的に学習する科目である。社会福祉は、身近な人々の相互の助け合いから、社会連帯による助け合いの「社会的な仕組み」へと発展してきた。その発展に導いた「社会福祉の思想や理念」を理解し、社会的な仕組みとして成立した「社会福祉制度」を学び、その意義や重要性を考える。講義内容として、福祉社会の状況や今後予測される問題点等を踏まえ、その理念、現状や将来との矛盾点、現代社会における社会福祉の原理、哲学、ニーズ、資源、サービス等に関する理論を学習する。	
		現代社会と福祉 B	この科目は、社会福祉学の基礎理論を、体系的に学習する科目である。社会福祉は、身近な人々の相互の助け合いから、社会連帯による助け合いの「社会的な仕組み」へと発展してきた。その発展に導いた「社会福祉の思想や理念」を理解し、社会的な仕組みとして成立した「社会福祉制度」を学び、その意義や重要性を考える。講義内容として、①社会福祉制度と福祉政策の概念、②社会福祉制度の発達過程、③社会福祉の支援方法とその原則、④福祉サービスの供給組織と体制、⑤社会福祉の関連領域、⑥社会福祉の資格と専門職など、現代社会での福祉の役割を学習する。	
		コミュニティデザイン論	この科目は、日本におけるコミュニティの特徴、コミュニティ政策の動向、その背景や将来性について理解し、地域社会をデザインするための基本的な考え方、コミュニティにおけるガバナンスのあり方、健康と地域社会との関わり方について考察する。加えて、近年、地域の課題を、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みとして注目をあびている、コミュニティビジネスについても学び、コミュニティと企業の関わり方、様々な問題解決方法など、コミュニティの将来性について、実践的に考察し理解することを目的とする。	
		公衆衛生学	公衆衛生は、複数の分野から捉える必要がある。具体的には、健康の維持増進や、疾病の発症に影響する人口動態などの社会状況や、食生活などの生活環境の変化、食品衛生、労働衛生から産業医学、保健福祉医療制度など、健康社会の実現には不可欠な概念である。この科目では、社会と医療・福祉の関わりを、疫学調査のデータを交えながら、公衆衛生の基礎的概念、疾病予防とそのための疫学調査法などの知識を得ることを目的とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ソ ー シ ヤ ル ウ ェ ル ネ ス	ウェルネス総論	「健康社会」の実現には、現代の社会保障制度、行政、コミュニティ、民間企業等の各分野に加え、運動、栄養、こころ等の「健康」を構成する分野を総合的に理解し、それぞれの分野を繋げるコーディネーターが必要である。この科目は、現代社会の実態や問題、運動までを含めた広い分野での健康にアプローチして、現代社会の制度や仕組みの理解の深化への手助けと、幅広い分野の融合への方向性を示す科目である。また、健康づくりの概念と歴史、推進するための施策についても学び、その成果と今後の課題を理解する。	
		ウェルネス経営論	「健康社会」の実現には、健康産業とコミュニティや行政の連携が不可欠であり、実際にその繋がりには伸展している。この科目では、健康産業の歴史や現状及び課題を学ぶとともに、健康に関連する事業を、効果的に運営するための方法論、地域との繋がりについて学ぶ。具体的には、市場調査や経営計画の策定、施設の管理・運営に関する事項（財務管理、顧客管理、メンテナンスなど）、人材の確保と育成に関する事項、リスクマネジメントに関する事項などについて取り上げ、従事する専門家の役割や資格、行政との関わり等、業界の動向についても紹介する。	
		生命倫理学	人間の健康や福祉を学ぶ際には、医学や生命科学等の科学技術の進展と、人間と社会の在り方について考察する必要がある。本科目では、科学技術研究の本質的な性質と、道徳や哲学、倫理等との関係を踏まえ、「ヒト」を対象とする科学や技術開発の歴史、そこから得られる教訓や問題点を理解する。その上で、急速に進展する技術がもたらす「貢献」、「倫理的課題」、「社会的課題」等を概括的に理解するとともに、臨床や研究において重要となる、インフォームド・コンセントの概念や対象者の権利擁護についても理解する。	
		介護学入門	介護（ケアワーク）は、家庭や近隣で昔から行われてきた「見守り」や「世話」の延長であると同時に、高齢社会を迎えた現代社会においては、「外部化された社会化された専門的な支援活動」になっており、多様なシーンで「介護の基礎的知識やスキル」が求められている。この科目は、健康社会における介護を考える上で必要な、介護福祉の理念・目的、必要とする人々の状況、介護の展開方法を理解し、専門的な支援活動に求められる基本な考え方、姿勢、知識、技術の習得を目的とする。	
		地域福祉の理論と方法A	「健康社会」の実現に向かうためには、地域福祉が重要視されるようになった経緯を歴史的に学習し、近年の「地域主権」の確立に重点をおく国の政策動向と、その背景にある問題点を理解する必要がある。この科目は、地域福祉の推進のためのネットワーキングの技法、資源開発、サービスの評価方法等についての理解を深め、わが国の地域社会の変貌について、中・長期的なスパンで理解し、将来的な「地域と健康の関わり」や「地域の自立と創造」に対して、どのような社会システムを構築できるか考察していくことを目的とする。	
		地域福祉の理論と方法B	この科目は、社会福祉の主流・主軸としての「地域における福祉＝地域福祉」が、どのような枠組みで、何を大切に、何をめざして営まれているのか、また誰がどのように関りながら、どのような機能を担っているのかを理解し、考察する科目である。講義を通じて、急速に進む少子高齢社会における喫緊の課題である「地域福祉の主体者と受給者の関係性」を正しく理解し、「持続可能なコミュニティづくり」のあり方や、地域福祉の理想像・モデル像を考察する力、デザインする力を育成することを目的とする。	
		高齢者と福祉	急速な少子高齢化、特に75歳以上の後期高齢者の増加は、年金・医療・介護等の諸問題に影響を与えており、高齢者の生活ニーズや社会的支援の必要性や問題点を把握することは、「将来の高齢者福祉、健康社会の必要性」をデザインする上で必要不可欠になっている。この科目は、高齢者の生活状況やニーズ、高齢者福祉の歴史と理念、高齢者保健福祉に関する法制度、高齢者の権利擁護、介護保険制度の概要と各サービス、高齢者の環境の整備、高齢者のケアマネジメントと支援サービス等の理解を深め、問題点を探ることを目的とする。	
		障害者と福祉	今日のわが国の障害者福祉は、行政努力、当事者運動、国民の人権意識などに加え、国際障害者年や、各種の国際会議などの影響もあり、制度的にも実践的にも相応の発展を遂げている。この科目は、障害者福祉の基底に流れる理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション）、障害の概念、障害者の実態、障害者福祉の歴史、身体障害者、知的障害者、精神障害者に対する福祉施策・制度、障害者福祉の関連分野等について学び、広い観点から健康社会の実現を考える力を養うことを目的とする。	
		子ども家庭と福祉	子どもを「権利の主体者」として考えると、その権利を理解して行使するためには、子ども家庭福祉は何をしたらよいのか、発達の途上にある子どもが、健やかに生まれ育つためには何をしたらよいのか等、子ども・おとな・社会のあり方や、関係性を把握することが必要になる。この科目は、子どもが健やかに生まれ、育つための支援のあり方や、環境づくりのための子ども家庭福祉の理念、子どもや家庭を支える制度や施策等について、子どもの発達保障と子どもの権利の観点から、現状の制度と問題点の理解を深めることを目的とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ソ ー シ ヤ ル ウ ェ ル ネ ス	生活困窮と公的扶助	この科目では「公的扶助」のあり方を左右する、「貧困認識のプロセス」の考察を進める。具体的には、公的扶助の理念と制度の展開、現代社会における公的扶助の意義と役割、代表的な公的扶助制度としての生活保護制度の現状と課題等について、現代社会の「地方分権」「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」等の中で、今後の方向性はどのようにあるべきか等を中心に考察し、社会的健康と経済的健康とは何かについて考察し、理解を深めていく。	
		自立支援とテクノロジー	人間が快適に自立した生活を送るためには、様々な物理的・心理的環境を整備していく必要があり、この観点から「健康社会」を考える必要がある。この科目では、まず人間の生活に焦点を当て、人間の諸機能について理解を深めるとともに、快適で自立した生活を送るための環境整備の方策を考察することを目標とする。さらに、加齢や疾病、外傷によって機能の低下した人々の自立を支援するための、工学的方策や、自立が困難なケースにおける、介助負担を軽減させる機器や用具、住環境整備など物理的な整備を改善するテクノロジーに関する知識と情報について学ぶ。	
		社会保障A	現代社会における「社会保障」は、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持や向上のために必要不可欠な政策・制度となっている。わが国も例外ではなく、「社会保障制度」は、人々の健康に生きることや、普段の生活にとって不可欠な“社会的な仕組み”となっている。この科目は、これらの現状を理解し、わが国の社会保障制度の全体像と、その根幹となる様々な社会保険制度の現状を理解し、問題点や課題を考察する力を養うことを目的とする。	
		社会保障B	この科目は、日本の社会保障制度・政策の現状や課題について、制度と実態の両面から理解を深め、考察力を育成する。健康社会の実現に向けては、より深く日本の制度・政策の特徴・問題点を理解し、多角的な視点から物事を分析する必要がある。具体的には、国際比較の視点を含め、異なった国々における社会保障のあり方について学び、「年金保険と医療保険」等を例に、問題点の把握、分析、課題の抽出方法等についての理解を深める。	
		保健医療サービス	人々の健康と福利の増進を目指すためには、医療・保健・福祉等のサービスの制度・構成・成り立ちの理由等について、その時代状況と併せて理解する必要がある。具体的には、①保健医療の社会的使命ならびに社会福祉とのかかわりの概要、②医療制度の変遷と現行制度の概要、③保健医療ソーシャルワーク実践の概要、④保健医療ソーシャルワークの実践モデル、知識・スキル、⑤インフォームド・コンセントを含む患者の権利保障の概要等を学び、現代社会で必要とされている「健康」について考える。	
		公共政策	近年、公共課題の担い手の多様化により、政府部門に限定されない社会的な課題解決の営みを、総合的に分析する必要性が高まっている。この「ガバナメントからガバナンスへ」という考え方は、「健康社会」を社会全体で成し遂げるためには必要な視点である。また、公共部門の管理という視点からビジネスのマネジメント手法を活用した公共経営という視点への転換も求められている。本講義では、保健、福祉、医療、教育、労働、環境などの、社会全体にかかわる公共的課題のための政策を理解する上で必要な視点を学ぶ。	
		福祉行財政と計画	本授業では、限られた財政等の条件における、自治体の、福祉財政の立案・意思決定方法等について学習する。具体的には、①医療保険や介護保険の財政構造と、国の財政状況や各保険者の収支状況、②保健医療計画、介護保険事業支援計画、地域医療構想、地域福祉計画など、地方分権化における、自治体が主体となる医療福祉分野での立案やその意思決定方法、③救急医療や産科医療、終末期医療や在宅医療や介護等の地域の医療福祉計画のあり方、について健康社会の実現への取り組み方を、現状の社会を理解しながら学ぶ科目である。	
		権利擁護と成年後見制度	近年、多くの福祉サービス利用について「契約化」が進み、知的障害、精神障害、認知症等により、判断能力が不十分な人々の「権利擁護の仕組み」が不可欠になってきた。また、消費者被害や高齢者・障害者虐待等といった権利侵害に関する社会問題もクローズアップされる中で、専門職のみならず、一般市民にとっても、これらの権利侵害に対する知識や技術を修得する必要性が増している。この科目は、具体的な事例を用いながら、現代における「権利」と、その「守り方」を考え、より現実的な問題から「健康社会」について考える科目である。	
		健康経済論	我が国の医療費は毎年過去最高を更新し、現在では40兆円を超える規模となっている。20兆円を超える産業は、不動産、自動車など数えられる程しかなく、医療健康産業は大きな産業セクターとなっている。このように、医療費の増大は、国にとつての重大な政策課題であると同時に、企業にとつても重要な経営課題となっている。この科目は、経済的な視点から医療や健康問題を考察するとともに、新しい経営概念である「健康経営」について実例の紹介を含めて学び、経済的健康のあり方の理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	ソーシャルウェルネス	健康産業論	厳しい経済情勢の続く中、「健康産業」は国の成長戦略にも挙げられ、今後も成長が見込まれる産業である。この分野には、病院や福祉施設の他にも、食品、医療機器、高齢者住宅、スポーツやフィットネス、ツーリズム、ICT等、様々な分野の産業が密接に関係しており、複合的な一大産業化が進んでいる。この科目は、実際に企業家の話を交えながら、変化の大きい健康産業界において、多様な情報の集約や分析の重要性や、企画力の重要性を認識し、「健康社会」を産業面から理解することを目的とする。	
		多職種連携論	健康社会の実現にあたり、高齢者等から生じる健康や福祉など複合的なニーズは、自治体や企業等の「専門家」だけでは対応出来ない。解決には、自治体と企業の連携に加え、当事者・市民・友人等の連携といった、日常生活を含めた総合的な協力体系が必要である。この科目は、「連携」「協働」「合意形成」「チームマネジメント」などの理論と方法、異質性のある他者と協力して支援を展開する際に必須となる「カンファレンス」等の構築方法等を学び、自治体や企業の連携から日常生活での連携までを、その手法を交えて身に付けることを目的とする。	
		福祉サービスの組織と経営	健康や福祉にかかわる組織の「運営」を考察・検証する際には、個別機関や施設からの視点だけでなく、社会福祉全体の仕組みや、政策動向に対する視点も求められる。また、主体となる団体や企業の態度や責任等の指針の持ち方も、重要な要素となる。この科目は、現状の組織や団体を例に理解を深め、具体的な課題を考察・分析することにより、「アドミニストレーション」あるいは「マネジメント」とよばれる、社会福祉の運営管理の基礎と病院施設の経営等について理解を深めることを目的とする。	
		人的資源管理論	企業の経営活動の中で「人材」は重要な役割を担っており、それぞれの職務能力を発揮しながら、経営活動の基盤となっている。この科目では、人間の能力と、その能力を測定する方法についての理解に加え、職務遂行の原動力となる、モチベーション理論についての理解を深める。また、自己の能力を十分に発揮できる職場環境を構築するための方策や、企業において実施されている人材育成や能力開発の事例についても講義し、健康社会の実現に向けた、自治体や企業における「人材」という資源の価値と、その管理方法について、理解を深めることを目的とする。	
	ソリューション（技法）	非営利組織論	健康社会を実現するためには、自治体や企業に加え、コミュニティ、友人を含め、多くの協力体制が必要である。現在の社会において、NPO団体は多様な目的を持って存在し、重要な役割を担っている。このNPOの存在理由や意義、営利組織や行政機関との本質的な相違点、世界的に役割が目される理由、寄付やボランティア活動の運営方法やマネジメント方法等について、法制や税制等の制度面や国内外の比較を通じて現状を理解し、今後の課題や改革の必要性等について考察する。	
		ヘルスリサーチ入門	健康社会を実現するためには、現代の社会保障制度、行政、コミュニティ、民間企業等の各分野を総合的に理解し、それぞれの分野を繋げるコーディネーターが必要である。この科目は「ソリューション（技法）」分野の基幹科目として、健康的に社会生活を送るために不可欠である「社会制度」「運動」「栄養」等の分野からの「情報」を調査・統計によりキャッチし、これらを「結びつける」力を養う科目である。具体的には、「社会科学的な調査と疫学調査」について、歴史、目的、方法論、倫理、種類（質的調査と量的調査）、特徴、分析方法等の基礎を学習する。	
		社会調査法	この科目では、様々な健康分野の情報を収集・分析するために、社会人として必要な「リサーチ・リテラシーの獲得」と“社会調査の理論と方法の理解”を目指し、問題発見、調査の企画、実施、分析にいたる一連の作業手順及び、実践への応用の視点を学習する。主な講義内容は、①社会調査の射程と主題、②社会調査のデザイン、③社会調査の実例、④質的調査の方法、⑤サンプリングの理論とデザイン、⑥量的調査におけるデータ分析、⑦実験計画法、⑧資料分析、⑨「統計」の社会的構築等とし、社会調査の方法について理解を深める。	
		社会統計学	収集した様々なデータを分析し、公的統計・調査報告・フィールドワーク論文を理解し、様々な意思決定に繋げるためには、統計学のスキルが不可欠である。この科目は、単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データ及びグラフの読み方に加え、相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを学び、これらを用いた計算や作成の仕方、データ処理、分析等を行い、社会調査に必要な知識とスキルの獲得を目指す。	
		健康統計学	世の中に存在する健康情報は、社会調査などによる意思決定のための基礎情報の他、栄養や運動に関連する情報、遺伝子の多様性や環境の情報など、多くの分野を跨り多数存在しており、これらの情報の真偽を、感覚で判断することは不可能である。この科目は、収集した情報の「科学的な根拠・証拠」の持たせ方、その真偽の見極め方等、「統計学」の手法を用いて理解することを目的とする。具体的には、実際の健康情報を用いて、統計学の基礎知識の習得と、初歩的な解析技術を身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	ソリューション（技法）	健康情報解析法	現代社会においては、多様化する考え方や複雑・多元化する社会構造、通信技術の発展によるスピード化等により、「生まれてくる情報」も日々変化している。また、健康に関連する情報も、様々な分野に跨って膨大な量が存在し、これらの情報についての管理方法や真偽を見極める能力は、重要なスキルになっている。この科目は、分析対象や結果の科学的証拠等を理解し判断する力を育成するために、実際に収集したデータを用いて、解析や検討等の「演習」を行い、情報の取り扱い方や、解析・分析方法・解析技術を身に付けることを目的とする。	
		ヘルスリサーチの実践	この科目は、学生自身がヘルスリサーチを実践出来るように、基礎的な知識の確認作業に加え、実際に調査を立案、設計、実施し、データ入力と編集、解析に至るまで、一連の作業を全て経験し、結果を導く力を身に付けることを目的とする。調査は「健康的な社会の実現」をテーマに、履修者の関心に応じて、公的統計を利用する方法や、実際にクラス内で社会調査を実施する方法、あるいは大学で行っている研究事例を活用する。また、授業の集大成として、調査報告書を作成するとともに、その成果を発表し、実践的な力を育成する。	
	ソリューション（相談援助技術）	ソーシャルワーク基礎 1	「健康社会」を実現するためには、「こころ」が重要な要素の一つとなる。この科目では、ソーシャルワークの方法・技術の基幹科目として、「時代状況や社会制度等の中で、人々がどのような生活課題や健康・福祉のニーズを有するか」を理解し、社会福祉の専門家の役割、支援が行われる多様なケース、支援の対象者と専門家の関係性、支援の展開過程の特徴を把握する。その前提として、ソーシャルワークの目的や原則が価値や倫理に基づくものであることを理解し、支援の意味について具体的に考え、専門職としての姿勢を体得することを目的とする。	
		ソーシャルワーク基礎 2	この科目は、相談援助における人と環境との交互作用について理解するとともに、相談援助の対象と、様々な実践モデルについて理解することを目的とする。具体的には、相談援助が、人々の自発的な相談から専門家による介入まで、様々なバリエーションがあることを踏まえ、その目的、実施機関の機能、時間的枠組み、専門家が用いる実践モデル、利用者のワーカビリティなど、多様な要素が関係しながら実施される「相談援助の過程」を理解し、実践に繋げるための基礎的な理論と技術を理解する。	
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	この科目は、健康社会の実現に必要な不可欠な「こころの健康」に関する知識や考え方の習得を目指す。具体的には、現代社会において、支援が必要である精神障害を有する人々や、家族の社会生活について、主にケースワークの観点から検討し、当事者が有するストレングスやレジリエンスを踏まえた支援方法を理解する。加えて、精神障害者の疾病および障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）、精神障害者ケアマネジメント、精神障害者を対象としたその他の援助技術について、実際の事例に基づいて理解する。	
		相談援助の理論と方法 A	（概要）ソーシャルワークの実践においては、対象者の家族まで視野に入れて、支援を提供することが多く、小集団とのかかわりは、福祉の観点だけでなく「健康」を構成する各分野や、地域が提供するサービスにおける諸活動などにも応用ができる。この科目では、ソーシャルワークの対象のうち、家族に対する支援と、小集団を媒介とする支援についての理論と方法を学ぶ。具体的には、家族の理解、社会環境の理解、小集団の理解、コミュニケーション方法、支援展開等について、その理論と方法を実践的に学習して理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （6 堀越由紀子／8回） 家族に対する支援についての理論と方法を教授する。 （46 舩松克代／7回） 小集団を媒介とする支援についての理論と方法を教授する。	オムニバス方式
		相談援助の理論と方法 B	（概要）ケースマネジメントは、福祉や健康等において「複合するニーズ」を有する人々の支援方法として、脱施設化の潮流のなかで誕生した思想・方法論であり、健康社会の実現や維持には必須の考え方である。この科目は、利用者のニーズを満たすための、“社会資源の開発・活用を支援するための理論や方法”に加え、“支援を提供する組織における、運営プロセス、利用者へプラス効果をもたらすための活動”等について、その理論と具体的な方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （6 堀越由紀子／8回） ソーシャルワークの理論の変遷を講義するとともに、伝統的な実践モデルと現代への応用について、問題解決アプローチ及び統合的モデルについて教授する。 （14 菱川愛／7回） 進化した実践モデルと応用について、エンパワメントアプローチ及び解決志向アプローチについて教授する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ソ リ ユ ー シ ョ ン （ 相 談 援 助 技 術 ）	ソーシャルワーク演習 1	ソーシャルワークなど、人々の福祉や健康に関連する実践領域では、多様な人々との関わり合いが必須である。その際、支援者には「いかなる相手とも良好な関係を形成していく力」や「コミュニケーション力」が求められることに加え、「相手を尊重し、信頼関係を樹立していく姿勢」も必要となる。この科目は、相談援助の理論と方法の一環として、カウンセリングの思想等の基礎的な枠組みに加え、演習を交えて実践的に学び、人々の健康を成し遂げる際に必要であるスキルを身に付けることを目的とする。	
		ソーシャルワーク演習 2	この科目は、福祉をはじめとする「対人支援」において必要である、①援助者の物の見方・考え方、②非言語表現と言語表現、③コミュニケーションスキル（傾聴、共感、応答、一致、明確化）、④基本的な援助プロセスについて、演習形式で体験することにより理解を深めることを目的とする。具体的には、小集団（グループ）を活用した支援方法の知識とスキルを統合し、認知行動理論とストレングス理論を基盤とした、生活技能訓練（SST）により、人々の健康を成し遂げる際に必要であるスキルを身に付ける。	
	健 康 と 運 動	健康づくり運動の理論とプログラム	運動は、プロから個人まで、その広がりには多様であり、運営主体から見ても、行政や企業等の団体から個人にまで広がっている。健康社会を実現するための「運動」を考えると、その実践方法を身に付けることにより、様々な場面で、健康のための運動を、効果的に広め、継続していくことが可能になる。この科目は、以上を目的とする『健康と運動』科目群の基幹科目であり、「健康づくりを目的とした運動」の必要性や効果について学び、対象や運動目的（疾病予防、介護予防、体力向上等）を考慮した、安全で効果的な運動理論を習得する。	
		健康づくり運動の実技と指導 A	健康社会を実現し、維持するためには、「運動」の正しい理解と、それを広める力が必要になる。この科目は、正しい運動方法とその指導法を身に付け、健康社会を構成する多様な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。具体的には、レジスタンスエクササイズ（筋力トレーニング）を中心に、フリーウエイトやマシンを使用したエクササイズ、器具を使用しなくても実施できる自分の体重や徒手抵抗によるエクササイズの実技を実際に経験し、健康を広めるための指導法を習得することを目指す。	
		健康づくり運動の実技と指導 B	（概要）健康社会を実現し、維持するためには、「運動」の正しい理解と、それを広める力が必要になる。この科目は、正しい運動方法とその指導法を身に付け、健康社会を構成する多様な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。具体的には、生活習慣病の予防、呼吸循環機能の改善などを目的とした有酸素性トレーニング（ウォーキング、ノルディックウォーキング、ジョギング、エアロビックダンス）の実技を実際に経験し、健康を広めるための指導法を習得することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （20 西垣景太／8回） ウォーキング、ノルディックウォーキング、ジョギングの実技に関して、正しい運動方法とその指導法を教授する。 （36 加藤健志／7回） エアロビックダンスの実技に関して、正しい運動方法とその指導法を教授する。	オムニバス方式
		健康づくり運動の実技と指導 C	健康社会を実現し、維持するためには、「運動」の正しい理解と、それを広める力が必要になる。この科目は、正しい運動方法とその指導法を身に付け、健康社会を構成する多様な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。具体的には、体調調整や疲労回復にも用いられるコンディショニング法として、ストレッチング、ウォーミングアップとクーリングダウン、各種体操、形態・体力測定方法の実技を実際に経験し、健康を広めるための指導法を習得することを目指す。	
		健康づくり運動の実技と指導 D	（概要）健康社会を実現し、維持するためには、「運動」の正しい理解と、それを広める力が必要になる。この科目は、正しい運動方法とその指導法を身に付け、健康社会を構成する多様な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。具体的には「水泳」を取り上げ、各種泳法の実技や、健康増進を目的とした水泳指導法に加え、水中ウォーキング、水中レジスタンスエクササイズ、水中ストレッチング、水を使ったレクリエーション、各種リカバリー法などの実技実際に経験し、健康を広めるための指導法を習得することを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （21 遠藤慎也／8回） 各種泳法の実技や、健康増進を目的とした水泳指導法に加え、水中ストレッチング、水を使ったレクリエーション、各種リカバリー法などに関して、正しい運動方法とその指導法を教授する。 （36 加藤健志／7回） 水中ウォーキングや水中レジスタンスエクササイズなどに関して、正しい運動方法とその指導法を教授する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康と運動	健康と運動の生理学	人が健康に社会生活を送るためには、身体を理解し、運動を実践することが必要である。加えて、「人が生きるとはどういうことか」を理解して運動を広め、これを社会に広く浸透させることが、健康社会の実現と維持には不可欠である。この科目では、呼吸、酸素や栄養素などの運搬、様々な情報を伝達・統合する脳や神経、運動に直接関与する骨格等の、構造や機能、応答、身体の適応などについて学習し、人間の「生体機能」について系統的に理解することにより、健康を社会に広め、維持するために必要な知識を育てることを目的とする。	
		機能解剖とバイオメカニクス	人が健康に社会生活を送るためには、身体を理解し、運動を実践することが必要である。加えて「人が生きるとはどういうことか」を理解して運動を広め、これを社会に広く浸透させることが、健康社会の実現と維持には不可欠である。この科目では、上肢・下肢、体幹の骨・関節・筋肉の構造と機能、関節可動域の理解に加え、陸上や水中における身体運動のバイオメカニクスの特性などについて学習し、人間の「生体機能」について系統的に理解することにより、健康を社会に広め、維持するために必要な知識を育てることを目的とする。	
		運動療法と介護予防	(概要) 運動を治療として用いることで、症状の軽減や機能の回復を目指す「運動療法」や、特に高齢者が要介護状態となることを予防する「介護予防」は、現代の福祉政策の中でも大きな役割を担っており、健康社会の実現と維持においても不可欠な要素である。本科目は、①「運動療法」として、生活習慣病（過体重・糖尿病・高血圧・脂質異常症等）に対する運動プログラムの作成方法を習得し、②「介護予防」として、高齢者の生活の質の改善に向けた運動プログラムの作成方法を習得することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (21 遠藤慎也／8回) 「運動療法」としての、生活習慣病（過体重・糖尿病・高血圧・脂質異常症等）に対する運動プログラムの作成方法について教授する。 (16 岡本武志／7回) 「介護予防」としての、高齢者の生活の質の改善に向けた運動プログラムの作成方法について教授する。	オムニバス方式
		運動による外傷・障害と救急処置	(概要) 運動による健康作りには危険性が潜んでいるため、制度面を含めて、十分に対策を行う必要がある。この科目では、内科的な急性・慢性障害や、整形外科的な外傷・障害の発生・予防・対処法について学び、健康づくりを広める際の危険性を学ぶ。具体的には、内科的急性障害（突然死、熱中症、運動誘発性喘息等）、内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群等）、整形外科的外傷等について理解を深め、救急処置法として、救急蘇生法、整形外科的応急処置、テーピング等を学び、健康社会をより安全に広めるための技術を総合的に学習する。 (オムニバス方式／全15回) (30 宮崎誠司／8回) 救急処置専門の医師免許保有教員より、内科的な急性・慢性障害や、整形外科的な外傷・障害の発生・予防・対処法等について教授する。 (21 遠藤慎也／7回) 救急蘇生法、整形外科的応急処置、テーピング等の救急処置法について教授する。	オムニバス方式
	メンタルヘルス	心理学概論	健康社会を実現し、維持するためには、「こころの健康」の仕組みを理解して、社会全体をデザインする必要がある。本科目は、心理学の基礎となる知識を全般的に広く理解することを目標にし、一般の家庭・職場の対人関係の理解において必要になる、人の性格、欲求、感情、適応、社会関係、知能、記憶、学習、感覚・知覚、発達から、社会福祉や保健・医療の諸現場で遭遇する利用者や患者等の諸課題について、老人心理学、障害者心理学、精神保健などの分野の科目をの観点を含めて、心理学の基礎知識を学ぶ。	
		心と身体のしくみ 1	健康社会を実現するためには、社会面だけでなく、多様な分野についても総合的に捉え、コーディネートできる人材の育成が必要である。この科目では、医学の中で最も基本的な、人の構造を学ぶ「解剖学」と、機能を学ぶ「生理学」を融合して、心の動きを加えた「基本的な人体の機能・構造」を学ぶ。具体的には受精から始まり、出産、成熟、老齢期に至る心と身体の変化、消化器官、生殖器官、血液・リンパ、循環器官、免疫器官、脳など身体を構成する臓器・器官の役割と心の関連について学び、医学的視点から健康社会を理解するための基礎を学ぶ。	
		心と身体のしくみ 2	健康社会の実現には、高齢者等への適切な対応が不可欠である。老化の分子メカニズムや老年性疾患の発症メカニズムについて学び、加齢による心や身体の変化を知ることが目的とする。近年「老化」は、自然崩壊の過程ではなく、遺伝子や生体内外の環境が大きく影響していることが明らかになってきた。このように、老化の基礎研究が、人の老化の分子メカニズムのみならず、老年性疾患の治療、予防、アンチエイジングにも貢献しており、日々医療の進化が続いている。この動向を理解し、健康社会を幅広く考察できる力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	メン タル ヘル ス	精神保健福祉概論	「こころの健康」の概念は、健康社会全体の構成を考え、デザインにする際には不可欠である。この科目では、精神保健福祉の理念、対象者の理解、権利擁護、処遇の歴史、精神保健福祉士の理念を基本に、精神保健福祉法等の法制度、具体的施策、具体的な業務等を理解することを目標とする。また、障害者福祉の理念および精神障害者の人権、精神保健福祉法や施策、精神保健福祉の関連施策についても学習し、健康社会の実現に必要である基礎的知識を、様々な視点から考察することを目標とする。	
		健康と運動の心理学	健康社会を実現するためには、健康・運動・心の関わりについて、その概念を理解する必要がある。この科目では、健康、運動の心理についての歴史的・理論的背景について概観し、ストレスやパーソナリティといった基本的問題について理解を深めていく。また、生活環境、スポーツ、食生活など、心理的要因に関連する諸要因についても幅広く理解を深め、健康行動、健康教育、ソーシャルサポート理論、ヘルスケアシステム、カウンセリング等の具体的な視点と融合し、健康な心理状況をいかに作り、いかに維持するかを総合的に考察する。	
		精神保健の課題と支援 1	ストレス社会といわれている「現在社会に生きる人々の心の健康づくり」は、大きな課題になっている。この課題に密接に関連する精神保健活動の狙いは、いかにして心の健康を保ち、心の健康を高めるかにある。この科目では、人のライフサイクルに応じた、心の健康に関する諸課題について学び、心の健康の保持・増進を図るために必要な概念、理論、対処法を講じる。そして、精神保健の観点から、日常生活における自己理解と他者理解、心の健康づくりについて考察し、健康社会の実現に向けての理解を深める。	
		精神保健の課題と支援 2	ストレス社会といわれている「現代社会に生きる人々の心の健康づくり」は、大きな課題になっている。この科目では、「精神保健学 1」の内容をより深く探求し、現代社会における心の健康に関する具体的な課題、例えばひきこもり、依存症、うつ、認知症、PTSD等を題材にし、それらを行政、コミュニティを含めた精神保健福祉の観点から考察して理解を深め、社会と心の関係、行政の抱える課題等についての分析力を高めることを目的とする。	
		精神医学 1	「健康」を維持するには、多くの条件が満たされることが不可欠であり、「こころ」もその役割を担っている。この科目では、精神医学全般についての理解を深めるとともに、心の状態を把握・理解する方法として「精神分析的な観点」を含めて講義する。具体的には、①心の機能、②精神医学的病的所見の理解、③家族アセスメントの方法、④家族療法の処理論、ファミリー・ソーシャルワーク、⑤精神疾患と家族、⑥現場での支援や介入方法について講義し、現代社会における「こころ」の取り扱い方を学ぶ科目である。	
		精神医学 2	「健康」を維持するには、多くの条件が満たされることが不可欠であり、「こころ」もその役割を担っている。この科目は、「精神医学 1」をより深化して、「こころ」を考察し、福祉の観点から見た、精神的援助制度の基礎的な理解を深めるための科目である。具体的には、①自我機能とレジリエンス、②うつ病、発達障害、認知症、統合失調症など、③家族アセスメントの歴史、機能、構造、④家族療法の処理論、ファミリー・ソーシャルワーク、⑤精神疾患と家族、⑥現場での支援や介入方法について、より深い理解を目指して講義を行う。	
	健康 と 栄 養	栄養学入門	「健康社会」は、社会制度に加えて、こころ・運動・栄養等の幅広い要素のバランスが取れることにより成り立つ。この科目は「栄養」の基礎科目であり、社会や地域の中で「人が生きていく根本である生命活動」を科学的な視点から理解出来るように基礎知識を身に付けることを目的とする。内容としては、栄養素が人体で利用される基本的なしくみや、時代における食品の質や摂取量の変化や社会的な背景、生活習慣病などの疾患との関わり、正しい食事の概念まで、栄養に関する基本的・総合的な知識を深め、社会、健康、栄養の繋がりを理解する。	
		細胞の構造と機能	生命の単位である「細胞」に対する研究は、近年、急速に進歩している。これに伴い、医療技術への応用も急速に進みつつあり、社会制度にも大きな影響を与えようとしている。今後の健康社会を考える際には、この細胞の役割等について、科学的な視点による基礎的な知識を持ち、社会に生じるであろう変化に対応できる力を養うことが必要である。具体的には、個々の細胞を構成する分子の種類と機能や働き、DNA複製、人体を構成する細胞の種類と構造・機能、個体の発生・分化、成熟、老化等を学ぶことにより、健康を科学的に理解していくための基礎を理解する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	健康と栄養	食べ物の化学	私たちが社会で生きるためには、「食べる」ことが必要である。また「食べる」ことにより、様々な健康が生まれる。この科目は、健康を構成する「食品」に目を向け、化学的に理解することを目的とする。具体的には、食品を構成している成分の特性、相互作用、食品の性状、品質および加工特性等について、例えば小麦の主成分である”でんぷん”と米の主成分の”でんぷん”の性質の違いや、それぞれの特性、利用方法等を挙げ、身近な食品から理解を深め、人の満足や幸せを含めた健康社会の実現に役立てる基礎的な内容とする。	
		遺伝と環境	身体は人により異なる。したがって、健康社会を実現するためには、身体の差を考慮して、基準の設定や制度化を行う必要がある。栄養面から考察すると、栄養素の体内での分解・吸収・利用の効率是人により大きく異なり、それが遺伝子の多様性（遺伝）に依存していることを学ぶ必要がある。この科目は、上記の内容に加え、遺伝子の発現調節、突然変異による表現型の変化、進化学等を含めた基礎的な内容を講義し、健康に対する遺伝子と環境や、社会の関わりについての基礎を学び、考える力を深化させることを目的とする。	
		食品の安全性	人が健康を得て、それを維持するためには、食べ物は欠かせないものであり、高い安全性が求められている。見方を変え、健康社会を実現し維持するためには、安心、安全な食品とは何かを理解することが必要である。この科目は、食品の質低下、食品加工法、新たな農作物・食品の改良・開発、食品の包装・輸送技術など、収穫から食卓に並ぶまでの食と健康に関わる内容を、現代社会の構造に合わせて講義する。また、食を通して感染症の危険性や予防方法・技術・法規等の基礎知識を得ることを目的とする。	
		美と健康の科学	人はみな「若く、美しく」ありたいと願う。これが幸せや満足感となり、こころも含めて「健康」に繋がる。この科目は「美と健康」について、「見た目」をキーワードに、肉体的な見た目を、体型、顔、皮膚、姿などの「身体的所見」として捉え、加齢や老化などさまざまな要因により、どのような変化が生じるか理解することを目的とする。また、運動・栄養・精神・脳活動・睡眠など「美と健康」に関連した領域に関しても、基礎的な科学的な視点を含めながら、理解を深めていく。	
		加齢と栄養	「健康」に向き合うと、「加齢」による様々な影響により、こころや身体から、年金等の社会制度にまで影響が生じていることに気づく。そして、栄養面から「加齢」を考えることは、社会から求められている「健康社会」の実現と維持に繋がる。この科目では、受精から出産、成長期から成熟、そして老化が進む過程について、年齢・性別・遺伝・生活環境の差異による「栄養の質や量」の違いを学び、年齢に応じた必要不可欠な栄養や、高齢者の疾病予防に繋がる栄養管理の基礎知識を得ることにより、健康問題と健康の維持・増進のための具体的方法を理解する。	
		生命の化学 1	「生きる」ことが「健康」の前提であり、この「生きる」仕組みを理解することは、こころの健康や、他の様々な健康の理解にも繋がる。この科目では、体内に取り込んだ食物が分解され、合成、利用される過程、さらに生体の調節機能や恒常性のメカニズムの基本を理解することを目的とする。具体的には、食物の分解・吸収、臓器・器官の役割と食物の分解や、生きるために新規に合成された栄養素が、体内で利用される代謝の仕組みについて学び、「生化学的な視点」を持ち多様な健康分野で活躍するための、基礎的な知識を深める科目である。	
		生命の化学 2	「生きる」ことが「健康」の前提であり、この「生きる」仕組みを理解することは、こころの健康や、他の様々な健康の理解にも繋がる。この科目は、「細胞」まで視野を広げることにより、今後の科学・医療技術の進歩により変化するであろう、社会情勢や制度の変化に対応できる基礎的な知識や根拠を持つ力を育成する科目である。具体的には、細胞内で取り込まれたタンパク質、脂質、糖質の代謝の過程、化学反応、代謝により作り出されたエネルギーの使われ方に加え、代謝の乱れによる疾患へも目を向け、予防法や治療法も合わせて理解を深める。	
		機能栄養学	科学技術の進歩により、様々な薬品に加え、サプリメント（機能性食品）も「健康」に大きな影響を与えている。サプリメントは、人体に必要な必須栄養素だけでなく、機能性栄養素を摂取することで元気と健康を同時に得ることができるため、その発展によっては、社会の様々な側面にまで影響を与える可能性がある。この科目では、健康の維持増進に役立つとされる、サプリメントについて学ぶと同時に、現代人の多くが摂取しているサプリメントとは何か、その必要性、サプリメントの質や摂取量の安全性、政策など幅広い講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康と栄養	機能性食品の開発	現代社会においては、「食と健康」が大きく関連しており、主な疾患の発生要因を把握することは、機能性食品等の開発、政策や制度の変更にも繋がる。この科目では、食品や機能性食品の摂取と健康との関連について、保健機能食品、栄養機能食品などの実際の商品開発のための方法や商品化について具体的な例を紹介する。さらに、機能性食品の正しい知識、消費者への注意、栄養学的背景や安全性、医薬品との相違等についての理解や、適切な情報提供のあり方などについての理解を深める。	
		健康科学実習	この科目は、実際の生活や社会で活躍する際に必要な、自ら考え結果を出すための応用力や、科学技術の変化によって生じる社会への影響に対して、科学的な視点からの分析力を身に付けることを目的とした科目である。具体的には、身近にある食品が、どのような栄養素から成り立っているか、生活習慣病に関わる「栄養素」や、それを摂取する「人体の変化」を、実際に測定し分析を行う。実習として、自らのDNAを抽出し、栄養に関わる遺伝子の突然変異の有無と表現型を調べることで、遺伝子の多様性、栄養と遺伝子の関係性を体験し分析する。	
		生体分子の分析技術	「健康と栄養」科目群を通じて学んだ「栄養」の基礎的な知識を集約し、栄養をより深化して考察する科目である。栄養は、遺伝子の多様性や生体内外の環境により、体内での使われ方が人により異なる。それが健康に大きく影響することから、健康の指標になる血液や尿の代謝産物の測定法（臨床検査学）の基本を理解することが重要となる。さまざまな測定技術を解説すると共に、正確な体重、体組成、血圧、骨密度、腸内細菌叢などの測定方法を知ること、より専門的に健康指導に必要な健康管理法を身につける科目である。	
		体の変化を捉える技術	「健康と栄養」科目群を通じて学んだ「栄養」の基礎的な知識を集約し、栄養をより深化して考察する科目である。栄養は、遺伝子の多様性や生体内外の環境により、その使われ方が人により異なるため、外部から測定可能な健康の指標が必要になる。例えば、時間とともに変化する心拍数等は、リアルタイムに継続して測定することが出来る。最近のIoTの発達による、種々の生体センサーを活用した、「遠隔からの操作やデータ取得」から「健康指標を確立する最新の方法・技術」を理解し、実際に活用できることを目指す科目である。	
	学外実習	フィールドワーク A	この科目は、低年次の学生を対象に、本学のチャレンジセンター等の活動と連動し、①実践現場からの問題発見、②大学で得た知識の実践現場での活用と、学びの統合化、③実践現場での内容を整理・分析し、理論化に向けた力量を養う科目である。実際のフィールドワークに際しては、(1)十分な事前学習、(2)実践現場での体験を通して社会問題や生活問題を広く捉えること、(3)事後指導において、実習体験をまとめることにより、高年次において、さらに深化する研究テーマの発掘や、実践力を身につけることを目的とする。	
		フィールドワーク B	この科目は、低年次の学生を対象に、健康を「地域貢献活動」において体験することにより、①実践現場からの問題発見、②大学で得た知識の実践現場での活用と、学びの統合化、③実践現場での内容を整理・分析し、理論化に向けた力量を養う科目である。実際のフィールドワークに際しては、(1)十分な事前学習、(2)実践現場での体験を通して社会問題や生活問題を広く捉えること、(3)事後指導において、実習体験をまとめることにより、高年次において、さらに深化する研究テーマの発掘や、実践力を身につけることを目的とする。	
		フィールドワーク C	この科目は、高学年の学生を対象に、海外や国内での短期研修（2週間程度）によって、「健康社会の実現」をテーマに、「実体験」により、社会福祉の援助活動や制度のあり方等について、自ら考える力を育成する科目である。具体的には、事前学習、フィールドワーク・研修、事後学習によって構成される。事前学習では設定したテーマの基礎知識の集積を目的に、グループ学習を行い、フィールドワークによる実体験の後、体験を通じて得た経験を分析し、自分の考えとしてまとめ、発表することにより、より実践的な力の育成を行う。	
		インターンシップ A	行政、福祉、NPOで行うインターンシップにより、「働くこと・働く仕事・働く仕事場」を体感し、自身の卒業後のキャリアについて考えることを目的とする。内容として、①実践現場から問題発見をすること、②学内で得た知識を実践現場で活用するための学びの統合化を図ること、③実践現場での援助内容を整理・分析し理論化に向けた力量を養うこと、④職業倫理を学び、自らの適性や職場での態度・姿勢を身につけることにより、実践的に健康社会の実現に向けた課題を見つけ、自分自身がやるべきことを明確にすることを目的にしている。	
		インターンシップ B	栄養、運動系の企業で行うインターンシップにより、「働くこと・働く仕事・働く仕事場」を体感し、自身の卒業後のキャリアについて考えることを目的とする。内容として、①実践現場から問題発見をすること、②学内で得た知識を実践現場で活用するための学びの統合化を図ること、③実践現場での援助内容を整理・分析し理論化に向けた力量を養うこと、④職業倫理を学び、自らの適性や職場での態度・姿勢を身につけることを目的にしている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ゼミ ナ ー ル	健康学専門演習 1	この科目は、ゼミ形式の授業で行い、地域や保健福祉医療機関、NPO、ボランティア団体をはじめ、教育、司法、労働など、多様な現場で展開される、様々な実践領域の理解の深化をグループワーク等、授業で与えられた課題に対し、こころ・運動・栄養・ソリューション等の分野を自ら融合し、考え、結論に結びつけるトレーニングを行う。「健康をどの視点から捉え、健康社会の実現につなげるか」を自ら考え、具体的な将来の進路を決めていくための基点となる科目である。	
		健康学専門演習 2	この科目は、「健康社会の実現」を目指し、学生一人ひとりが様々な可能性を探究する授業である。地域や保健福祉医療機関、NPO、ボランティア団体をはじめ、教育、司法、労働など、多様な現場で展開される、様々な実践領域の理解の深化を軸に、授業で与えられた課題に対し、こころ・運動・栄養・ソリューション等の分野を自ら融合し、多様な分野に跨る「健康」について、ゼミ形式の授業により考察し、レポートの作成、発表、議論等により、自ら考え、成し遂げる力を育成していく。	
		健康学専門演習 3	この科目は、「健康社会の実現」を目指し、学生一人ひとりが様々な可能性を探究する授業であり、1・2年次に学修した様々な知識・考え方・経験等を基に、卒業論文の作成に向けた「卒論演習」への橋渡しとなる科目である。具体的には、大学での学修を通じて深化していく知識にあわせ、自らが考える力をさらに養うことを目標とし、健康を構成する各分野の融合を更に深めていく。加えて、自分の興味のある分野、問題点、課題等に対し、ゼミ形式の授業により、レポートの作成、発表、意見交換により、さらに自分の考えを深化させ、明確化させていくことを目的としている。	
		卒論演習 1	「健康社会の実現」を成し遂げるためには、現在のわが国の社会制度を軸とし、多様で複雑な健康分野を深く理解して、自らがその可能性を追求する必要がある。この科目は、「健康社会」を研究テーマとした「卒業論文・卒業研究」を完成させるまでの「準備やまとめ」を行う。具体的には、健康学各領域での「研究」の意味を理解し、そのための研究方法や必要な技術について学び、論文の構成や執筆のための手順等を理解したうえで、各自の研究テーマを明確にして計画書を作成する。	
		卒論演習 2	「健康社会の実現」を成し遂げるためには、現在のわが国の社会制度を軸とし、多様で複雑な健康分野を深く理解して、自らがその可能性を追求する必要がある。この科目は、「健康社会」を研究テーマとした「卒業論文・卒業研究」に向けて、ゼミ形式の授業による、小レポートの作成、意見交換、討論、グループ指導、個別指導を中心に実施し、論文の完成だけでなく、健康社会実現に向けた具体的な研究テーマやその視点を、様々な点から検証するプロセスを体験し、健康社会で活躍できる人材の育成を目指す。	
		卒業論文・卒業研究	「健康社会の実現」を成し遂げるため、今まで学んだソーシャルウェルネスを軸にした知識を基に、こころ・運動・栄養をソリューションの技術で融合して「卒業論文・卒業研究」を完成させる。具体的には、「卒論演習1・2」で行ってきた学生間での意見交換に加え、作成過程では研究目的の明確化、研究の理論的・社会的背景の整理、適切な研究方法の選択、得られたデータの分析等により、自ら考察してまとめ、4年間の学修の集大成として「卒業論文・卒業研究」を完成させ、社会で活躍できる力をまとめ上げる総仕上げの科目である。	
	資格 関 連 科 目	ソーシャルワーク演習 3	本科目では、主に個別援助を中心に方法論として今まで学んだ知識を体得的に理解し、確認する体験的参加型学習を行う。援助のプロセスとしてのインタビュー、アセスメント、プランニング、インターベンションを中心に、ソーシャルワークの知識や技術・実践を確認する。また、ロールプレイなどの体験学習を通じて、社会福祉の価値や原理原則の存在を確認し、自己表現や他者理解のために、知識と技術の必要性を身に付け、実際に社会に出るまでに身に付ける必要がある力の把握と、その実現のための計画を、自らが立てることを目的とする。	
		ソーシャルワーク演習 4	本科目では、主に家族支援を中心に方法論として学んだ知識を体得的に理解し、確認する体験的参加型学習を行う。援助のプロセスとしてのインタビュー、アセスメント、プランニング、インターベンションを中心に、ソーシャルワークの知識や技術・実践を確認する。またロールプレイなどの体験学習を通じて、社会福祉の価値や原理原則の存在を実感し、自己表現や他者理解のために、知識と技術の必要性を把握し、その実現のための計画を、自らが立てることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	資格関連科目	ソーシャルワーク演習 5	本科目では、個々のクライアントのニーズや地域の福祉課題に対応する社会資源を開発し、有効に活用する手法をフィールドワークを取り入れながら学習する。具体的には、特にコミュニティに関連する、解決したいと考える問題（テーマ）について、①そのテーマの分析、②フィールドとなるコミュニティの分析（調査・資料集め）、③問題解決方法の検討、④問題解決のための企画作成を行う。なお、テーマ設定とフィールドの選択は、履修者がグループ単位または個別に行い、その内容について学習を進めていく。	
		相談援助実習指導	実践現場における社会福祉援助技術の習得を主たる目的とし、社会福祉士試験受験資格に必要である「相談援助実習」の全体像と事前・事後指導のプロセスについて理解を図り、①その意義と目的を学習する。②事前指導の後半として実際の実習に向けての事前（直前）準備を行う。③実習終了後、事前に作成した実習計画に照らしつつ実習の振り返りを行い、実習目標の達成度を確認し、自己覚知を深め、今後の学習課題を明確にする。	
		相談援助実習	「相談援助実習指導」を踏まえ、実際の現場での計4週間（23日）以上の実習を行い、①機関・施設と地域についての基本的理解を図る、②利用者および職員と適切な関係を形成する、③専門職としての自己理解に努める、④適切な態度で実習に臨む、⑤記録の書き方について学ぶ等をとおして、社会福祉の援助技術の習得を図ることを主要な目標とする。	
		精神保健福祉に関する制度とサービス	本科目においては、以下の項目を理解学習することを目的とする。①精神障害者への相談援助活動と根拠法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する、②精神障害者の支援に関連する諸制度ならびに福祉・保健サービスの知識と支援内容について理解する、③精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等ならびに専門職の機能について理解する、④更生保護制度と医療観察法について理解する、⑤社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。	
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	本講義は、こころの健康に関する知識を習得した上で、精神障害を有する人々およびその家族の社会生活について、グループ・組織・コミュニティの観点から検討し、当事者が有するストレンクスやレジリエンスを踏まえた支援方法を理解する。具体的には、①精神障害者の疾病および障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）、②精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）、③精神障害者を対象としたその他の援助技術について、事例に基づき理解を深めていく。	
		精神科リハビリテーション学	この科目は、精神科リハビリテーションの概念および構成について学び、さらに精神科リハビリテーションの具体的プロセスと技術を理解することを目標とする。精神保健福祉士が展開するリハビリテーションの内容の実際を学ぶとともに、精神保健医療・福祉チームの一員として機能できるように他の専門職種との連携について理解を深める。精神科デイケアや地域生活支援センター等の機能の理解や、生活技術の支援方法、ジョブトレーニング等についても具体的に学習する。	
		精神保健福祉援助実習指導	実践現場における精神保健福祉援助技術の習得を主たる目的とし、精神保健福祉士試験受験資格に必要である「精神保健福祉援助実習」の全体像と事前・事後指導のプロセスについて理解を図り、①その意義と目的を学習する。②事前指導の後半として実際の実習に向けての事前（直前）準備を行う。③実習終了後、事前に作成した実習計画に照らしつつ実習の振り返りを行い、実習目標の達成度を確認し、自己覚知を深め、今後の学習課題を明確にする。	
		精神保健福祉援助実習	この科目は、将来的に、精神保健福祉の援助現場に精神保健福祉士として従事するために必要な知識及び技術についての理解を深めることを目的とする。具体的には、①個別援助技術、集団援助技術、デイケアの実際にふれること。②リハビリテーションの知識と生活技術の獲得に向けた援助指導の実際にふれること。③以上の記録の取り方を学び、実際に体験する等、多くの体験により実践的な技術の習得を目指す。	
		精神保健福祉援助演習 1	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげ、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	資 格 関 連 科 目	精神保健福祉援助演習 2	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、事例を活用しながら、援助（ソーシャルワーク実践）のプロセスを通して援助技術、リハビリテーション技術、倫理や自己覚知、スーパービジョン、セルフケアの方法などを身に付ける。具体的な内容として、①ジェネリック・ソーシャルワークと援助プロセス、②事例を活用し援助プロセス、③直接援助、間接援助の実技、④援助に有効な理論や概念の活用方法、⑤チームワーク、ネットワークなど、協働（コラボレーション）、⑥倫理、自己覚知を理解し、スーパービジョンやセルフケアなどについて学ぶ。	
		精神障害者の生活支援システム	精神障害を有する人々の社会生活環境について、歴史的、社会経済的、制度的な観点から検討を加えて理解する。その上で、現在、精神障害を有する人が社会の一員として生活していく上でどのような障壁があるのか、それを打破しながら、社会の構成員としての地位を獲得するためにはどのような支援やリソースが必要になるのかを理解する。授業では、精神障害者に対して各種施設・機関において実際におこなわれている地域生活支援の内容を踏まえ、実践的に学習する。	

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	アジア文明学科		60	—	240	
	ヨーロッパ文明学科		70	—	280	
	アメリカ文明学科		60	—	240	
	北欧学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	55	—	220	
		東洋史専攻	40	—	160	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	文芸創作学科		55	—	220	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
広報メディア学科		110	—	440		
心理・社会学科		100	—	400		
政治経済学部	政治学科		150	—	600	
	経済学科		150	—	600	
	経営学科		150	—	600	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640	
		社会環境課程				
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360	
		美術学課程				
		デザイン学課程				
国際学科		80	—	320		
体育学部	体育学科		100	—	400	
	競技スポーツ学科		130	—	520	
	武道学科		55	—	220	
	生涯スポーツ学科		100	—	400	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	—	220	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		150	—	600	
	動力機械工学科		200	—	800	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	—	400	
			航空操縦学専攻	50	—	200
医用生体工学科		60	—	240		
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
	医学部	医学科		118	—	708
健康科学部	看護学科		75	3年次：20	340	
	社会福祉学科		85	3年次：10	360	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	
農学部	応用植物科学科		80	—	320	
	応用動物科学科		80	—	320	
	バイオサイエンス学科		70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	
	国際コミュニケーション学科		80	—	320	
	デザイン文化学科		70	—	280	
生物学部	生物学科		70	—	280	
	海洋生物科学科		70	—	280	
計			6,758	30	27,328	

平成30年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
	歴史学科	日本史専攻	<u>50</u>	—	<u>200</u>		定員変更(Δ5)
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
英語文化コミュニケーション学科		90	—	360			
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
文化社会学部	アジア学科		<u>70</u>	—	<u>280</u>		学部の設置(届出)
	ヨーロッパ・アメリカ学科		<u>70</u>	—	<u>280</u>		
	北欧学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	文芸創作学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	広報メディア学科		<u>100</u>	—	<u>400</u>		
	心理・社会学科		<u>90</u>	—	<u>360</u>		
政治経済学部	政治学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経済学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経営学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640		
		社会環境課程					
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360		
		美術学課程					
		デザイン学課程					
国際学科		80	—	320			
体育学部	体育学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	競技スポーツ学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(10)
	武道学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
	生涯スポーツ学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
健康学部	健康マネジメント学科		<u>200</u>	—	<u>800</u>		学部の設置(届出)
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	コンピュータ応用工学科		100	—	400		
工学部	生命化学科		100	—	400		
	応用化学科		80	—	320		
	光・画像工学科		60	—	240		
	原子力工学科		40	—	160		
	電気電子工学科		140	—	560		
	材料科学科		80	—	320		
	建築学科		200	—	800		
	土木工学科		120	—	480		
	精密工学科		80	—	320		
	機械工学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(Δ10)
	動力機械工学科		<u>150</u>	—	<u>600</u>		定員変更(Δ50)
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	<u>90</u>	—	<u>360</u>		定員変更(Δ10)
		航空操縦学専攻	50	—	200		
	医用生体工学科		60	—	240		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320		
	経営システム工学科		80	—	320		
	通信ネットワーク工学科		80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320		
	環境社会学科		80	—	320		
	海洋地球科学科		80	—	320		
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80		
		海洋機械工学専攻	60	—	240		
医学部	医学科		118	—	708	118名は平成31年度入学生まで	
	看護学科		<u>85</u>	—	<u>340</u>		学科の設置(届出)
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		150	—	600		
	観光ビジネス学科		80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320		
	医療福祉工学科		60	—	240		
農学部	応用植物科学科		80	—	320		
	応用動物科学科		80	—	320		
	バイオサイエンス学科		70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440		
	国際コミュニケーション学科		80	—	320		
	デザイン文化学科		70	—	280		
生物学部	生物学科		70	—	280		
	海洋生物科学科		70	—	280		
計			<u>6,773</u>	<u>0</u>	27,328		

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30	
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
計			557	—	1,272	

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
食物栄養学科	100	—	200	
児童教育学科	100	—	200	
計	200	—	400	

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
看護学科(3年制)	80	—	240	
計	80	—	240	

平成30年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30		
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
計			557	—	1,272		

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
食物栄養学科	100	—	200		
児童教育学科	100	—	200		
計	200	—	400		

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
看護学科(3年制)	80	—	240		
計	80	—	240		

東海大学 湘南校舎
(位置関係図)



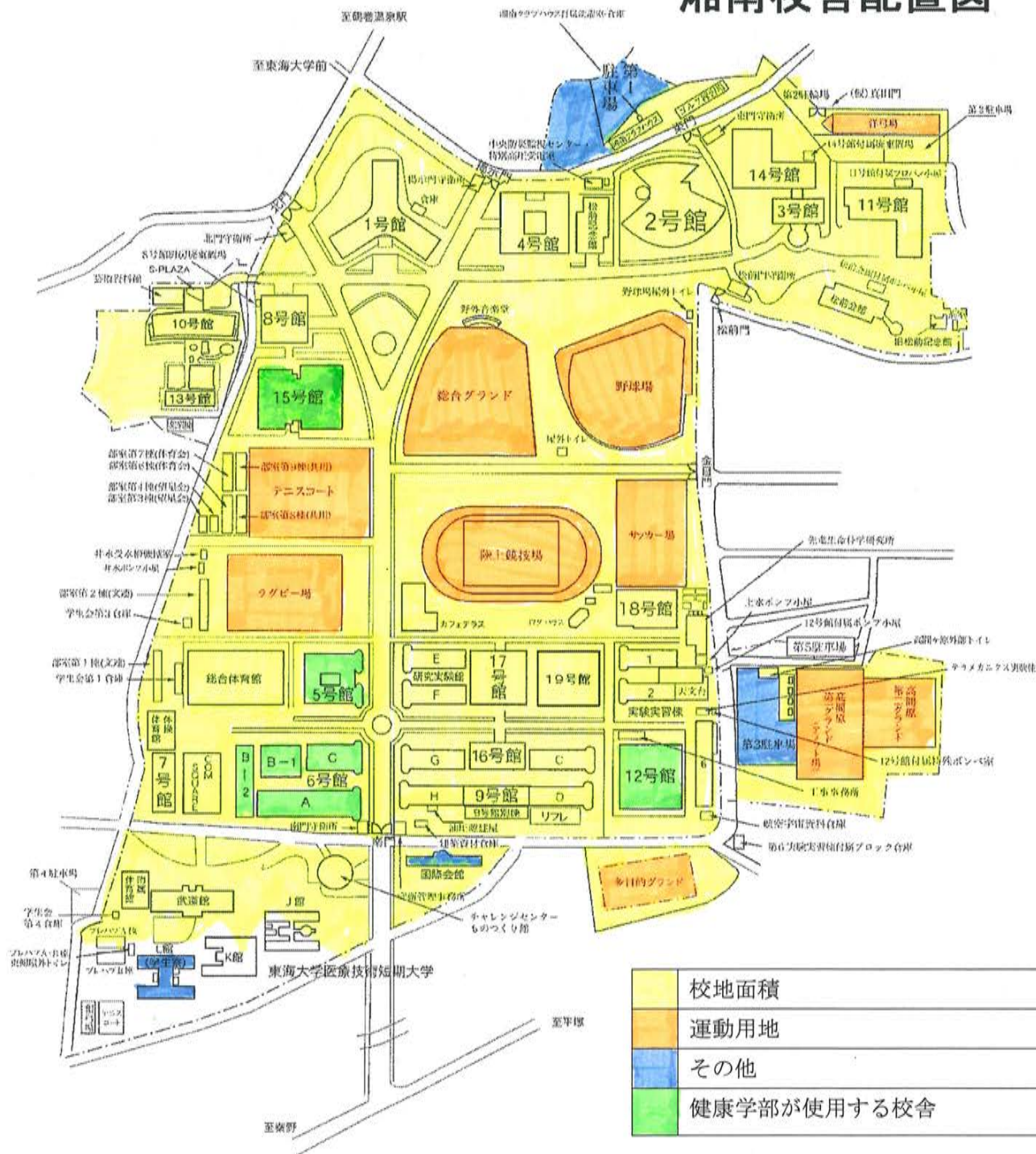
東海大学 湘南校舎
(最寄の駅 経路図)

右クリックで詳細情報を表示

小田急線「東海大学前」駅
下車
徒歩15分
距離1.1km

徒步 15 分
距離 1.1 km

湘南校舎配置図



湘南校舎 校地・校舎面積

校地等	区 分	専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
	校 舎 敷 地	364,255.50 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	364,255.50 ㎡
	運 動 場 用 地	188,505.70 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	188,505.70 ㎡
	小 計	532,761.20 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	532,761.20 ㎡
	そ の 他	14,699.03 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	14,699.03 ㎡
	合 計	547,460.23 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	547,460.23 ㎡
校 舎		専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
		302,482.41 ㎡ (302462.41 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	302,482.41 ㎡ (302462.41 ㎡)

設置の趣旨等を記載した書類 健康学部

【本文目次】

- ① 設置の趣旨及び必要性…p.2
- ② 学部・学科等の特色…p.3
- ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称…p.3
- ④ 教育課程の編成の考え方及び特色…p.4
- ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色…p.9
- ⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件…p.11
- ⑦ 施設・設備等の整備計画…p.16
- ⑧ 入学者選抜の概要…p.18
- ⑨ 取得可能な資格…p.18
- ⑩ 実習の具体的計画…p.19
- ⑪ 管理運営…p.21
- ⑫ 自己点検・評価…p.22
- ⑬ 情報の公表…p.23
- ⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等…p.26
- ⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p.27

① 設置の趣旨及び必要性

1) 健康学部設置の社会的背景と養成する人材

健康とは、身体的健康のみを指すものではない。WHO の定義を持ち出すまでもなく、社会的健康（人間関係、生きがい等）と経済的健康（所得・収入等）も身体的な健康に大きな影響を及ぼす。さらに、精神的健康（メンタル）は、身体的健康、社会的健康、経済的健康に影響を及ぼすと同時に、これらの健康が相互に作用することによって、精神的健康も満たされることができる。このように、健康を構成する要素は、それぞれが独立したものであると同時に密接な関係にあり、お互いに影響を与えあっている。さらに、これらの要素は、個人の次元のみならず、家族・家庭の健康、集団や組織の健康、地域社会の健康など、より複雑に多層化して、より複雑に影響を与えあっている。現在の日本を見ると、人口減少とともに高齢化が急速に進展しており、2040 年代半ばにピークを迎えるまで高齢者数の大幅な増加が見込まれ、住まい、生活、医療、介護等の支援等への対策が不可避である。この状況により、健康増進や予防等を広く捉え、「健康」を一体的に提供できる社会体制や、コミュニティでの仕組みづくりが強く求められており、様々な分野を跨り、多層化する社会構成の中に存在する、「健康」を捉え、理解し、整理し、そして新しい「健康社会」を作っていく、「マネジメント能力」が、現代の日本には必要とされている。

本学部においては、「健康社会」の実現を目指し、Bio-Psycho-Social（身体生理的・心理的・社会的）な諸要素で構成される「健康」を総合的に捉え、生じている諸問題の解決を目指していく。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、「健康をマネジメント」できる人材、すなわち、健康・予防に関するニーズを把握する能力、多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に活用し、サービスをコーディネート、マネジメントできる能力（T字型人材）を習得した人材を養成する。

（知識・理解）

健康の多角的な側面を総合的にとらえ、健康社会の創生や健康産業の貢献に必要な実践的な能力

（汎用的技能）

健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に分析・活用し、連携協働できるネットワーク力と、サービスを複合的にコーディネートし、マネジメントする能力

（態度・志向性）

誰もが自分らしく健康に過ごすことができる、共生的な「健康社会」の実現に向けた取り組みが出来る能力

【具体的な人材像】

- ・多分野の知識を併せ持つソーシャルワーカー
- ・健康産業・自治体等で活躍する健康分野のマネジメントリーダー

2) 健康学部の研究分野

子供から高齢者、障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく健康に過ごせる“健康社会”の実現を目指し、「健康」を総合的に捉えたうえで、「健康」を成し遂げる社会を、“どのようにデザインしていくのか”という命題にアプローチする人材、すなわち「健康をマネジメント」する能力を持った人材を育成するためには、健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持つ必要がある。そこで、本学部・学科においては、「社会の仕組みや問題点を学び、私たちが将来も幸せであることを目指す“ソーシャルウェルネス”」という社会学の分野を柱とし、「自分の心、人間関係などを学び、心の健康を理解する“メンタルヘルス”（心理学）」、「身体の仕組みを科学的に理解する“健康と栄養”（栄養学）」、「自分の身体への理解を深め、人に伝える技術を学ぶ“健康と運動”（健康・スポーツ・体育学）」、「調査、統計、分析による技術と、聞く力、解決する力を養う相談援助」を学び、健康を構成する多くの要素をまとめる力をつける“ソリューション”（社会学）」の分野により、「専門性」を深め「健康分野を幅広く捉え繋げる力」を身につけていくための、研究活動と教育活動を行う。

② 学部・学科等の特色

現代の社会問題や人間の心身問題を基本に、健康な社会の仕組みづくりを学ぶ「ソーシャルウェルネス」学科目（社会的健康）を「カリキュラムの幹（T字型人材の縦軸）」とし、健康の諸要因（T字型人材の横軸）については、「健康と栄養」学科目、「メンタルヘルス」学科目、「健康と運動」学科目から学ぶことができる。これらで得た知識を「ソリューション（技法・相談援助技術）」、「学外実習」で得られる実践・体験的な教育を通じて、実行力まで身につけることにより、多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に活用し、サービスをコーディネート、マネジメントできる能力を習得させる。

この能力を育成するため、栄養、運動、社会調査、心理等の健康に関わる幅広い知識を修得し、健康分野を取り巻く多くの分野で活躍する「幅広い職業人養成」と、地域と結びついた研究・活動による「社会貢献機能(地域貢献, 産学官連携)」に力を置き、教育活動を展開していく。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

現代社会に生じている問題、そして将来の日本、そして世界に生じると予測されている問題の解決を目指し、健康社会の実現を目指す本学部・学科は、“社会的健康（ソーシャルウェルネス）”、“栄養（健康と栄養）”、“心理（メンタルヘルス）”“運動（健康と運動）”の研究分野を主として配置し、これらの分野を結び付けて考え、行動することが出来る「T字型人材」の育成を目指したカリキュラムを編成する。そして、“横断的に活用

して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”等を育成することにより、幅広い健康分野を“総合的”に捉え、各分野を“結びつけ”て、問題解決を図っていく。

この理由から、学部名を「健康」を総合的に捉えた人材の育成や、研究活動を行う「健康学部」とし、学科名を「幅広い分野で構成される健康をマネジメント」できる人材の育成と研究活動を行う「健康マネジメント学科」とし、学位「健康マネジメント」に相応しい人材を社会に輩出していく。

【日本語名称】

学部名称 : 健康学部

学科名称 : 健康マネジメント学科

学位名称 : 学士（健康マネジメント学）

【英訳名称】

健康学部 : Undergraduate School of Health Studies

健康マネジメント学科 : Department of Health Management

学士（健康マネジメント学） : Bachelor of Health Management

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。本学では、日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「教育による政治革命—教育の力によって、長い時間をかけて平和と理解の中に革命を進行させ、それを通じて新しい理想に向かって歩む」（本学創設者松前重義の言葉）を実現するための取り組みとして、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行う。

本学科においては、教養科目を「T字型人材」育成の縦軸と横軸の根幹・骨組みにあたる教育として位置づけ、専門科目においては、その根幹に専門的な知識と考える力を付けていき、教育体系の効果的な運用の実現を目指している。

1) 現代文明論

「現代文明論」は、社会や文化の変容や流動化にともないこれまでの制度や思考様式では解決法の探求が難しくなっている現代的な課題、科学やテクノロジーが発展し浸透する時代にこそ問い直される倫理の問題などについて、講義をとおして、学生一人ひとりが、現代社会の問題を歴史的な文脈、世界的な文脈に位置づけて、これから

の自分の生きかた、社会への貢献のしかたを考えていく、本学の基幹となる科目である。

この現代文明論は、現代教養科目と学科の専門科目の基礎を学んだ2年次に開講される必修科目であり、各学問の基本的な知識と考え方の統合、文理融合的な視野の育成、自ら考える力の礎を気づくことを目的としており、教養科目と専門科目の融合を図る意味でもカリキュラム上の基幹となる科目である。

2) 現代教養科目

現代教養科目は、現代に必要とされる“教養”を基礎教養、発展教養、健康スポーツの3分野に分け、学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野など、大学生活だけでなく、大学卒業後に必要な力の礎を養う科目区分である。

具体的には、基礎教養科目（「人文科学」「社会科学」「自然科学」と発展教養科目（「シティズンシップ」「ボランティア」「地域理解」「国際理解」）健康スポーツ科目（「健康・フィットネス理論実習」と「生涯スポーツ理論実習」）により構成される必修科目であり、基礎教養科目では、知の力の修得を念頭に置き、発展教養科目では、実践力の修得を念頭に置いて、いずれも市民としての教養につながる導入的な授業を展開していく。この基礎教養科目を基に、さらに現代文明論、学部学科の主専攻科目や他の教養科目などを学び、本学で実施しているチャレンジプロジェクト活動などとも連携することにより、東海大学の教育目標の達成に向かっていく基盤となる科目である。

健康スポーツ科目は、単に運動を身に付けることを目的とするのではなく、健康・体力の保持増進を図るための能力を養い、好ましい人間関係や社会的な行動を認識させるスポーツ活動を“生活化”し、「学生に将来の人生を豊かにできるようなライフスタイルを身につける」ことから「広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成する」ことにつなげていく。

3) 英語科目

英語科目は、発展する国際化への対応という意味だけでなく、その文化や風習の違いを理解し、専門教育の教育効果をより高めることを目指した科目区分である。

具体的には、英語コミュニケーション科目（「英語リスニング&スピーキング」「英語リーディング&ライティング」）とグローバル人材育成科目（「グローバルスキル」「アカデミック英語」）により構成される必修科目であり、英語コミュニケーション科目は4種類の技能を受信と発信の能力（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）として組み合わせ、受信した情報を発信へと繋げる英語力を養っていく。グローバル人材育成科目は、学部教育と連動し、主専攻科目（専門科目）で必要な能力や知識を加え、専門教育との連動をより意識した英語教育を実践する。

4) 主専攻科目（専門科目）

(1) 教育課程の編成方針

専門科目である主専攻科目は、教養科目で得た知識や自ら考える力などを発展しつつ、「健康社会」の実現を目指した教育を実践していく。具体的には、

Bio-Psycho-Social（身体生理的・心理的・社会的）な諸要素で構成される「健康」を総合的に捉え、現代社会に生じている諸問題の解決していくことを目指して次の教育課程を編成する。

また、社会的な健康の実現を目指す「ソーシャルウェルネス」学科目を軸に、「共通基礎」学科目、「現代社会の理解」学科目により、幅広い健康分野の問題点や基礎を学び、「健康と栄養」学科目、「健康と栄養」学科目、「メンタルヘルス」学科目、「健康と運動」学科目、で知識の幅をさらに広げ、これらの学科目を、「ソリューション（技法）」、「ソリューション（相談援助）」学科目により、相談援助と統計の知識によりつなげていく。これらの幅広い選択肢に対する、学生からの相談や指導を行いながら、その専門性と広い知識をつなげていく「ゼミナール」学科目、より実践的に社会と学問をつなげていく「学外実習」学科目によって、主にソーシャルウェルネスを軸として、幅広い知識を身に付けた「T字型人材」の育成を行うカリキュラムを編成している。

これらのカリキュラムの編成方針を実現するため、以下の科目区分（学科目）と必修・選択・自由科目をその目的別に設定し、ゼミナール科目での指導に合わせて、履修の順序を定めている。

「共通基礎」学科目

初年次教育として行う学科目であり、3科目を必修科目として設定する。

「健康学概論」では、健康長寿実現に欠かせない肉体的、精神的、社会的、経済的な4つの基本的な健康を理解することを目的とし、「科学的証拠（エビデンス）」に基づく健康な個人・社会の実現」に焦点を置き、人の生命現象から、健康を阻害する加齢や高齢化・少子化・グローバル化による生活環境・社会環境の変化とその対処法までを学んでいく。

加えて、少人数のゼミナール形式で行う「健康学入門演習1・2」により、選択する分野や将来の進路について方向を定めながら、健康を広く捉える基礎力を育てていく。

「現代社会の理解」学科目

現代社会の問題点や仕組みを学び、社会的な健康とは何かを理解し、健康社会を実現するための知識と考える力を育成する学科目であり、選択必修の第1グループとして設定し、必ず8単位を修得する必要がある。

「ソーシャルウェルネス」学科目

健康は、身体的な健康、精神的な健康だけでは成し遂げることはできない。社会的な健康を成し遂げ、この3つの健康を維持することが必要である。この問題に対して、現代の社会福祉制度の理解に加え、T字型の人材の“縦軸”として、健康産業、健康経済、他職種の連携を含んだ科目で構成される学科目であり、選択必修の第2グループとして設定し、必ず20単位を修得する必要がある。

「ソリューション（技法）」学科目、「ソリューション（相談援助）」学科目

実際に、T字型人材として、社会に出て活躍するためには、単純に各分野を学べばよいというわけではない。多様な分野を結びつける技術が必要である。「ソリューション」学科目では、人との関わり方として、社会調査の方法と分析力を学び説得する技術を学ぶ“技法”と、話の聞き方、相談の受け方等の接し方を学ぶ“相談援助”の技術により、各学科目で得た知識を繋げて実社会で生かす技術を修得していく。この学科目は選択必修の第3グループとして設定し、必ず4単位を修得する必要がある。

「健康と運動」学科目、「メンタルヘルス」学科目、「健康と栄養」学科目

具体的に各分野の知識を深めていく学科目であり、T字型人材の“横軸”にあたる部分である。これらを編成する科目については、全て選択科目とし、学生の学修スタイル、将来の進路等により選択し、3つの学科目をあわせて22単位を修得する必要がある。なお、各選択必修科目の余剰科目は選択科目として計算される。

「学外実習」学科目

より実践的に社会との関わりを実践していく学科目であり、本学科での学修を社会で実践していく、現代教養科目のパブリック・アチーブメント型教育の一部でもあり、教養科目と専門科目の連動の結果としての実践の場でもある。選択必修科目の第4グループとして設定し、必ず2単位を修得する必要がある。

「ゼミナール」学科目

少人数で行う「ゼミナール」科目により、自分の進路を定めながら、幅広い知識の修得と選んだ分野の専門性を深めていく。加えて、大学生活の集大成として4年次に実施する「卒業論文・卒業研究」により、“専門分野の深い知識と技能”と、“自らの専門分野の他に分野横断的に活用できる基礎知識・技能”を融合することを目的として必修科目として設定し、12単位の修得が必要である。

「資格関連科目」学科目

社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格を取得するための学科目であり、卒業に必要な単位には取り扱わない自由選択科目とする。

（2）履修順序と学生への指導

上記（1）のカリキュラムにより、専門性と幅広い視点を持った力と実践力を身につけ、“健康をマネジメントする人材”を効果的に育成するため、①基礎的な学修を進める学科目は低年次に開講し、②より専門的な内容を含んだ学科目は、基礎科目を設定することにより学修を深く進めていく上での順序性を設定し、③毎学期開講される少人数で行うゼミナール科目による指導を行うことに力を養っていく。

各科目群における学修の進め方は以下のとおりである。

「共通基礎」学科目

1 年次に開講する。

「現代社会の理解」学科目

基礎的な科目、標準的な科目は 1 年次に開講。発展的な科目（「コミュニティーデザイン論」）は、基礎、標準的な科目を学んだ後の 3 年次に開講する。

「ソーシャルウェルネス」学科目

基礎となる「ウェルネス総論」と「社会保障 A」は 1 年次に開講する。その後は、ゼミナール系科目と連動して学生を指導しながら、各科目の学修を進める。

なお、「T 字型人材」の縦軸の中心となり、横軸との接点となる「健康経済論」、「健康産業論」、「多職種連携論」、「非営利組織論」の科目については、基礎を学び、自ら考える力が育成されてくる 2 年次から 3 年次に開講し、様々な分野を結びつけて考える力を高めていく。

「健康と運動」学科目

基礎となる「健康づくり運動の理論とプログラム」、標準的な科目である「健康づくり運動の実技と指導 A」と「健康づくり運動の実技と指導 B」を 1 年次に開講し、これから学修を深化させていくことに必要な基礎的な内容と興味を喚起する科目を低年次に行う。その後は、ゼミナール系科目と連動して学生を指導しながら、配当年次に合わせて各科目の学修を進める。

「メンタルヘルス」学科目

基礎となる「心理学概論」を 1 年次に開講し、その後は、ゼミナール系科目と連動して学生を指導しながら、配当年次に合わせて各科目の学修を進める。

「健康と栄養」学科目

基礎となる「栄養学入門」を 1 年次に開講し、「細胞の構造と機能」、「美と健康の科学」など、これから学修を深化させていくことに必要な基礎的な内容と興味を喚起する科目を 1 年次に配置し、その後は、ゼミナール系科目と連動して学生を指導しながら、配当年次に合わせて各科目の学修を進める。

「ソリューション」学科目

2 つの学科目から構成される。上記に記載した各学科目の学びをつなげていく技術を学ぶ学科目であり、平行しながら学修を進めていく。以下の基礎的な科目を 1 年次に開講し、その後は、ゼミナール系科目と連動して学生を指導しながら、配当年次に合わせて各科目の学修を進める。

「ソリューション（技法）」学科目

基礎となる「ヘルスリサーチ入門」、「健康統計学」を1年次に開講する。他分野の学修が進んだ3年次を中心に開講し、積み重ねた知識を結びつけていく。

「ソリューション（相談援助技術）」学科目

基礎となる「ソーシャルワーク基礎1」、「ソーシャルワーク基礎2」を1年次に開講し、配当年次に合わせて段階的に学修を進めていく。

「学外実習」学科目

本学科で学修を進める上での興味や関心を早期に喚起し、体験することにより、高年次の学修につなげていくことを目的に「フィールドワークA」と「フィールドワークB」を1年次に開講する。その後、専門的な知識をより深く、広く身に付けた学生を対象に「フィールドワークC」、「インターンシップA」、「インターンシップB」を開講し、より実践的な学びと社会への接続を図る。

「ゼミナール」学科目

共通基礎科目に開講している「健康学入門演習1」と「健康学入門演習2」から連動して、2年次以降にSemester毎に1科目を配置する。健康分野の学びを専門的かつ幅広く、ゼミナール形式で行うだけでなく、学生の履修の方針や進路等の相談や指針の提示も行いながら、学生一人ひとりに目を配った指導を行っていく。

「資格関連科目」学科目

社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格に必要な学科目である。高年次で行う演習や実習に向けて、履修Semesterを定めて、計画的に学修を進めてく。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1) 教養系科目の考え方と特色

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養系の科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養系科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。

現代文明論、現代教養科目（基礎教養科目、発展教養科目）については、「現代教養センター」、現代教養科目（健康スポーツ科目）については、「一般体育」、英語科目については、「国際教育センター」が行っている。

2) 専門科目の教員の配置状況と特色

健康マネジメント学科の教員で運用する専門科目については、教授8名、准教授6

名、講師 6 名、助教 4 名の合計 24 名で編成する。

年齢構成は、60～69 歳が 2 名、50～59 歳が 9 名、40～49 歳が 7 名、30～39 歳が 5 名、29 歳以下が 1 名となっており、教員の教育成果と学部運用の継続性を加味して、各年代に教員を配置している。なお、完成年度までに定年齢を超える教員が 2 名いるが、本学の学校法人東海大学教職員定年規程（資料 1）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて、定年を延長する計画である。この 2 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していく。

3) 専門科目の教員配置の考え方

専門科目についての考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。実習や演習科目、ゼミナール科目など、繊細かつ継続的な指導が必要な科目については、原則として専任教員が授業を実施し、履修者数を適切な人数で行うことにより対応していく。基礎系の科目や幅広い視点を養うための科目等については、その分野で豊富な教育経験と研究の実績がある教員を優先して配置する。

「共通基礎」学科目

「健康学概論」は、教育、研究の実績が豊富である専任教授が担当し、「健康学入門演習 1」、「健康学入門演習 2」についても、全専任教員が担当する。

「現代社会の理解」学科目

現代社会を幅広い視点で俯瞰する基礎的な力を養っていく学科目であり、本学科を構成する多分野の専任教員が担当する。特にこの学科目における発展的・まとめ的な科目である「コミュニティーデザイン論」は、実績のある専任講師により担当する。

「ソーシャルウェルネス」学科目

基礎となる「ウェルネス総論」については、幅広い視点を養う必要があることから、総合大学である本学の特色を生かし、健康分野において教育・研究実績のある学内の兼任教授と兼担准教授が担当する。

同様に、社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な科目については、本学科の基礎となる学科である健康科学部社会福祉学科の教員が兼任教員として担当していく。

この学科目は、T 字型人材の縦軸となる学科目（科目区分）であり、この横軸となる様々な分野との接点に位置づけられる「健康経済論」、「健康産業論」、「多職種連携論」、「非営利組織論」については、専任教授が担当する。

「ソリューション」学科目

2 つの学科目から構成される。特に、運動分野、メンタルヘルス分野、栄養分野といった、T 字型人材の横軸を構成する各分野との連携が不可欠であることから、専任

教員が中心となり授業を実施する。この学科目の基礎として重要な役割となる「ソーシャルワーク基礎1」を専任教授、「ソーシャルワーク基礎2」を専任准教授として配置し、各分野との連携を図って教育効果を高めていく。但し、社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な科目については、本学科の基礎となる学科である健康科学部社会福祉学科の教員が兼任教員として担当していく。

「健康と運動」学科目

実習系の科目が中心となるため、基礎となる「健康づくり運動の理論とプログラム」と「健康づくり運動の実技と指導A」は専任教授が担当し、これ以外の科目についても、オムニバス形式の科目を除き、専任教員が担当する。

「メンタルヘルス」学科目

専門的な知識や技能が必要な科目であり、授業を行うことができる実績と豊富な経験があることを優先して教員を配置している。基礎となる「心理学概論」は専任准教授が担当し、「心と身体のしくみ1」、「心と身体のしくみ2」等の基礎系の科目をはじめとする各科目は、適切な研究分野と教育力を持つ教員を配置している。

「健康と栄養」学科目

基礎となる「栄養学入門」を始め、基礎的な学力が不可欠であり、教員間の連携が非常に重要な学科目である。したがって、1年次に開講し、学生の興味や関心を高めていく「細胞の構造と機能」、「美と健康の科学」などの科目を始め、授業を行うために適切な研究分野で研究、教育を行っている専任教員を配置している。

「学外実習」学科目

実習科目であることから専任教員により担当する。

「ゼミナール」学科目

共通基礎科目に開講している「健康学入門演習1」と「健康学入門演習2」を含めて、全ての専任教員が担当する。

「資格関連科目」学科目

社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な科目であり、専任教員に加え、本学科の基礎となる学科である健康科学部社会福祉学科の教員が兼任教員として担当していく。

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1) 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学においては、平成30年度より教養科目を刷新し、パブリック・アチーブメント型教育による教養系科目と専門科目の融合の実現を目指す。セメスター制度により、

学生の選択の自由度を高めているが、特に1年次から2年次の学修については、順序性を定め、教育効果を高めていく計画である。

具体的には、第1セメスターから第2セメスターにおいては、現代教養科目の基礎教養科目（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）において学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野の礎を育成する。同時に発展教養科目において「全人的な教育」と「社会的実践力」を効果的に養っていく。これを具現化する科目が、米国で開発されてきた「パブリック・アチーブメント型教育」を実践する、現代教養科目の発展教養科目（「シティズンシップ」、「ボランティア」、「地域理解」、「国際理解」）である。これらの科目により学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、社会の持続的な発展に向けた取り組みを促進する。これを礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」と、学科での専門科目の学修について、より実践的に知識を吸収し、社会への展開を自ら考えて、積極的に学びを深めていく実践的な学修へとつなげていく。

また、英語科目については、従来、4技能（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）を段階的に学修していく方式であったが、平成30年度からは、基礎的な4技能を1年次に行い、2年次には、学部・学科での専門教育と融合して連動性を深めて展開していく。

以上の教養科目は全て必修科目であり、現代文明論科目、現代教養科目については、科目ごとに定める適切な人数（現代教養科目は約80名）で履修登録前には学生のクラスを確定し、英語科目については、授業開始前のガイダンス期間に行う基礎学力テストにより、能力別のクラス編成を行い、適切な人数（約35名）で学生のクラスを確定していく。

また、これらの教養科目の授業については、グループワーク等も取り入れ、初回の授業でシラバスの説明をし、授業の進行方法等を学生と教員が共有することで、より効果的な学修を行っていく。

2) 教養科目に基づく専門科目の展開

健康学部健康マネジメントの学修の流れは、教養科目による知識の修得と社会的実践力の向上と連動し、1年次の第1セメスターは、4年次の第8セメスターに行う「卒業論文・卒業研究」まで続くゼミナール系科目のスタートである「健康学入門演習1」と、健康学部での学びのスタートになる「健康学概論」により、幅広い健康分野の理解と健康学部での学びの可能性の理解、将来の進路へのきっかけ作りを行っていく。併せて、教養科目で養っていく学問の深み、社会との関わりを理解しながら、専門科目での学修を以下の方針で学修を進めていく。

なお、履修者数等の設定については、必修科目は適切な人数で科目ごとにクラスを編成し履修者を指定し、選択科目については、特に低年次で行うゼミナール科目での調査や指導や基礎系の科目の受講状況により、次学期・次年度の学科科目ごとの受講人数を予め想定し、開講クラス数等の増加等によって、科目ごとに適切に管理を行う。

- ④第1セメスターより始まるゼミナール系科目（「健康学入門演習1」）により、学生の学修スタイルの相談を受けながら進路指導を行う。
- ⑤第1セメスターで学修する「健康学概論」により健康分野を見渡す力を養い、より深く、広く学修を進めるきっかけとする。
- ⑥1年次より開始する「フィールドワークA」、「フィールドワークB」をはじめとする“フィールドワーク”、“インターンシップ”の科目（「学外実習」学科目）により専門科目をより社会と連動させる。
- ⑦教養系科目で様々な知識と考える力を養いながら、各学科目の基礎系の科目から学修し、セメスターの進行に合わせて、学修スタイルを確定していき、「健康社会の実現」に向けた、専門的な知識と、幅広い健康を結びつけるマネジメント力を養っていく。各学科目における、科目の配当年次とその考え方は以下のとおりである。

「共通基礎」学科目

本学科での教育の基礎となる「健康学概論」、ゼミナール系科目のスタートに位置づける「健康学入門演習1」、「健康学入門演習2」を1年次に必修科目として開講して、基礎学力の向上を行うと同時に、学生の学修面、生活面を含んだ指導体制を開始していく。

「現代社会の理解」学科目

「共通基礎」科目と連動し、学生の学びへの興味と関心を喚起する「環境と健康A」、「環境と健康B」、「環境と健康C」を1年次に開講する。あわせて、本学科の基幹となるソーシャルウェルネス分野への理解や関心へと繋げる「社会学」、「現代社会と福祉A」、「現代社会と福祉B」、「公衆衛生学」を1年次に開講し、発展的な位置づけの「コミュニティーデザイン論」は、ソーシャルウェルネス分野をはじめとする各分野への理解が進んだ3年次に学修を進める。

「ソーシャルウェルネス」学科目

ソーシャルウェルネス分野の基礎となる「ウェルネス総論」「生命倫理学」「社会保障A」を1年次に開講する。2年次には、標準的な科目を中心に開講し、3年次には、標準的な科目の知識を基に発展的に学修を進める「自立支援とテクノロジー」、「公共政策」、「福祉行財政と計画」、「権利擁護と成年後見制度」、「福祉サービスの組織と経営」、「人的資源管理論」、「非営利組織論」の7科目を開講する。

「ソリューション（技法）」学科目

基礎となる「ヘルスリサーチ入門」、「健康統計学」を1年次に開講し、2年次には、他の学科目の学修を優先して理解を深めたうえで、3年次より卒業論文・卒業研究に向けて統計の技術を身に付けて、4年次で開講する「卒業論文・卒業研究」

に活用し、実践的な力を身に付けていく。

「ソリューション（相談援助技術）」学科目

基礎となる「ソーシャルワーク基礎 1」、「ソーシャルワーク基礎 2」を 1 年次に開講する。ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）を目指す学生においては修得が必要な科目であり、3 年次からはより本格的に実習科目が開始されることから、「相談援助の理論と方法 B」のみを 3 年次で開講し、その他の科目は、2 年次に実施する。

「健康と運動」学科目

基礎となる「健康づくり運動の理論とプログラム」、標準的な科目である「健康づくり運動の実技と指導 A」と「健康づくり運動の実技と指導 B」を 1 年次に開講する。発展的な科目である「運動療法と介護予防」と「運動による外傷・障害と救急処置」に繋げる標準的な科目については、2 年次に開講する。

「メンタルヘルス」学科目

基礎となる「心理学概論」を 1 年次に開講する。段階的に学修を進めることができるように、「心と身体の仕組み 1」を 2 年次前半、「心と身体のしくみ 2」を 2 年次後半、「精神保健の課題と支援 1」を 2 年次後半、「精神保健の課題と支援 2」を 3 年次前半、「精神医学 1」を 3 年次前半、「精神医学 2」を 3 年次後半に開講していく。なお、他の学科目と連動が必要な「精神保健福祉概論」は 3 年次、「健康と運動の心理学」は 2 年次に配置して開講する。

「健康と栄養」学科目

基礎となる「栄養学入門」を 1 年次に開講する。この学科目は基礎的な知識から修得していくことが必要であることから、発展的な学修、より社会と連動した学修を行う、「機能性食品の開発」、「健康科学実習」、「生体分子の分析技術」、「体の変化を捉える技術」については 3 年次に行い、低年次から、これら発展的な科目の修得を目指し、ゼミナール等で指導を行いながら、力を付けていく。

「学外実習」学科目

本学科で学修を進める上での興味や関心を早期に喚起し、体験することにより、高年次の学修につなげていくことを目的に「フィールドワーク A」と「フィールドワーク B」を 1 年次に開講する。その後、専門的な知識をより深く、広く身に付けた学生を対象に「フィールドワーク C」、「インターンシップ A」、「インターンシップ B」を 3 年次に開講し、より実践的な学びと社会への接続を図る。

「ゼミナール」学科目

共通基礎科目に開講している「健康学入門演習 1」と「健康学入門演習 2」から連動して、2 年次以降にセメスター毎に 1 科目を配置する。健康分野の学びを専門

的かつ幅広く講義を行うだけでなく、学生の履修の方針や進路等の相談や指針の提示も行いながら、学生一人ひとりに目を配った指導を行っていく。

「資格関連科目」学科目

社会福祉士、精神保健福祉士の資格取得に向けて、効果的に演習や実習を行うために、各学期に科目を配置し、履修する年次と学期を指定している。

⑤卒業要件について

教養系科目は、パブリック・アチーブメント型教育として他学部と同様の単位数を設定し、専門科目（主専攻科目）へ展開していく。

□科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目）	<u>2 単位修得</u>
□科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）	<u>12 単位修得</u>
□科目区分Ⅲ英語科目（必修科目）	<u>8 単位修得</u>

専門科目（主専攻科目）は、T字型人材を育成するため、以下の合計で 72 単位以上を修得する。育成するT字型人材の縦軸となる部分については、必修科目または選択必修科目として設定し、各学科目から必要な単位数を修得する。T字型人材の横軸の部分である「健康と運動」、「メンタルヘルス」、「健康と栄養」の学科目については、選択科目とし学生に合わせて深い知識と広い知識の修得を行う。

□科目区分Ⅳ主専攻科目

<必修科目>

■共通基礎	4 単位修得修得
■ゼミナール	12 単位修得修得（計 16 単位）

<選択必修科目>

■現代社会の理解	8 単位以上修得
■ソーシャルウェルネス	20 単位以上修得
■ソリューション（技法）	} 4 単位以上修得
■ソリューション（相談援助技術）	
■学外実習	2 単位以上修得（計 34 単位）

<選択科目>

■健康と運動	■メンタルヘルス	■健康と栄養
の3つの区分または選択必修科目の余剰単位： 22 単位以上修得（計 22 単位）		

<自由科目> 資格取得希望者のみ履修。卒業要件に含まない。

■資格関連科目	0 単位	主専攻科目合計： <u>72 単位修得</u>
---------	------	-------------------------

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位	<u>30 単位修得</u>
----------------------------	----------------

合計 124 単位修得

⑥履修モデルについて

各学科の履修モデルを（資料 2）として添付した。

⑦履修科目の登録上限について

履修科目の上限単位は、予習時間・復習時間を考慮し、1 日 2 科目（4 単位）×週 6 日として、1 セメスターあたり 24 単位としている。但し、卒業要件には含まれない自由履修科目については、24 単位には含めてはいない。この自由履修科目は資格取得に必要な科目であり、大多数の科目が演習科目や実習科目であること、集中科目等であること、高年次に開講される科目であることから、低年次から継続する計画的な学修により、卒業と資格取得に必要な科目を満たしていくことが可能である。したがって、24 単位を超える単位の履修は可能ではあるが、履修モデルの活用や個別指導により、予習・復習時間を含めた学修時間の確保を行うことが可能である。

⑧他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修については、予習時間・授業時間・復習時間を考慮して事前申請を行い、在学、休学にかかわらず、許可した場合についてのみ、その学習成果を確認した後、本学の科目として単位を認定している。なお、単位認定の上限については、本学の 1 セメスターあたりの上限である 24 単位とし、入学前・入学後の単位認定を含めて 60 単位を上限としている。

⑦ 施設・設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

健康学部は、神奈川県平塚市に所在する湘南校舎に設置される。

湘南校舎の校地面積は 532,761.20 m²、完成年度における湘南校舎の学部の最大受入定員は 18,363 人であり、大学設置基準の必要校地面積を十分満たしている。また、総合グラウンドをはじめ複数の運動場やカフェテラスなどの学生厚生施設が既に整えられているため、新たな校地、運動場の整備計画はない。

イ 校舎等施設の整備計画

健康学部は、校地・校舎等の図面が示す通り、湘南校舎の 5 号館において専任教員研究室、コンピュータ室、実習室、実験室、6 号館において授業を実施する教室、12 号館において図書館を専用・共用として確保している。

これらの施設により、教育研究上の必要性を満たすため、校舎等施設の新たな整備計画はないが、5 号館の実習室・実験室等において、以下の設備を完成年度までに整備する計画である。

①運動系実習室

心肺蘇生法人体モデル（全身）、大型モニタ、体組成計、高齢者向け体力測定機器一式、筋電計、床反力計、等速性筋出力測定装置、等尺性筋出力測定器、呼吸代

謝機能測定装置

②栄養系実験室等

マイクロプレートリーダー、液体クロマトグラフィー、発光撮影装置、肌状態測定器、クリーンベンチ、小型高速遠心機、分光光度計、pH メーター

③マルチラボ室

骨密度計、血圧脈波検査装置

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備について

健康学部が設置される湘南校舎には、複数の図書館分館があり、健康学部の学生は、12 号館図書館分館を主に利用する。

健康学部の学問領域に関わる図書資料として、図書 67,754 冊を所蔵しており、健康学部設置後も、引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集し、充実させる予定である。

2) 学術雑誌の整備について

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの 2 形態を整備する。「学術雑誌一覧」(資料 3) の通り、健康学部に関して、多数の学術雑誌を所蔵しており教育研究に支障はない。

3) オンライン・文献データベース及びその他の電子媒体の整備について

オンライン・文献データベースは既に整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用して 24 時間検索を実現している。

4) 図書館の施設整備について

健康学部の学生が主に利用する 12 号館図書館分館について、面積は 3,098 m²、席数は 519 席であり、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

5) 他大学図書館との協力について

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。

また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。

今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

⑧ 入学者選抜の概要

1) アドミッション・ポリシー

健康学部では、次のアドミッション・ポリシーを定めている。

【健康学部健康マネジメント学科】

「健康社会」の実現を目指し、Bio-Psycho-Social（身体生理的・心理的・社会的）な諸要素で構成される「健康」を総合的に捉え、現代社会に生じている諸問題の解決していくことを目指す。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、「健康をマネジメント」できる人材の育成を目標としている。この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求める。

2) 入試選抜の方法・体制について

選抜方法として、以下の入学試験を実施する予定である。

- ・アドミッションズオフィス入学試験として、学科課題型（学科が課題を課した内容を課題発表と面接（口述試験を含む）及び書類審査によって選考）等を実施する。
- ・付属推薦入学試験（対象：全国の東海大学付属高等学校）を実施する。
- ・指定校推薦入学試験（大学が高等学校を指定し一定の枠内で入学試験を行う）を実施する。
- ・公募制推薦入学試験（学校長が推薦した者）を実施する。
- ・大学入試センター試験利用入学試験（前期と後期）を実施する。なお、実施については、別途、文部科学省及び大学入試センターへの手続きを行う予定である。
- ・一般入学試験として、一般入学試験A方式（受験日自由選択）と一般入学試験B方式（複数学科併願可能）を実施する。
- ・留学生入学試験は一般入学試験と推薦入学試験を実施する。

なお、募集定員の割合は、概ね、推薦入学試験系 30%、一般入学試験系 70%とする予定である。

入学試験における判定は、入試判定委員会によって実施される。入試判定委員会は、学長を委員長、副学長、当該学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学部等の主任、教学部長、事務部長等により構成される。

⑨ 取得可能な資格

健康学部健康マネジメント学科では、健康に対する包括的な視点を重視し、身体・生理的側面、精神・心理的側面、そして社会・経済的側面からの学際的アプローチによって、人々の健康を保障する人材を育成する。そこで、我が国のソーシャルワーカーの基本資格である社会福祉士と精神保健福祉士について、卒業要件に含まれる科目および別

に要件として設置する科目を履修することで、それぞれ国家試験受験資格の取得を可能とする。

また、社会調査士について、関連科目を修得することで資格の取得を可能とする。

【健康学部健康マネジメント学科で取得可能な資格】

社会福祉士国家試験受験資格（国家資格）

精神保健福祉士国家試験受験資格（国家資格）

社会調査士（民間資格）

⑩ 実習の具体的計画

ア 実習先の確保の状況

健康学部健康マネジメント学科では、社会福祉士国家試験受験資格を目指す学生が「社会福祉援助技術現場実習」（社会福祉士指定実習）、精神保健福祉士国家試験受験資格を目指す学生が「精神保健福祉援助実習」（精神保健福祉士指定実習）を行い（この2科目の実習を、以下「配属実習」と記す。）、社会福祉専門職に求められる力量を修得していく。

配属実習の実習先は、社会福祉施設、行政機関、医療機関、介護保険事業所等が対象となる。学生の通学圏内である神奈川県及び東京都に所在する各施設より、実習の受入れについて承諾を得ている（資料4）。

イ 実習先との契約内容

実習の契約は単年度ごとに交わすこととし、契約に際しては、実習に関する大学側の責任と実習施設の責任をそれぞれ明確にする。また、実習生は施設の利用者等にかかわる個人情報の守秘義務を確約するため、実習施設に対して、大学側責任者との連名にて誓約書を提出する。加えて、実習中は実習施設の方針に沿って指導に従う旨についても制約する。なお、実習施設に対しても、学生の個人情報にかかわる守秘義務の遂行を依頼する。

ウ 実習水準の確保の方策

（1）実習委員会の運営

実習科目を担当する教員及び実習に関するサポート業務を担うスタッフからなる実習委員会を組織し、実習の運営に関する事項を協議し、意思決定を行う予定である。

（2）実習指導教員

実習に関する事前・事後指導、実習前後の実習受入れ施設との協議、実習先への巡回指導、実習生の評価を、配属実習を担当する教員が一貫して行う。その際、1クラスあたりの学生数を20名以下で運営し、担当教員を固定する。これにより、実習生に対する個別指導が徹底され、きめ細やかな学生指導を可能

となる。これにより、実習受入れ施設との緊密な連携が図られ、実習の質の向上につながる。

エ 実習先との連携体制

(1) スーパーバイザー会議の開催と共同研修

配属実習が開始される前に、実習受入れ施設の指導者（スーパーバイザー）と大学教員との打合せ会を開催し、健康学部健康マネジメント学科における実習の位置づけや概要、到達目標等について説明するとともに、時事の社会福祉をめぐる情勢や実習受入れ施設の状況、学生の特質等について施設側と大学側との共通理解を醸成する。

また、実習教育における諸課題を共有する中から、大学と施設が協力して取り組むべき内容を抽出し、実習教育研修会を開催して、実習指導者と教員が共に検討し、研鑽する場を設ける予定である。

(2) 社会福祉現場実習指導室（実習センター）

実習の運営を支援するために、健康学部健康マネジメント学科内に「実習センター」を設置し、施設との契約に係る調整事務、実習実施のための事前準備、実習実施中の対応、事後対応等のすべてに関して一貫した対応を図る予定である。

オ 実習前の準備状況

配属実習に際しては、毎年度初頭に学生全員の健康診断を義務付けるとともに、各実習受入れ施設の要請に応じて感染症のチェックを行い、必要に応じて予防接種等の対応を指導する。また、実習開始前には事前指導の授業内において、健康管理や感染症対策等に関する専門的指導を行う。

配属実習にあたっては、大学が取りまとめて保険に加入しており、万一、実習実施中に事故が起きた場合には、必要かつ適切な処置を講じる。

カ 事前・事後における指導計画

(1) 事前学習指導

配属実習の意義と目的を理解し、実習に参加するために必要な知識や技術を修得し、実習生としての基本姿勢を獲得するとともに、実習参加の意思を明確化する。また、配属先の施設・機関等の機能、そこでの社会福祉専門職の役割や業務について理解する。それらの学習を通して、配属実習に必要な力量を身に付けつつ、具体的実習計画を立案し、実習受入れ施設への事前訪問や大学における教員の指導を通して計画の精緻化を図り、実習の開始に備える。

(2) 事後学習指導

配属実習終了後は、実習指導グループにおいて、実習中の成果等について学生間で共有し、相互交流的に実習の成果の確認と考察を進める。また、個々に

設定した実習目標と計画を振り返り、その達成状況について総括する中で、実習を通じた学びをより深く自身のものとするために、実習総括レポートをまとめる。その成果については、実習受入れ施設の実習指導者を招聘して報告会を開催するなどし、実習を通して体得し、深化された成果を共有する場を設ける予定である。

なお、その場には、次年度以降に配属実習に出向く予定の学生も出席することとし、学生同士による学習促進の機会とする。

キ 教員及び助手の配置ならびに巡回指導計画

配属実習担当教員の配置は、「社会福祉援助技術現場実習」担当専任教員 7 名、「精神保健福祉援助実習」担当専任教員 3 名である。他に実習指導を主に担当する教員を配置し、学生の対応にあたりとともに、各実習に関連する庶務等のサポートを行う予定である。

実習指導及び配属実習のクラスには、実習領域・施設種別に応じて担当教員を固定して配置する。巡回指導についてもそのクラスの教員が担当することにより、一貫した指導ができる体制を確保する。巡回指導計画については、教員 1 名につき 5～10 名程度とし、実習期間中には巡回指導と帰校日指導によって指導を行い、定められた指導回数を確保する。

「社会福祉援助技術現場実習」は、3 年次の夏期休暇中及び春期休暇中に、また「精神保健福祉援助実習」は 4 年次の夏期休暇期間中に実施することから、巡回指導や帰校指導の実施は通常講義の業務には支障を来さない体制となっている。

ク 実習施設における指導者の配置計画

実習施設は、社会福祉士ないし精神保健福祉士資格取得後 3 年以上の相談援助業務の経験を有し、かつ、厚生労働省の定める「実習指導者講習会」を受講済みの自習指導者が在籍していることを条件とし、実習施設における指導者を適切に配置する。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価については、配属実習担当者が評価責務を負う。評価にあたっては、実習現場の指導者からの評価票、実習巡回や帰校日指導において把握・確認した学生の学修状況、実習後のレポート等を総合し、実習指導担当者が評価を行う。

⑪ 管理運営

健康学部の管理運営は基本的には健康学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月 1 回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

健康学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

⑫ 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1) 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。

学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2) 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況についてWebを利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3) 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成22（2010）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、平成29（2017）年度が予定されている。

このような認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記1）及び2）などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

⑬ 情報の公表

本学は、「学校教育法施行規則」（平成 23 年 4 月 1 日施行）に基づき、以下の通り、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ＞大学案内＞学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教育・研究組織」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜学部・大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称：トップ＞大学案内＞教育・研究組織

「学部・学科」「研究科・専攻」の名称：トップ＞学部・大学院

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教職員数」として公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜研究・産官学連携＞において、研究活動・ライセンス検索（教員研究活動情報の検索）から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」：トップ＞取り組み＞教育研究活動＞教育研究年報

「教職員数、教員年齢構成」：トップ＞大学案内＞東海大学について＞教職員数

「教員が有する学位及び業績」：トップ＞学部・大学院＞学科トップ＞教員紹介

「教員研究活動情報」：トップ＞研究・産官学連携＞研究活動・ライセンス検索
＞教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞東海大学について＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜キャリア・就職＞において、「各種データ」として公表している。

また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学案内＞理念・歴史＞理念・憲章＞アドミッション・ポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ＞大学案内＞東海大学について＞学生数

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ＞キャリア・就職＞各種データ

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップペ

ーじの＜学部・学科＞及び＜大学院＞の各学部・研究科のトップページにおいて「シラバス」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各学部トップ＞シラバス

「大学院」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各研究科トップ＞シラバス

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」

トップ＞学部・大学院＞各学科トップ＞カリキュラム

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（研究科・専攻）」

トップ＞学部・大学院＞各専攻トップ＞カリキュラム

キ 校地・校舎などの施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞において、「キャンパス案内」として、その概要をキャンパスごとに公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ＞大学案内＞キャンパス案内

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「学部学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ＞大学案内＞学部学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべ

ての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ>学生生活>教育サポート、学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ>キャリア・就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ>大学案内>組織紹介>関連機関・施設>健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://www.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「理念・憲章」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜理念・歴史＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則、東海大学専門職大学院学則を、それぞれ掲載している。

設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜情報の公表＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成 22 年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞＜教育研究活動＞において、「自己点検評価」として掲載している。

⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

健康学部では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善について PDCA のサイクルを実施する。

また、FD 委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大

学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。更にFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的に行い、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。更に、学部においてMSS（Mission Sharing Sheet）を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

なお、東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。

教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1) 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。

本学科においては、教養科目を「T字型人材」育成の「根幹・骨組み」あたる教育とし、専門科目において「教育の幹となる縦軸の基礎」と、「広い知識と考える力を身に付けていくための軸」と位置づけている。このパブリック・アチーブメント型教育を生かしながら、具体的に専門科目においては、ソーシャルウェルネス学科目の「健康経済論」、「健康産業論」、「多職種連携論」、「非営利組織論」等の科目と、ソリューション学科目の各科目等により知識や社会の広がりや身に付け、フィールドワークで実践することにより、各分野の垣根を越えた新しい職業観の確立を行う。

2) 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・

挑み力・成し遂げ力」を身に付ける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3) 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b o を軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b o により、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類
健康学部

【資料目次】

資料 1 学校法人東海大学教職員定年規程

資料 2 履修モデル

資料 3 学術雑誌一覧

資料 4 実習施設一覧

資料 1 学校法人東海大学教職員定年規程

(制定 昭和28年 6 月 1 日)

改訂	昭和43年 4 月 1 日	昭和63年 4 月 1 日
	1991年 6 月17日	1994年 4 月 1 日
	2000年 4 月 1 日	2003年 4 月 1 日
	2004年 4 月 1 日	2006年 4 月 1 日
	2007年 4 月 1 日	2011年 4 月 1 日
	2012年 4 月 1 日	2013年 4 月 1 日
	2017 年 4 月 1 日	

第 1 条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資 格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職 1 種・ 2 種	65
			中級職 1 種・ 2 種	62
			一般職 1 種	62
		助教諭	一般職 2 種	60
	2004 年 4 月 1 日以 後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職 1 種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1 等級～ 4 等級	65
			5 等級～ 7 等級	62
			8 等級以下	60

	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65
			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

資料2-1 履修モデル（健康学部健康マネジメント学科） 多分野の知識を併せ持つソーシャルワーカー（社会福祉士）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論							現代文明論	2								
II 現代教養科目	社会科学	2	人文科学	2												
	地域理解	1	自然科学	2												
	国際理解	1	シティズンシップ	1												
	健康・フィットネス理論実習	1	ボランティア	1												
			生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2	グローバルスキル	2	アカデミックスキル	2								
IV 主専攻科目	健康学概論	2	社会学	2	介護学入門	2	地域福祉の理論と方法B	2	コミュニティデザイン論	2	福祉行財政と計画	2	運動による外傷・障害と救急処置	2	ヘルスリサーチの実践	4
	現代社会と福祉A	2	現代社会と福祉B	2	地域福祉の理論と方法A	2	高齢者と福祉	2	権利擁護と成年後見制度	2	福祉サービスの組織と経営	2	健康科学実習	2	運動療法と介護予防	1
	社会保障A	2	ヘルスリサーチ入門	2	子ども家庭と福祉	2	障害者と福祉	2	社会調査法	2	非営利組織論	2				
	ソーシャルワーク基礎1	2	ソーシャルワーク基礎2	2	相談援助の理論と方法A	4	生活困窮と公的扶助	2	社会統計学	2	健康情報解析法	2				
	栄養学入門	2	健康づくり運動の理論とプログラム	2	ソーシャルワーク演習1	2	社会保障B	2	相談援助の理論と方法B	4	運動療法と介護予防	1				
			健康づくり運動の実技と指導A	1	心と身体のおくみ1	2	保健医療サービス	2	運動療法と介護予防	1	フィールドワークC	2				
					食品の安全性	2	ソーシャルワーク演習2	2	機能性食品の開発	2						
							健康づくり運動の実技と指導C	1								
							健康づくり運動の実技と指導D	1								
	健康学入門演習1	1	健康学入門演習2	1	健康学専門演習1	2	健康学専門演習2	2	健康学専門演習3	2	卒論演習1	2	卒論演習2	2	卒業論文・卒業研究	2
単位数合計		18		21		20		22		17		13		6		7

※社会福祉士受験資格取得希望者は、上記の科目以外に卒業要件に含まれない科目として、4科目12単位の修得が必要

資料2-2 履修モデル（健康学部健康マネジメント学科） 健康産業・自治体等で活躍する健康分野のマネジメントリーダー

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論							現代文明論	2								
II 現代教養科目	社会科学	2	人文科学	2												
	地域理解	1	自然科学	2												
	国際理解	1	シティズンシップ	1												
	健康・フィットネス理論実習	1	ボランティア	1												
			生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2	グローバルスキル	2	アカデミックススキル	2								
IV 主専攻科目	健康学概論	2	社会学	2	ウェルネス経営論	2	地域福祉の理論と方法 B	2	コミュニティデザイン論	2	福祉サービスの組織と経営	2	ソーシャルワーク演習 1	2	フィールドワーク C	2
	環境と健康 A	2	現代社会と福祉 B	2	地域福祉の理論と方法 A	2	高齢者と福祉	2	公共政策	2	人的資源管理論	2	健康科学実習	2		
	現代社会と福祉 A	2	ウェルネス総論	2	健康経済論	2	社会保障 B	2	社会調査法	2	非営利組織論	2				
	ヘルスリサーチ入門	2	健康統計学	2	多職種連携論	2	保健医療サービス	2	社会統計学	2	健康情報解析法	2				
	心理学概論	2	健康づくり運動の理論とプログラム	2	相談援助の理論と方法 A	2	健康産業論	2	精神医学 1	2	運動による外傷・障害と救急処置	2				
	栄養学入門	2	細胞の構造と機能	2	健康づくり運動の実技と指導 C	1	健康と運動の生理学	2	機能性食品の開発	2	生体分子の分析技術	2				
	美と健康の科学	2			健康づくり運動の実技と指導 D	1	健康と運動の心理学	2	インターンシップ A	2	体の変化を捉える技術	2				
					食べ物の化学	2										
	健康学入門演習 1	1	健康学入門演習 2	1	健康学専門演習 1	2	健康学専門演習 2	2	健康学専門演習 3	2	卒論演習 1	2	卒論演習 2	2	卒業論文・卒業研究	2
単位数合計		22		22		18		20		16		16		6		4

124

資料3 学術雑誌所蔵一覧

健康学部健康マネジメント学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	基礎心理学研究 / 日本基礎心理学会
2	応用心理学研究 = Japanese journal of applied psychology / 日本応用心理学会 [編]
3	教育心理学年報 / 日本教育心理学会編集
4	行動計量学 / 日本行動計量学会 [編]
5	上智大学心理学年報 / 上智大学心理学科 [編]
6	心理學研究 / 日本心理學會編輯
7	心理学評論
8	日本大学心理学研究 / 日本大学心理学会
9	教育心理学研究 / 日本教育心理学協会編集
10	カウンセリング研究 / 日本カウンセリング学会 [編集]
11	心理臨床学研究 = Journal of Japanese clinical psychology / 日本心理臨床学会 [編]
12	こころの科学 = Human mind
13	心理学报
14	明治学院大学心理学紀要 / 明治学院大学心理学会
15	臨床心理学 = Japanese journal of clinical psychology
16	日本音楽療法学会誌 = The journal of Japanese Music Therapy Association / 日本音楽療法学会 [編]
17	厚生指標 / 厚生統計協会
18	季刊労働法 / 労働法研究所 [編]
19	社會學研究
20	明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要 / 明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻 [編]
21	社会学評論 / 日本社会学会編
22	社会学論叢 / 日本大学社会学研究室 [編]
23	週刊社会保障 / 社会保険法規研究会
24	上智大学社会学論集 / 上智大学社会学科 [編]
25	ソシオロジ / 社会学研究会 [編]
26	東洋大学社会学部紀要 / 東洋大学社会学部 [編]
27	関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究 / 関西大学大学院社会学研究科院生協議会 [編集]
28	労働科学：国民の生活と勤労とに関する総合的研究 / 日本労働科学研究所 [編]
29	労働の科学 = Science of labour / 労研・労働科学研究会 [編]
30	社会福祉研究 / 鉄道弘済会弘済会館 [編]
31	南島研究 / 南島研究会
32	社会福祉学 / 日本社会福祉学会編
33	社会事業史研究 / 社会事業史研究会 [編集]
34	日本女子大学紀要
35	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所
36	厚生統計要覧 / 厚生省大臣官房統計調査部編
37	子ども白書 / 日本子どもを守る会編
38	社会心理学研究 = Research in social psychology
39	社会生活基本調査報告 / 総理府統計局
40	社会分析：社会学研究年報 / 社会分析学会
41	社会保障統計年報 / 総理府社会保障制度審議会事務局編
42	日本労働年鑑 / 大原社会問題研究所編纂
43	防災白書 / 総理府編
44	労働統計要覧 / 内閣統計局
45	労務年鑑 / 日本労務研究会編
46	家族社会学研究 / 家族社会学セミナー編
47	日本労働研究雑誌 / 日本労働研究機構編
48	青少年問題 / 中央青少年問題協議会 [編]
49	The community：コミュニティ / 地域社会研究所 [編]
50	地域学研究 / 日本地域学会 [編]
51	労働経済判例速報 / 日本経営者団体連盟
52	复印报刊資料. C4, 社会学
53	社会学研究
54	貴州民族研究
55	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
56	発達障害白書 / 日本精神薄弱者福祉連盟 [編]
57	データブック国民生活時間調査 / NHK放送文化研究所 [編]

No.	誌名(国内雑誌)
58	比較家族史研究 / 比較家族史学会 [編]
59	高齢社会白書 / 総務庁編
60	社会志林 / 法政大学社会学部学会 [編]
61	ジェンダー研究 : お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies / お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編集]
62	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集
63	月刊介護保険
64	異文化交流 / 東海大学外国語教育センター異文化交流研究会 [編]
65	障害者白書 / 総理府編
66	女性白書 / 日本婦人団体連合会編
67	活用労働統計 : 生産性・賃金・物価関連統計 / 日本生産性本部労働部
68	労働経済白書 / 厚生労働省編
69	アンケート調査年鑑
70	世界の社会福祉年鑑 = Global social welfare yearbook
71	子どもの虐待とネグレクト : 日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 / 日本子どもの虐待防止研究会 [編]
72	高齢社会基礎資料 / エイジング総合研究センター [編著]
73	国民生活基礎調査 / 厚生省大臣官房統計情報部編
74	季刊福祉労働 : 障害者・保育・教育の総合誌 : fukushi rodo : the all-round magazine for handicapped person, childcare & education
75	安全と健康 = Industrial safety & health
76	日本労働法学会誌 / 日本労働法学会
77	世界の厚生労働 : 海外情勢報告 / 厚生労働省編
78	女性労働の分析 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
79	ソシオロギス / ソシオロギス編集委員会
80	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]
81	月刊福祉 / 全国社会福祉協議会 [編]
82	社会政策 = Social policy and labor studies / 社会政策学会編
83	国民生活研究 / 国民生活研究所
84	労働力調査報告 / 総理府統計局 [編] = Monthly report on the labor force survey / Bureau of Statistics, Office of the Prime Minister
85	労働統計年報 = Year book of labor statistics / 労働省大臣官房労働統計調査部 [編]
86	家計調査年報
87	社会と調査 = Advances in social research / 社会調査士資格認定機構 [編集]
88	障害学研究 = Journal of disability studies
89	総合女性史研究 / 総合女性史研究会 [編]
90	日本都市社会学年報 = The annals of Japan Association for Urban Sociology / 日本都市社会学会編
91	消費と生活
92	賃金と社会保障 / 労働旬報社
93	支援 / 「支援」編集委員会 [編]
94	自殺対策白書 / 内閣府 [編]
95	実験社会心理学研究 / 日本グループ・ダイナミックス学会編集
96	社会保障研究 / 国立社会保障・人口問題研究所 [編]
97	教育と医学 / 教育と医学の会 [編]
98	健康管理 / 労働結核研究会, 保健文化社 [編]
99	公衆衛生
100	ファルマシア / 日本薬学会
101	保健の科学
102	日本栄養・食糧学会誌 : Nippon eiyo shokuryō gakkaiishi = Journal of Japanese Society of Nutrition and Food Science / 日本栄養・食糧学会
103	人間と環境 / 環境科学総合研究会・実行委員会 [編] = Man and environment / Japan Association on the Environmental Studies
104	臨床スポーツ医学 = The journal of clinical sports medicine
105	東海大学スポーツ医科学雑誌 / 東海大学スポーツ医科学研究所
106	厚生労働白書 / 厚生労働省監修
107	生体医工学 : 日本エム・イー学会誌 = Transactions of the Japanese Society for Medical and Biological Engineering : BME
108	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 / 東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設 [編]
109	医療経済研究 / 医療経済研究機構編
110	食生活データ総合統計年報 = Yearbook of food consumption statistics / 食品流通情報センター [編]
111	東海大学医学部年報 / 東海大学医学部 [編]
112	東海大学健康科学部紀要 / 東海大学健康科学部 [編]

No.	誌名(国内雑誌)
113	国民健康・栄養の現状：厚生労働省国民健康・栄養調査報告より = The national health and nutrition survey in Japan / 健康・栄養情報研究会編
114	医療機器学 = The Japanese journal of medical instrumentation / 日本医療機器学会
115	人工臓器 / 日本人工臓器学会
116	Clinical engineering = クリニカル・エンジニアリング
117	Tarzan
118	Sportsmedicine : media of communication for sportsmedicine people
119	統合失調症のひろば：こころの科学
120	実験医学 = Experimental medicine
121	社会医療診療行為別統計 = Statistics of medical care activities in public health insurance / 厚生労働省政策統括官(統計・情報政策担当) [編集]
122	日本義肢装具学会誌 = Bulletin of the Japanese Society of Prosthetic and Orthotic Education, Research and Development / 日本義肢装具学会
123	大阪体育大学紀要 / 大阪体育大学 [編集]
124	中京大学体育学論叢 / 中京大学学術研究会
125	体育研究 / 中央大学保健体育委員会 [編]
126	体育の科学：保健と体育の平易な総合雑誌 / 日本体育学会 [編集]
127	体力科学 / 日本体力医学会監修
128	東海大学紀要
129	日本女子体育大学紀要 / 日本女子体育大学 [編]
130	デサントスポーツ科学 = Descente sports science / デサントスポーツ科学振興財団
131	月刊体育施設 = Sports facilities / 日本体育施設協会 [監修]
132	Training journal = 月刊トレーニング・ジャーナル
133	月刊水泳 / 日本水泳連盟 [編]
134	スポーツのひろば / 新日本体育連盟全国連盟
135	体育学研究 = Research of physical education / 日本体育學會
136	Number : sports graphic = ナンバー：スポーツグラフィック
137	コーチング・クリニック = Coaching clinic / ベースボール・マガジン社
138	ソフトボールマガジン = Softball magazine
139	中京大学体育研究所紀要 / 中京大学体育研究所
140	レジャー白書 / 余暇開発センター [編]
141	みんなのスポーツ / 全国体育指導委員連合, 都道府県体育協会連絡協議会 [編集]
142	スポーツイベントハンドボール = Sports event hand ball : exciting monthly magazine for handballer
143	Archery = アーチェリー / レオ・ブランニング [編]
144	Cycle sports = サイクルスポート
145	国際武道大学研究紀要 / 国際武道大学 = The International Budo University journal / the International Budo
146	武道 = Monthly magazine the "Budo" / 日本武道館 [編]
147	ウォーキング研究 / 日本ウォーキング学会 [編] = Walking research / Japanese Academy of Sciences in

国内雑誌 147種

No.	誌名(国外雑誌)
1	The American journal of psychology
2	Journal of experimental psychology
3	Psychological bulletin
4	Psychological review
5	Psychometrika
6	Perception
7	Psychological reports
8	International journal of aging and human development
9	Annual review of psychology
10	Qualitative research in psychology
11	The American journal of sociology
12	Consumer reports
13	Contributions to Indian sociology
14	The Journal of peasant studies
15	Recht der Arbeit : Zeitschrift für die Wissenschaft und Praxis des Gesamten Arbeitsrechts
16	Social problems
17	Signs : journal of women in culture and society
18	Social history
19	Sociological focus / Ohio Valley Sociological Society

No.	誌名(国内雑誌)
20	Sociology : the journal of the British Sociological Association
21	Man and life : a journal of the Institute of Social Research and Applied Anthropology
22	Slavery & abolition
23	Sociological perspectives : SP : official publication of the Pacific Sociological Association
24	Cultural dynamics
25	Journal of refugee studies
26	Women : a cultural review
27	European journal of communication
28	Journal of family history : studies in family, kinship and demography
29	Research on aging : a quarterly of social gerontology
30	Ageing and society / Centre for Policy on Ageing and the British Society of Gerontology
31	European sociological review
32	Comparative sociology
33	Leisure studies : the journal of the Leisure Studies Association
34	Journal of multicultural discourses
35	European journal of ageing
36	Group dynamics : theory, research, and practice
37	Cultural sociology : a journal of the British Sociological Association
38	The Journal of sports medicine and physical fitness
39	Perceptual and motor skills
40	Culture, medicine and psychiatry
41	Industrial health
42	Journal of applied physiology
43	Social history of medicine : the journal of the Society for the Social History of Medicine / SSHM
44	Medical humanities : edition of the Journal of medical ethics
45	Cognitive Neuroscience Society Annual Meeting abstract program : a supplement of the Journal of cognitive neuroscience
46	Chronobiology international
47	European journal of applied physiology
48	Global health promotion
49	Medicine and science in sports and exercise : official journal of the American College of Sports
50	Turnen + sport : TuS : Fachzeitschrift für gymnastik, turnen, spiel und sport
51	Journal of the philosophy of sport / Philosophic Society for the Study of Sport
52	Journal of sport management / North American Society for Sport Management
53	Quest / National Association for Physical Education in Higher Education
54	Journal of applied biomechanics
55	Sociology of sport journal
56	European physical education review / North West Counties Physical Education Association
57	Journal of sport & exercise psychology

国外雑誌 57種

資料4 実習施設一覧

「相談援助実習」

	種別	施設名	所在地	受入れ可能人数
1	児童養護施設	鎌倉児童ホーム	神奈川県鎌倉市佐助1丁目6番6号	1
2	児童養護施設	救世軍世光寮	東京都杉並区和田2-21-1	1
3	児童養護施設	至誠学園	東京都立川市錦町6-26-15	1
4	児童自立支援施設	神奈川県立おおいそ学園	神奈川県中郡大磯町生沢527	1
5	児童相談所	神奈川県中央児童相談所	神奈川県藤沢市亀井野3119	2
6	児童相談所	神奈川県平塚児童相談所	神奈川県平塚市中原3-1-6	2
7	児童相談所	横須賀市児童相談所	神奈川県横須賀市小川町16	1
8	障害者施設	愛名やまゆり園	神奈川県厚木市愛名1000	1
9	障害者施設	青葉メゾン	神奈川県横浜市青葉区奈良町1757-3	1
10	障害者施設	アガペサポートセンター	神奈川県座間市小松原二丁目10番14号	1
11	障害者施設	きらら	神奈川県相模原市南区麻溝台2-3-28	2
12	障害者施設	総合福祉センター 弘済学園	神奈川県秦野市北矢名1195-3	2
13	障害者施設	丹沢レジデンシャルホーム	神奈川県秦野市菩提1711番地2	2
14	障害者施設	七沢自立支援ホーム	神奈川県厚木市七沢516	1
15	障害者施設	秦野精華園	神奈川県秦野市南矢名3-2-1	1
16	社会福祉協議会	伊勢原市社会福祉協議会	神奈川県伊勢原市伊勢原2-7-31伊勢原シティプラザ1F	2
17	社会福祉協議会	開成町社会福祉協議会	神奈川県足柄上郡開成町吉田島1043番地1	1
18	社会福祉協議会	平塚市社会福祉協議会	神奈川県平塚市追分1-43（福祉会館内）	2
19	福祉事務所	座間市福祉事務所	神奈川県座間市緑ヶ丘1-1-1	2
20	福祉事務所	平塚市福祉事務所	神奈川県平塚市浅間町9-1	2
21	医療機関	神奈川リハビリテーション病院	神奈川県厚木市七沢516	2
22	医療機関	北里大学病院	神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号	1
23	医療機関	聖マリアンナ医科大学東横病院	神奈川県川崎市中原区小杉町3-435	1
24	医療機関	鶴巻温泉病院	神奈川県秦野市鶴巻北1丁目16番1号	1
25	医療機関	東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	1
26	医療機関	東名厚木病院	神奈川県厚木市船子232番地	1
27	医療機関	横浜市東部病院	神奈川県横浜市鶴見区下末吉3丁目6番1号	1
28	介護老人保健施設	さつきの里あつぎ	神奈川県厚木市船子322番地1号	2
29	特別養護老人ホーム	らんの里	神奈川県伊勢原市沼目6-1257	4

「精神保健相談援助実習」

	種別	施設名	所在地	受入れ可能人数
1	精神科病院	江田記念病院	神奈川県青葉区あざみ野南1-1	1
2	精神科病院	神奈川県立精神医療センター	神奈川県横浜市港南区芹が谷二丁目5番1号	1
3	精神科病院	北小田原病院	神奈川県南足柄市矢倉沢625	2
4	精神科病院	けやきの森病院	神奈川県高座郡寒川町宮山3505	1
5	精神科病院	国府津病院	神奈川県小田原市田島125番地	1
6	精神科病院	新横浜こころのホスピタル	神奈川県横浜市港北区新横浜1丁目21番6号	1
7	精神科病院	相州病院	神奈川県厚木市上荻野1682-3	2
8	精神科病院	相州メンタルクリニック	神奈川県厚木市泉町15-12	1
9	精神科病院	曽我病院	神奈川県小田原市曽我岸148番地	1
10	精神科病院	タカハシクリニック	東京都大田区蒲田四丁目29番11号	2
11	精神科病院	武田病院	神奈川県川崎市多摩区登戸3193番地	1
12	精神科病院	日向台病院	神奈川県横浜市旭区市沢町1081	1
13	診療所	汐入メンタルクリニック	神奈川県横須賀市汐入町2丁目7番地1号 山下ビル2・3階	1

14	地域活動支援センター	相模原市立南障害者地域活動支援センター	神奈川県相模原市南区南台4-12-54 市営南台団地4号棟1F	2
15	地域活動支援センター	地域活動支援センター カミング	神奈川県相模原市中央区淵野辺4-15-6 ヴィーナス2F	1
16	地域活動支援センター	地域活動支援センター ねくすと	神奈川県伊勢原市伊勢原4-10-5	1
17	就労継続支援B型	荒川ひまわり第2	東京都荒川区東尾久3-20-10-2 F	1
18	就労継続支援B型	伊勢原そよ風ハウス	神奈川県伊勢原市沼目5-19-4	1
19	就労継続支援B型	ギッフェリ	神奈川県横浜市中区千歳町1-11 マンション長者町1階	3
20	就労継続支援B型	つくし	神奈川県伊勢原市伊勢原3-6-7-2 F	2
21	就労継続支援B型	トライフィールド わーくあーつ	神奈川県厚木市幸町10-18	1
22	就労移行支援・就労継続支援B型・自立訓練（生活訓練）	原町田スクエア	東京都町田市原町田5-4-19	1
23	相談支援事業所	つくし相談室	神奈川県伊勢原市伊勢原3-5-7	1
24	相談支援事業所	横浜市栄区生活支援センター	神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷3-32-12 2階	2
25	精神保健福祉センター	相模原市精神保健福祉センター	神奈川県相模原市中央区中央2丁目11番15号（市役所内）	1

学生の確保の見通し等を記載した書類 健康学部健康マネジメント学科

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 新設する健康学部の定員充足の見込み

① 本学既設学科における定員充足状況と定員増加に対する充足の見込み

平成 30 年度に新設する健康学部健康マネジメント学科は既設の健康科学部社会福祉学科を基礎として設置する。健康学部の入学定員は 200 名であり、既設学科の入学定員 85 名と比較して 115 名増加している。

健康学部健康マネジメント学科は、1) 社会学・社会福祉学関係の既存学科を基礎、学問の柱とし、2) 健康・スポーツ・体育学関係、3) 食物学・栄養学関係の分野の科目も一部取り入れ、総合的に「健康」について取り組む学部・学科である。したがって、1) の需要に加え、2) 及び 3) の分野に興味・関心を持つ受験生の需要も、以下のとおり見込まれることから、設定する入学定員を充足することが見込まれる。

(1) 既設学科の過去 5 年間の入学者数について集計した結果、平成 28 度は合格者数を減らしたため定員を充足することは出来なかったが、平成 29 年度には定員を充足している状況であり、既設学科への入学希望者数は安定している（資料 1）。

(2) 以下②に記すアンケート調査において、同時に調査を実施した「興味のある分野（第 1 位）について」（資料 2-p4）において、調査対象者の 24,690 名が“興味があるとした分野”は、既設学科が属する「社会学・社会福祉学関係」は、600 名（2.4%）であるが、新しく加わる「健康・スポーツ・体育学関係」は、2,204 名（8.9%）、「食物学・栄養学関係」は、907 名（3.7%）であることから入学者の増加が見込まれる。

加えて、この調査結果の回答者の現住所は、東京都、神奈川県が全体の 50.5%（13,490 名）を占めていることから、入学者の増加が見込まれる。（資料 2-p3）

② 高校生 2 年生を対象としたアンケート調査結果

平成 30 年度に大学進学対象となる高校 2 年生に対して、健康学部健康マネジメント学科の新設に関する入学意向アンケート調査を実施した。

（資料 2-p14）

アンケートの結果、健康学部健康マネジメント学科について、「第 1 希望として、入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 486 名であり、設定する入

学定員 200 名に対し、約 2.43 倍であった。

以上のことから、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生の数が設定する定員を上回っており、定員を充足できる見込みである。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の定員充足の見込み (資料 3)

【基盤工学部電気電子情報工学科】

本学科の教育目標である「電気・電子・情報工学及びその応用分野へ適用可能な基盤知識を幅広く理解し、その専門技術を急速に発展している情報化に提供できる実践的技術の育成」を掲げ、広報を展開したが、受験生にとってやや捉えにくく、平成 25 年度の開設から平成 29 年度入試までは入学者数が定員を下回り、平成 28 年度入試までは毎年入学者が減少した。しかし、平成 29 年度入試では平成 28 年度に発生した熊本地震の影響があったにも拘わらず平成 26 年度入学者数に近い 55 人（充足率 68%）の入学者があった。

平成 25 年度の入学者数は 71 名（充足率 88%）であり、平成 30 年度カリキュラムでは情報分野、植物工場、ロボット等の科目を充実させ魅力ある学科としてアピールしており、入学定員 80 名を充足できる見込みである。

【国際文化学部デザイン文化学科】

国際文化学部デザイン文化学科は平成 24 年度に新設され、平成 24 年度の入学者数は 67 名（充足率 95%）であった。

平成 25 年度～平成 28 年度の入学者数は 30～40 名で推移したが、平成 29 年度の入学者数が 56 名（充足率 80%）となったことを考慮すれば、70 名の定員設定は適切と考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 「新設する学部の基礎となる学科の過去 5 年間の入試状況」(資料 1)

平成 25 年度入試～平成 29 年度入試における、新設する健康学部健康マネジメントの基礎となる既設学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

2) 「東海大学文化社会学部（仮称）、健康学部（仮称）、医学部看護学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート調査報告」(資料 2)

①目的

東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科への入学意向を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

②対象

東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1都1道1府26県に所在する高等学校の在学者で、平成30年度大学進学対象となる高校2年生を調査対象とした。

③調査方法

平成28年11月から平成29年1月にかけて、高等学校149校に、34,925人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。

なお、高等学校への発送、アンケート結果の回収、集計・分析は、本学が業務を委託した一般財団法人日本開発構想研究所により実施された

この結果、高校2年生26,704人から有効回答（有効回収率約76.4%）があり、東海大学文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向を分析した。

3)「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況」（資料3）

平成25年度入試～平成29年度入試における、「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

ウ 学生納付金の設定の考え方

1) 他学部等との比較

新設する健康学部の学生納付金は、1,536,200円（入学金300,000円、授業料650,000円、施設設備費等527,000円、諸会費59,200円／年）となっており、文化社会学部の同一分野の学科と整合する金額の設定となっている（資料2-p17, p19）。

2) 近隣の競合校等の状況との比較

健康学部健康マネジメント学科は東海大学湘南校舎（神奈川県）に設置される。そこで、関東圏に所在し、学部学科名称や教育内容が類似している、他大学の学部等の初年度学生納付金との比較を行った結果、ほぼ同水準であり、適切な金額設定と考えている（資料2-p19）。

東海大学健康学部	比較する他大学の学部等
健康学部健康マネジメント学科 <u>1,536,200 円</u> 入学金 300,000 円、 授業料 650,000 円／年、 施設設備費等 527,000 円、 諸会費 59,200 円／年	大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科(埼玉県) <u>1,766,600 円 (合計)</u> 早稲田大学 人間科学部 健康福祉科学科 (埼玉県) <u>1,601,000 円 (合計)</u> 桜美林大学 健康福祉学群 健康科学専修 (東京都) <u>1,434,000 円 (合計)</u>

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 新設する健康学部の取組状況

受験生、保護者、高等学校等の教員に加え、現代社会の問題点等や本学部の意義を含めて、社会全体への周知活動も行う。

①オープンキャンパス

付属高校生向けに 9 月、一般受験生向けに、7 月、8 月 (2 回)、11 月、3 月に開催を計画している。実際に学修を進めるキャンパスにおいて、直接教員の説明を聞くこと、質問することにより、より学部・学科を身近なものとして、志願者の確保につなげている。

②高校訪問

全国の高校を個別に訪問し、本学部・学科の広報を行う。

③大学説明会の開催

本学が開催する高校教員向けの説明会において、新設学部の説明を行う。

④パンフレットの作成

各種パンフレットを作成し、学科の案内と入学試験について周知を行う。

⑤ホームページの開設

新設学部の特設サイトを作成し、学科の案内を行う。

⑥各種媒体による広報

電車内の広告、進学情報冊子、Web 広告など、幅広く広報を行う。

⑦シンポジウムの開催

直接的な広報ではないが、4 月、7 月、9 月、11 月にシンポジウムを開催し、現代社会の問題点から、健康学部設置の趣旨、研究教育内容などについて一般的に広報を行う。

2)「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の取組状況

【基盤工学部電気電子情報工学科】

現行カリキュラムでも既に実施しているアクティブラーニングの一種である PBL (Project Based Learning) を今後更に強化し、自ら考え行動する能力を育成し、製造業界から注目される人材を増やして行く予定である。

平成 27 年度、平成 28 年度は数名の学部 3 年生が学会で口頭発表している。また、本学科が中心となりロボットコンテスト・マイコンカーラリー等のイベントも開催している。毎年高校生の参加数が増え、過去には数名マイコンカーラリーに参加した高校生が本学科に入学しており平成 29 年度も 1 名入学している。今年三月に第一期生が卒業したが、就職内定率は 100 %であり、高い内定率を得ることができた。

既に学科独自のホームページは開設しているが、今後は更に内容を充実させ、学生の学会発表やイベント開催の様子、就職内定先など随時情報を発信し、高校生が本学科に興味を持つような内容にする予定である。

【国際文化学部デザイン文化学科】

定員未充足の原因のひとつとして、受験生に対する、卒業後の進路に関する広報の不足があったと考えている。

平成 27 年度には国際文化学部デザイン文化学科として最初の卒業生を輩出したが、就職率（就職希望者に対する就職内定者の割合）は 100%に達した。また、就職先も学科で学んだデザイン・建築の知識とスキルを生かせる職種に多く就職した。

その卒業後の進路に関する成果を広報した効果もあり、平成 29 年度の入学人数は昨年度の 35 名から 56 名に増加し、入学定員に対する充足率も 80%まで回復した。

平成 30 年度の学生募集においては、卒業後の進路や作品受賞の実績といった教育の成果を高校に発信するなど、教育広報を強化することにより、70 名の定員を確保したい。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人口減少と高齢化が急激に進む日本において、人的資源、公的資源に限られる一方で、保健・医療・福祉に対するニーズはますます多様化し、多くの問題や課題が生じている。このような状況で、健康増進や予防等を広く捉え、「健康」を一体的に提供できる社会体制や、コミュニティでの仕組みづくりが強く求められており、様々な分野を跨り、多層化する社会構成の中に存在する、“健康”を捉え、理解し、整理し、そして新しい“健康社会”を作っていく、「マネジメント能力」が、自治体や企業を始め、現代の日本には必要とされている。

本学科は、このような問題の解決に向けて、身体的な健康だけではなく、精神

的、社会的な健康についての多角的な知識と、地域社会や企業と連携協同できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材（T字型人材）を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

上記①について、（資料 4）のとおり、全国 2,400 社の人事関連業務担当者に対して調査を行った。結果として、25.3%（608 社）より回答があり、健康学部健康マネジメント学科の卒業生を採用したいと思うと回答した企業は、83.2%（506 件）であり、1 学年の人数を超えていること（資料 4-p6, p12）、上記①の教育上の目的を持つ健康マネジメント学科の社会的必要性について「必要だと思う」と答えた企業が、93.1%（566 社）（資料 4-p5, p12）である。

以上のことから、健康学部健康マネジメント学科が養成する人材像と、教育上の目的については企業にも理解されており、卒業生の進路も見込めるものと判断される。

以 上

資料1 新設する学部基礎となる学科の過去5年間の入試状況

健康科学部社会福祉学科

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均入学定員超過率
入学定員	85	85	85	85	85	1.03
志願者数	315	352	297	224	335	
受験者数	302	336	283	212	323	
合格者数	187	203	190	174	198	
入学者数	92	93	90	70	98	
入学定員超過率	1.08	1.09	1.05	0.82	1.15	

東海大学 文化社会学部（仮称）、健康学部（仮称）、
医学部 看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成29年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、
北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学
科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 30 年 4 月に予定している東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1 都 1 道 1 府 26 県（東京都、北海道、大阪府、青森県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県）に所在する高等学校の在学者で平成 30 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

(3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校 149 校に 34,925 人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、高校 2 年生 26,704 人から有効回答（有効回収率約 76.4%）があった。

集計結果より、東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 28 年 11 月～平成 29 年 1 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 149 校 34,925 人

有効回答者数：高等学校 147 校 26,928 人の回答のうち、高校 2 年生 26,704 人

有効回収率：約 76.4% (有効回答者 26,704 人÷調査対象者 34,925 人)

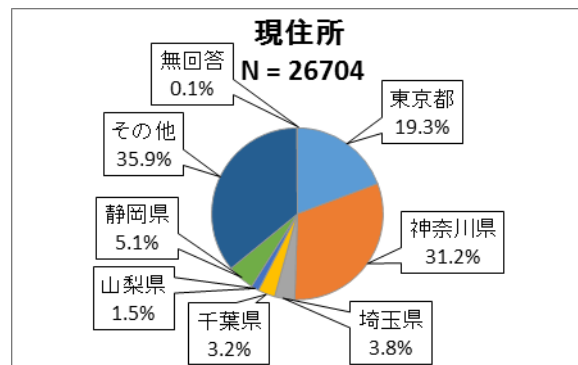
※東海大学にて設置を構想している文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、「その他」が9,579人（35.9%）と最も多く、次いで「神奈川県」8,343人（31.2%）、「東京都」5,147人（19.3%）、「静岡県」1,355人（5.1%）、「埼玉県」1,004人（3.8%）、「千葉県」866人（3.2%）、「山梨県」396人（1.5%）の順になっている。 ※「無回答」14人（0.1%）

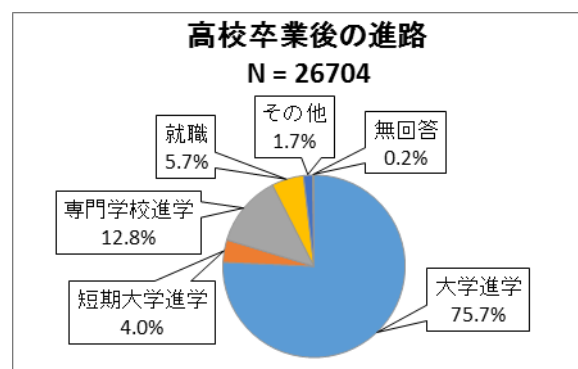
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、20,208人（75.7%）が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は1,069人（4.0%）、合わせて21,277人（79.7%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」3,413人（12.8%）を合わせると、24,690人（92.5%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100



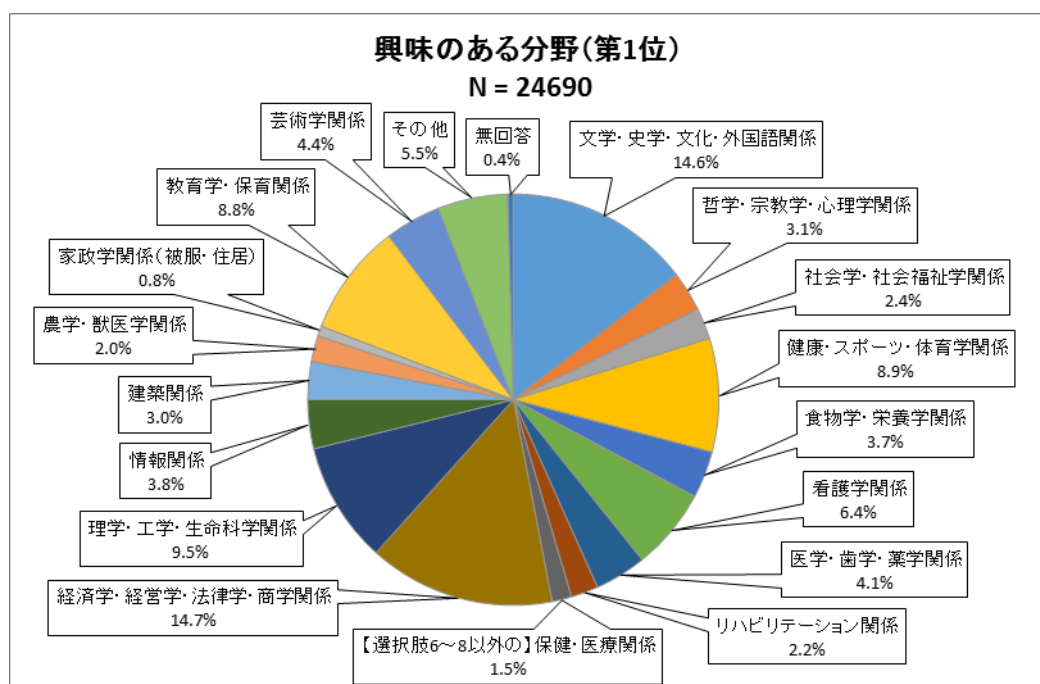
(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「経済学・経営学・法律学・商学関係」が 3,619 人（14.7%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」3,608 人（14.6%）、「理学・工学・生命科学関係」2,350 人（9.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,204 人（8.9%）、「教育学・保育関係」2,179 人（8.8%）、「看護学関係」1,588 人（6.4%）、「その他」1,363 人（5.5%）の順になっている。

※「無回答」105 人（0.4%）

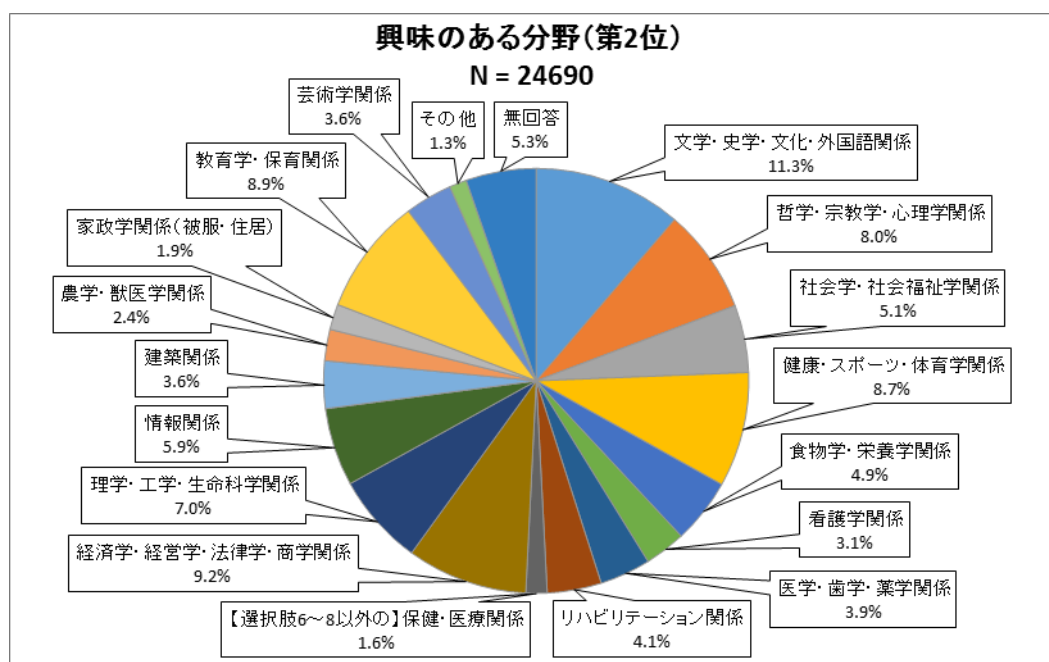
興味のある分野(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100



3-2 興味のある分野（第2位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「文学・史学・文化・外国語関係」が 2,784 人（11.3%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法学・商学関係」2,269 人（9.2%）、「教育学・保育関係」2,197 人（8.9%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,157 人（8.7%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,968 人（8.0%）、「理学・工学・生命科学関係」1,725 人（7.0%）、「情報関係」1,467 人（5.9%）、「社会学・社会福祉学関係」1,266 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」1,318 人（5.3%）

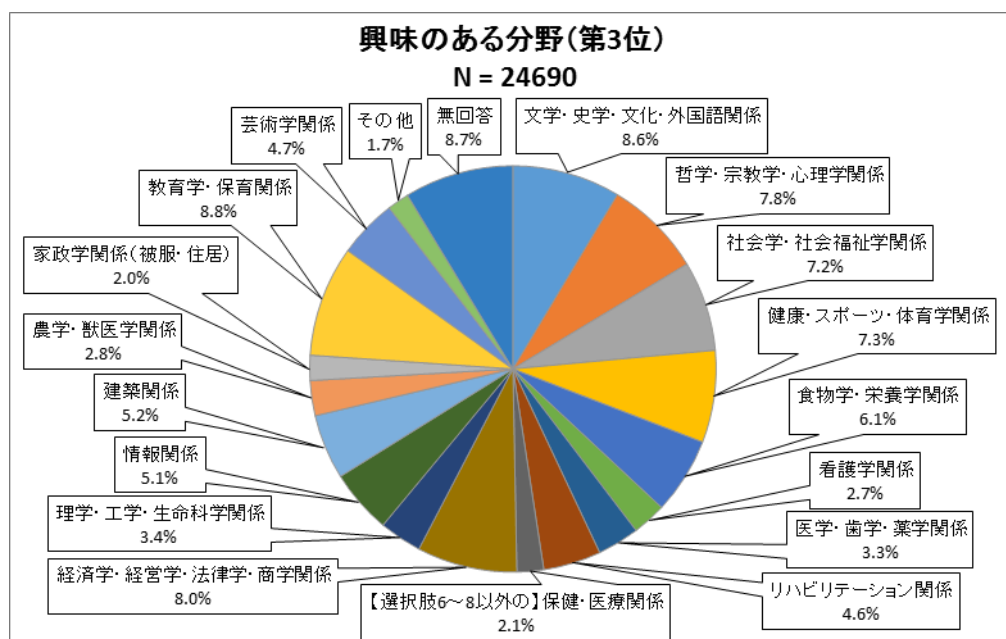
興味のある分野(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100



3-3 興味のある分野（第3位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第3位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「教育学・保育関係」が 2,177 人（8.8%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」2,122 人（8.6%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」1,967 人（8.0%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「健康・スポーツ・体育学関係」1,810 人（7.3%）、「社会学・社会福祉学関係」1,769 人（7.2%）、「食物学・栄養学関係」1,501 人（6.1%）、「建築関係」1,274 人（5.2%）、「情報関係」1,257 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」2,142 人（8.7%）

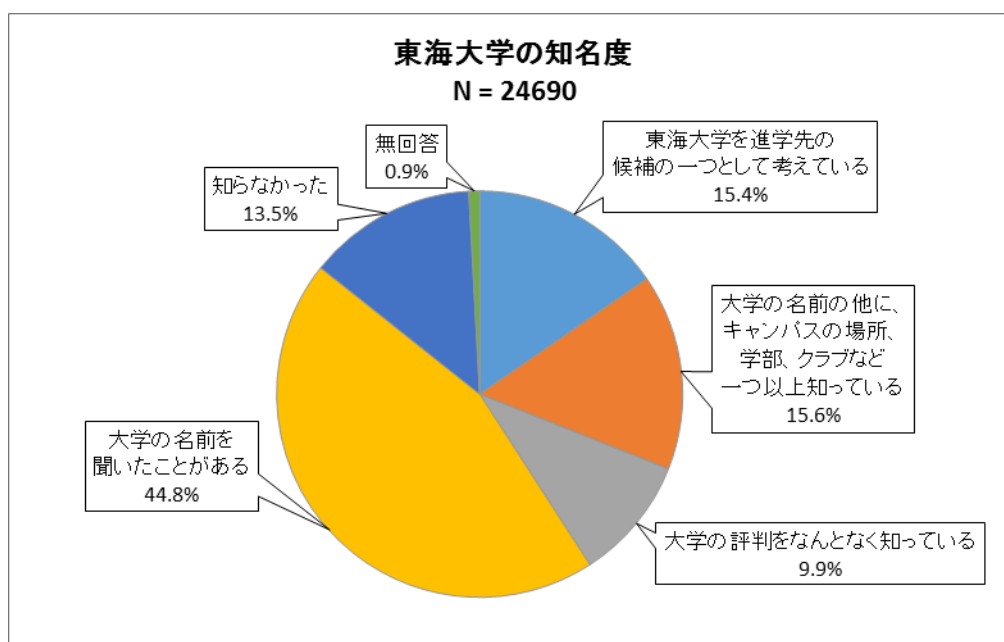
興味のある分野(第3位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



(4) 東海大学の知名度について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、東海大学の知名度について調査した。その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 11,066 人 (44.8%) と最も多く、次いで「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」3,856 人 (15.6%)、「東海大学を進学先の候補の一つとして考えている」3,799 人 (15.4%)、「知らなかった」3,325 人 (13.5%)、「大学の評判をなんとなく知っている」2,434 人 (9.9%) の順になっている。 ※「無回答」210 人 (0.9%)

東海大学の知名度			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100

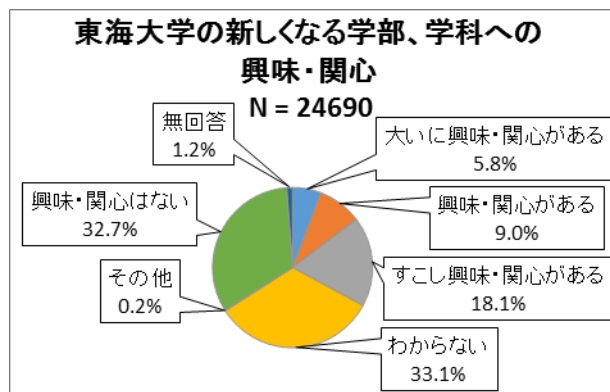


(5) 新学部・新学科への興味・関心について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人のうち、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 1,421 人（5.8%）である。また、「興味・関心がある」2,214 人（9.0%）、「すこし興味・関心がある」4,480 人（18.1%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 8,115 人（32.9%）が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



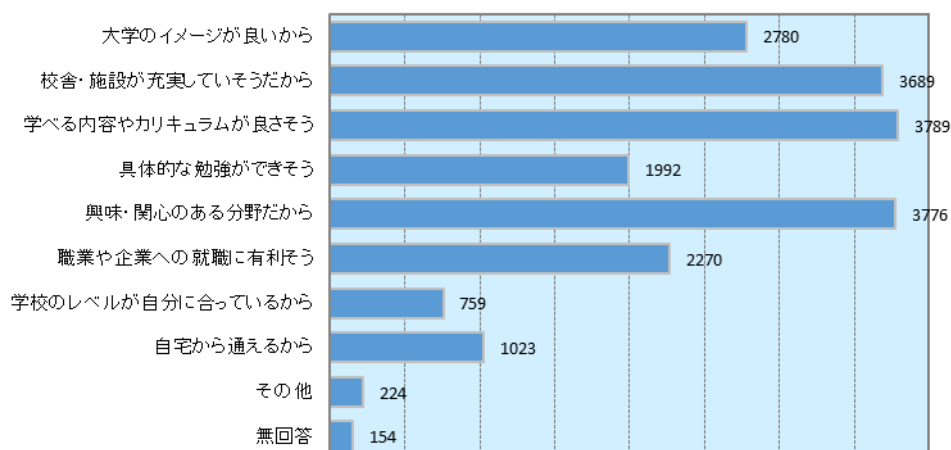
(6) 興味・関心の理由について（複数回答）

興味・関心の理由については、「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味・関心を示した 8,115 人のうち、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が 3,789 人（46.7%）、と最も多く、次いで「興味・関心のある分野だから」3,776 人（46.5%）、「校舎・施設が充実していそうだから」3,689 人（45.5%）、「大学のイメージが良いから」2,780 人（34.3%）、「職業や企業への就職に有利そう」2,270 人（28.0%）、「具体的な勉強ができそう」1,992 人（24.5%）、「自宅から通えるから」1,023 人（12.6%）、「学校のレベルが自分に合っているから」759 人（9.4%）、「その他」224 人（2.8%）の順になっている。 ※「無回答」154 人（1.9%）

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



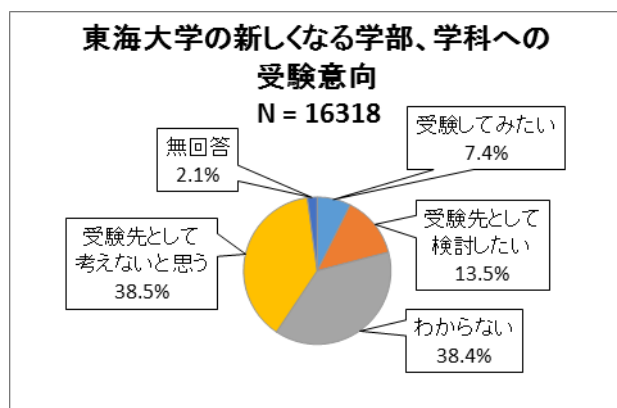
(7) 新学部・新学科への受験意向について

「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」の回答者のうち、「興味・関心はない」と回答した者を除いた 16,318 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」1,210 人 (7.4%)、「受験先として検討したい」2,211 人 (13.5%) の合計 3,421 人 (20.9%) が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100



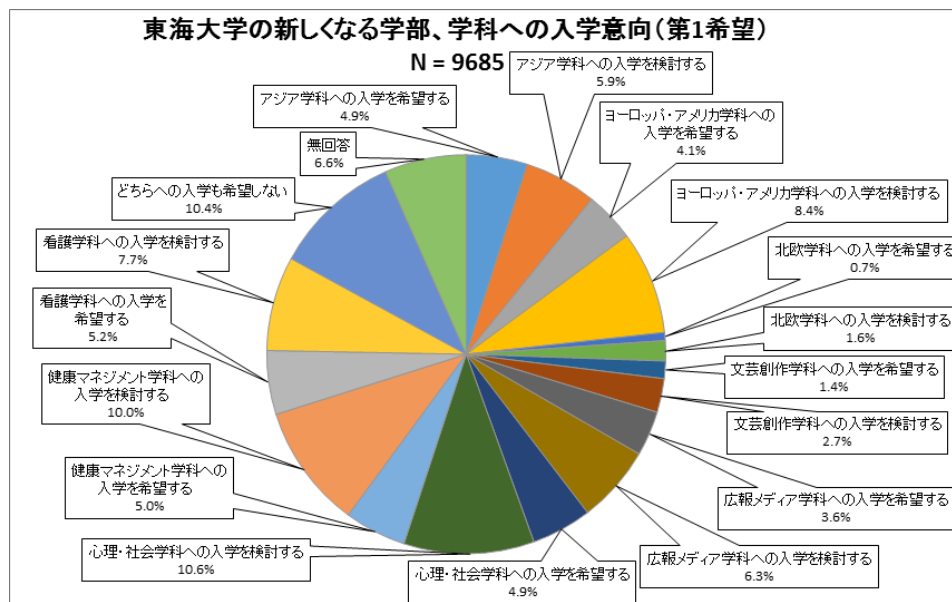
(8) 新学部・新学科への入学意向について

8-1 新学部・新学科への入学意向（第1希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第1希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

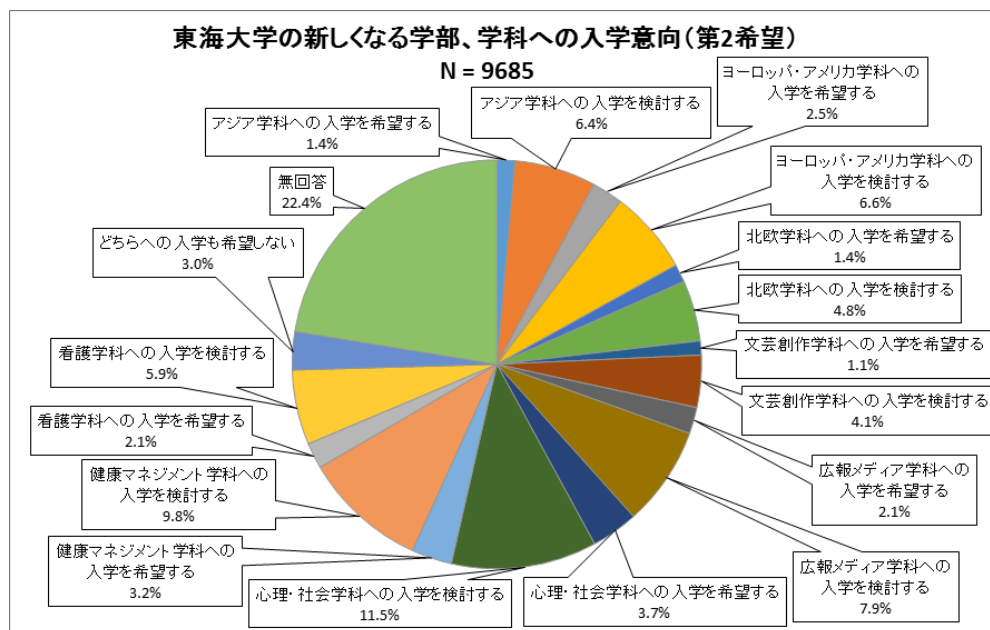


8-2 新学部・新学科への入学意向（第2希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第2希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



3. 調査結果のまとめ

「(8) 新学部・新学科への入学意向について 8-1 新学部・新学科への入学意向（第 1 希望）について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向（第 1 希望）について調査した結果は以下の通りである。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

① 文化社会学部アジア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,049 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 14.98 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 479 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 6.84 倍の入学意向を示している。

② 文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,203 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 17.18 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 393 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 5.61 倍の入学意向を示している。

③ 文化社会学部北欧学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 222 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、3.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 63 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、1.05 倍の入学意向を示している。

④ 文化社会学部文芸創作学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 402 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、6.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 137 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、約 2.28 倍の入学意向を示している。

⑤ 文化社会学部広報メディア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 959 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、9.59 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 352 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、3.52 倍の入学意向を示している。

⑥ 文化社会学部心理・社会学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,498 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 16.64 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 474 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 5.26 倍の入学意向を示している。

⑦ 健康学部健康マネジメント学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,459 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、約 7.29 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 486 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、2.43 倍の入学意向を示している。

⑧ 医学部看護学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,242 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 14.61 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 501 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 5.89 倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

調査票等

東海大学 文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置に係るアンケート調査

- ・東海大学では、2018（平成 30）年 4 月に、文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置を計画しております。このアンケート調査は、その計画の基礎資料にするため、高校 2 年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入してください。

東海大学の学部・学科の設置計画〔予定〕

設置は計画中であり、正式に決まったものではありません。

■文化社会学部 アジア学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部 北欧学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部 文芸創作学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部 広報メディア学科（仮称）

・入学定員（予定）：100名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■文化社会学部 心理・社会学科（仮称）

・入学定員（予定）：90名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■健康学部 健康マネジメント学科（仮称）

・入学定員（予定）：200名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■医学部 看護学科（仮称）

・入学定員（予定）：85名

入学金：300,000円

授業料等：1,363,200円

合計：1,663,200円（初年度）

※上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。

〔あなたに関することについてお答えください〕

【回答欄】

問 1. あなたの学年をおたずねします。

1. 高校 2 年生 2. その他（ ）

問 2. あなたの性別についておたずねします。

1. 男子 2. 女子

問 3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 埼玉県 4. 千葉県
5. 山梨県 6. 静岡県 7. その他（ ）

〔 卒業後の進路についてお答えください 〕

問 4. あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他（ ）

1、2、3 を選ばれた方は問 5 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

問 5. あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | |
|-------------------------|--------------------------------------|-------|
| 1. 文学・史学・文化・外国語関係 | 10. 経済学・経営学・法律学・商学関係 | |
| 2. 哲学・宗教学・心理学関係 | 11. 理学・工学・生命科学関係 | 第 1 位 |
| 3. 社会学・社会福祉学関係 | 12. 情報関係 | |
| 4. 健康・スポーツ・体育学関係 | 13. 建築関係 | 第 2 位 |
| 5. 食物学・栄養学関係 | 14. 農学・獣医学関係 | |
| 6. 看護学関係 | 15. 家政学関係（被服・住居） | 第 3 位 |
| 7. 医学・歯学・薬学関係 | 16. 教育学・保育関係 | |
| 8. リハビリテーション関係 | 17. 芸術学関係 | |
| 9. 【選択肢 6～8 以外の】保健・医療関係 | 18. その他（具体的に： ） | |

次のページへお進みください 

問 6. あなたは東海大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 東海大学を進学先の候補の一つとして考えている
2. 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
3. 大学の評判をなんとなく知っている
4. 大学の名前を聞いたことがある
5. 知らなかった

☐

問 7. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科について、どのように考えますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大いに興味・関心がある
2. 興味・関心がある
3. すこし興味・関心がある
4. わからない
5. その他（具体的に:
6. 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 8 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 9 へお進みください。

6 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 8. 問 7 で「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 9 へお進みください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 大学のイメージが良いから | 6. 職業や企業への就職に有利そう |
| 2. 校舎・施設が充実していそうだから | 7. 学校のレベルが自分に合っているから |
| 3. 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8. 自宅から通えるから |
| 4. 具体的な勉強ができそう | 9. その他 |
| 5. 興味・関心のある分野だから | 具体的に: |

☐
☐
☐

問 9. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科を受験したいと思いますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 受験してみたい
2. 受験先として検討したい
3. わからない
4. 受験先として考えないと思う

1～3 を選ばれた方は問 10 へお進みください。

4 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 10. 東海大学に設置予定の学部、学科を受験し、合格した場合の入学意向について、
次の中から第 2 希望まで選んでください。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|
| (文化社会学部 アジア学科) | (文化社会学部 広報メディア学科) | 第 1 希望 |
| 1. アジア学科への入学を希望する | 9. 広報メディア学科への入学を希望する | ☐ |
| 2. アジア学科への入学を検討する | 10. 広報メディア学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科) | (文化社会学部 心理・社会学科) | 第 2 希望 |
| 3. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する | 11. 心理・社会学科への入学を希望する | ☐ |
| 4. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する | 12. 心理・社会学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 北欧学科) | (健康学部 健康マネジメント学科) | |
| 5. 北欧学科への入学を希望する | 13. 健康マネジメント学科への入学を希望する | |
| 6. 北欧学科への入学を検討する | 14. 健康マネジメント学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 文芸創作学科) | (医学部 看護学科) | |
| 7. 文芸創作学科への入学を希望する | 15. 看護学科への入学を希望する | |
| 8. 文芸創作学科への入学を検討する | 16. 看護学科への入学を検討する | |
| 17. どちらへの入学も希望しない | | |

問 11. 東海大学の文化社会学部、健康学部、医学部看護学科設置の計画について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました。

類似する近隣の大学・学部・学科一覧

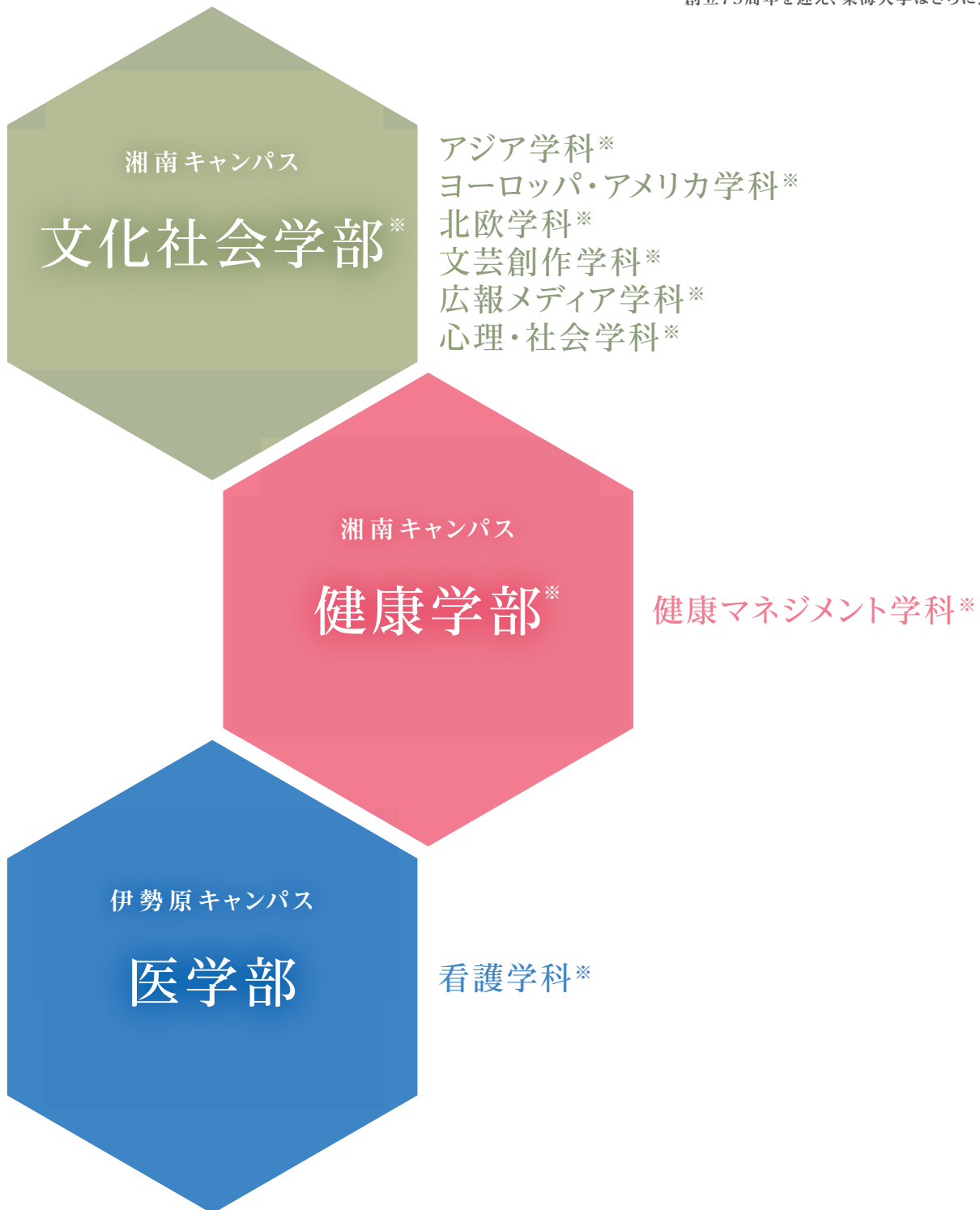
東海大学が設置を計画している学部・学科 文化社会学部（仮称）／健康学部（仮称）／医学部 看護学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻等名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
文化社会学部 アジア学科（仮称）											
東京都	私立	清泉女子大学	文学部	文化史学科		100	250,000	780,000	340,000		1,370,000
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	日本・東アジア文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	国士舘大学	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科		385	240,000	762,000	282,000	24,940	1,308,940
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	アジア学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 北欧学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	北欧学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 文芸創作学科（仮称）											
埼玉県	私立	日本大学	芸術学部	文芸学科		120	260,000	1,020,000	450,000	30,000	1,760,000
東京都	私立	淑徳大学	人文学部	表現学科	文芸表現コース	60	200,000	800,000	200,000	61,210	1,261,210
東京都	私立	大正大学	表現学部	表現文化学科	クリエイティブライティングコース	200	200,000	750,000	250,000		1,200,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	文芸創作学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 広報メディア学科（仮称）											
東京都	私立	東京工科大学	メディア学部	メディア学科	メディア社会コース	300	250,000	1,296,000	0	23,300	1,569,300
神奈川県	私立	文教大学	情報学部	メディア表現学科		95	280,000	730,000	270,000		1,280,000
東京都	私立	東洋大学	社会学部	メディアコミュニケーション学科		150	250,000	710,000	220,000	10,000	1,190,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	広報メディア学科（仮称）		100 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
文化社会学部 心理・社会学科（仮称）											
東京都	私立	昭和女子大学	人間社会学部	心理学科		100	200,000	855,600	400,000	2,400	1,458,000
東京都	私立	大妻女子大学	人間関係学部	人間関係学科	社会・臨床心理学専攻	75	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	明星大学	心理学部	心理学科		120	250,000	800,000	350,000	18,600	1,418,600
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	心理・社会学科（仮称）		90 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
健康学部 健康マネジメント学科（仮称）											
埼玉県	私立	大東文化大学	スポーツ・健康科学部	健康科学科		100	250,000	995,000	496,000	25,600	1,766,600
埼玉県	私立	早稲田大学	人間科学部	健康福祉科学科		200	200,000	1,371,000	27,000	3,000	1,601,000
東京都	私立	桜美林大学	健康福祉学群	健康科学専修		200	100,000	1,034,000	300,000		1,434,000
神奈川県	私立	東海大学	健康学部（仮称）	健康マネジメント学科（仮称）		200 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
医学部 看護学科（仮称）											
東京都	私立	杏林大学	保健学部	看護学科		140	250,000	1,150,000	500,000	73,370	1,973,370
神奈川県	私立	北里大学	看護学部	看護学科		120	400,000	1,200,000	300,000		1,900,000
東京都	私立	東京慈恵会医科大学	医学部	看護学科		60	500,000	1,000,000	0		1,500,000
神奈川県	私立	東海大学	医学部	看護学科（仮称）		85 （予定）	300,000	735,000	569,000	59,200	1,663,200

注1）各大学の情報については、2016年10月時点の公式ウェブサイトにより調査しました。

注2）各大学の学費については、各大学の公表方法に基づいています。諸会費などを含まない場合や2016年度・2017年度の学費が混在している場合があるため、あくまでも概算として参考にしてください。

注3）東海大学の学費は予定であり、変更する場合があります。また、上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。



知と実践の力を育てる新たなフィールド、誕生。

2018年4月、東海大学は、
文化社会学部／健康学部／医学部看護学科の
新設を計画しています。

※仮称／設置計画中(上記の内容は予定であり、変更する場合があります。)

調和のとれた文明社会を建設することのできる人材を育成する。

人材を育成するための教育理念

自らの 思想を培う

知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて、学生一人ひとりが「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践しています。

学生一人ひとりの素質の 伸張を支援する

本学は知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指しています。

文理融合の幅広い知識と 国際性豊かな視野の獲得

教育と研究の場において、総合大学としての特性を生かし、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、他文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ人材の育成をはかっています。

東海大学は社会で役立つ「4つの力」を育てます。

自ら考える力

未来を見据え、
つねに課題を探究する力。

集い力

多様な人たちと手を取り、
結集する力。

挑み力

困難な課題にも
勇気を持って挑戦する力。

成し遂げ力

失敗や挫折を乗り越え、
目標を実現する力。

本学は全学生が身につけるべき素養として、「4つの力」を掲げ、社会に貢献できる人を育てるための特色ある教育を行っています。



4つの力を伸ばす、鍛える、 チャレンジセンター

4つの力を養うため、学部・学科、学年を超えて学生が集い、ものづくり、ボランティア、地域活性化などの目標に取り組む場がチャレンジセンターです。大学として、支援金の支給や活動スペースの提供、教職員によるアドバイスなどを行い、学生が自由な発想で企画立案したプロジェクト活動を全面的に支援しています。



グローバル人材を育成するための取り組み



1 湘南キャンパスに 「International Café」がオープン

店員は英語で接客し、店内には英語ニュースの映像が流れています。キャンパスで学ぶ留学生とのふれあいの場として、英語を身近に感じる場として、多くの学生が利用しています。



2 使える外国語力を磨く 国際教育センター

国際教育センターでは、英語・中国語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・韓国語・スペイン語などの外国語教育プログラムを用意。レベルに応じたコースで開講しています。



3 充実した海外留学制度

世界20カ国・地域、40機関との交換協定による留学制度を準備しています。奨学金の給付や単位認定制度、出発前のオリエンテーションなどで、学生の学ぶ意欲をサポートします。

現代社会の課題に、 さまざまな角度から アプローチ

本学は現代社会の課題に、人文・社会学から理・工学、航空宇宙学、医学、海洋学、農学などさまざまな角度からアプローチしています。文系と理系の両分野にわたる学部・学科の設置、時代の先端を行く個性的な学科の新設など、本学はつねに進化を続けています。



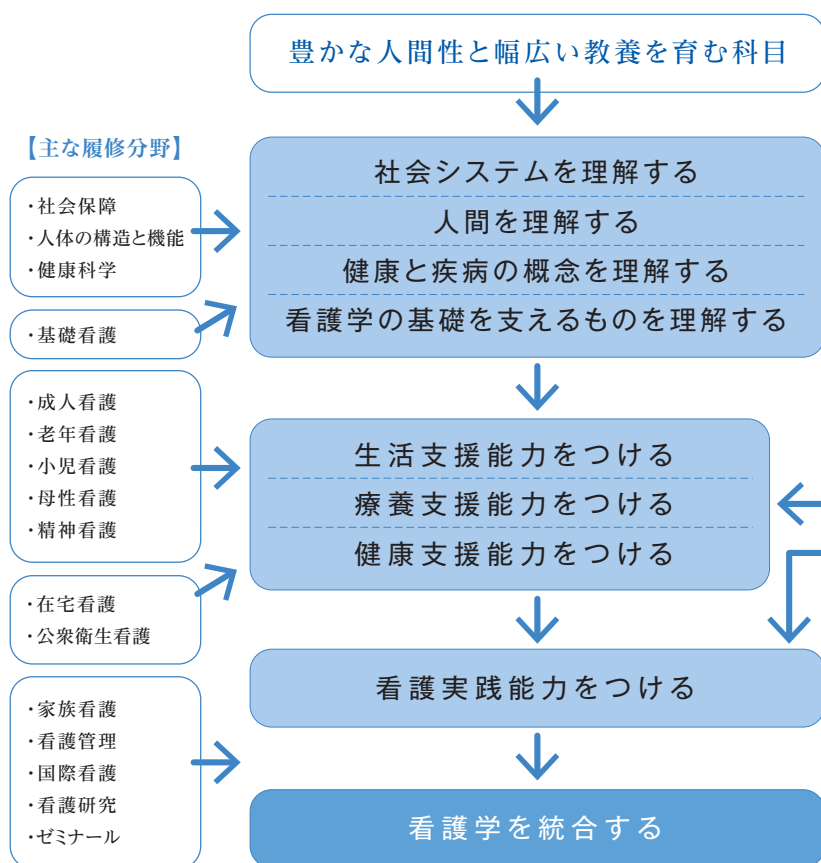


保健・医療の知識・技術と幅広い教養を身につけ、
確かな臨床判断のできる看護職を育成します。

20年以上看護職を育成してきた看護学科を医学部に設置(設置計画中)します。
医学部の中で教育を行うことによって基礎的な医学知識の充実・向上をはかり、高度な看護の
専門知識と技術を習得し、根拠をもった臨床判断のできる看護職の育成を目指します。
またこれまでの看護学科の理念を継承し、人間・社会・環境に対する深い理解と、
コミュニケーション能力や問題解決力とともに、実践力を備えた看護職者を育てます。

履修イメージ

豊かな人間性と幅広い教養を育む科目をベースに、
社会における多様な看護支援領域とその実務能力を、
多彩な科目と豊富な実習で確かなものにし、
トータルに看護を実践できる人を目指します。



取得可能な資格 (予定)^{※1}

- 看護師国家試験受験資格^{※2}
- 保健師国家試験受験資格^{※2}
- 養護教諭一種免許状^{※3}

目指せる主な進路

東海大学附属病院をはじめとする大学病院、
国公立病院、一般病院、市町村保健センター、
保健所、看護系大学院など

学位：学士(看護学) 定員：85名 (予定)

^{※1} いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。^{※2} 指定申請予定。保健師国家試験受験資格は学内選抜による定員制(30名程度)
^{※3} 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。

東海大学 医学部 看護学科で学ぶメリット

看護学科生が学ぶキャンパスには、東海大学医学部附属病院が併設されており、高度救命救急センターを含む37診療科、ドクターヘリを備えた先端医療を展開する臨床現場で、豊富な実習を受けることができます。

▼伊勢原キャンパス



東海大学附属病院

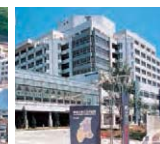
- 教員と附属病院の看護師の重層的な指導により、技術を確実に習得できる。
- 医学部医学科、工学部医用生体工学科、健康学部(設置計画中)等の医療・福祉系の他学科連携により、多職種連携の理解を深めることができる。
- 伊勢原キャンパス内の附属病院のほかにも3つの附属病院があり、多くの卒業生が活躍。将来像をイメージしながら、実習に取り組むことができる。



大磯病院



東京病院



八王子病院

本学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

文化社会学部 (仮称／設置計画中)



世界中の人々と交流し、力を合わせて
現代の課題解決に挑む人材を育成します。

文化社会学部(仮称)の目標は、グローバル化、デジタル化が進む世界で、
拡大を続ける紛争や格差、環境問題などの解決に貢献できる人材の育成です。
「多文化理解の促進」「高度な言語表現力の育成」「メディアの理解・利用・創造」
「自立と共生を実現する知識と力」の4つを柱とする教育・研究を行い、
人と社会と自然が豊かに共生する未来を目指します。

アジア学科 (仮称)

多様なアジアを多角的に学ぶ



アジアの多様な文明と文化を「歴史と文明」「文化と社会」「アジア各国の言語」の観点から学び、現代のアジアと日本を読み解きます。同時に、現代社会の問題や課題がなぜ起こり、どうすれば解決できるかを考え、同じアジアの一員として「行動する力」を身につけます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

アジアへの広い知識や文化的な理解を生かして、活躍できる分野や企業への就職。

→旅行業、商社、公務員など。

定員:70名 (予定)

ヨーロッパ・アメリカ学科 (仮称)

西洋世界を学び未来を創造する



西洋世界への理解は、現代社会に生きる私たちに欠かせません。各地域について深く知るとともに、文化の源流を辿り、多様性を受容しながら、欧米の「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という分野を学び、国際人に必要な知識と共生の精神を学びます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

ヨーロッパとアメリカの文化や言語、歴史への理解や考え方を生かして働くことができる企業への就職や進学。

→旅行業、金融、保険、公務員など。

定員:70名 (予定)

北欧学科 (仮称)

北欧の先進性に学び共生社会を目指す



人間らしく生きる社会の構築を目指す北欧。その取り組みや文化・言語を学ぶことで、多様な価値観を受容する視野の広さ、柔軟な発想力、コミュニケーション力、自らを客観的に見つめる目を養い、日本社会の課題克服にも取り組むことのできる人材を育成します。

取得可能な資格 (予定)※1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

北欧に関する学びで得た幅広い知識と視野の広さ、発想力、コミュニケーション力を生かし活躍のできるさまざまな分野や企業への就職。

→商社、旅行業、公務員など。

定員:60名 (予定)

文芸創作学科 (仮称)

表現力を磨き社会を生き抜く



情報社会では、ものごとを的確に、効果的に伝える「表現力」が重要。その基礎は「言葉」「文章を書く力」です。本学科では、出来事の本質を読み取り正確な言葉で表現する力、培った教養を未来に向かって生かしていく力を養うことで、表現力や人間性を高めます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた分析力や表現力を生かし、応用力を持って活躍できる、さまざまな分野や企業への就職。

→ 編集出版、マスコミ関連、広告関連など。

定員: 60名 (予定)

広報メディア学科 (仮称)

価値あるメッセージを創造し発信する



デジタル技術の普及が世界規模で人々に影響を与えている現代。本学科はメディアと社会の関係を理論的・歴史的に捉え、価値あるメッセージとは何かを判断する力、社会に適切なメッセージを送る力を養い、刻々と変化するメディアの状況に即応できる人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけたメディアの知識や技術を活用できるさまざまな分野や企業への就職。

→ マスコミ関連、広報・広告関連、情報関連など。

定員: 100名 (予定)

心理・社会学科 (仮称)

心理と社会を分析し実践力を育てる



心理学・社会心理学・社会学の学びや、フィールドでの実践を通して、日々の生活に必要な「コミュニケーション能力」と、社会の課題に具体的な解決策を提案できる「社会的構想力」を養い、心の安定に関する技法や、人と地域をつなぐ方法を身につけた人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた知識を専門分野で生かすだけでなく、心理的、社会的な課題や問題を解決する応用力で、さまざまな分野や企業への就職。

→ 教育医療福祉関連、マスコミ関連、情報関連など。

定員: 90名 (予定)

※1 いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。 ※2 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。
※3 卒業後一定の経験年数を経て取得可能。

学位: 学士(文化社会学)

主な就職先 <参考: 2015年度文学部(学部・学科改編前)実績>

エコ・プラン/トランスコスモス/全日本空輸/日本航空/リコーロジスティクス/下野新聞社/山愛/山口放送/スズキ自販神奈川/みずほフィナンシャルグループ/明治安田生命保険/セブン&アイ・ホールディングス/サントリー食品インターナショナル/ANAエアポートサービス/トーヨータイヤジャパン/ホンダプリモ小見川/横浜環境デザイン/ドンク/PFU/アイ・エス・ビー/カインズ/マルエツ/大塚家具/カネボウ化粧品販売/日本郵便/湘南ケーブルネットワーク/アサヒクリエーション/共同通信社/マイナビ/ユナイテッドアローズ/エヌ・ティ・ティ・インターネット/日本通運/東京ガス/三井住友銀行/横浜銀行/三菱東京UFJ銀行/法務省/千葉県庁/十和田市役所/神奈川県警察本部

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります



栄養、運動、メンタルヘルス、福祉の専門知識・技能をベースに、健康社会の創成と健康産業に貢献できる人材を養成します。

人口減少と高齢化が急速に進む日本において、人的資源、公的資源に限られる一方で、保健・医療・福祉に対するニーズはますます多様化し、多くの問題や課題が生じています。健康学部健康マネジメント学科では、こうした課題を解決するため、身体的な健康だけでなく、精神的、社会的、経済的な健康についての多角的な知識と、地域社会や企業と連携協働できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材を育成します。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのイメージ

現在の興味や知識を育て、健康をマネジメントする。

「健康」は一つの分野だけで捉えられません。健康を構成するさまざまな要素を、まとめ、分析し、管理する「マネジメント力」を育成します。



健康社会の創成と健康産業に貢献できる

食・栄養、運動、メンタルヘルス、福祉のプロフェッショナルになりたい。
プラス、自分らしさ。
さまざまなアプローチで、高い力と、多様な力をつけていくことができます。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのポイント

1 複数の資格取得が可能

学生の希望に合わせ、定められた科目を履修することにより、社会福祉士、精神保健福祉士、健康運動実践指導者、サプリメントアドバイザーなど、複数の資格や受験資格が取得できます。

2 自分の健康データを収集し、セルフケアを実践

入学から卒業まで授業を通じ、自分の体重・体組成・筋力・骨密度などに関するデータを収集し、健康状態を把握して、セルフケアを実践します。

3 地域や海外で現場を体験するプログラム

地域または海外で現場体験ができる実践型(フィールドワークやインターンシップなど)の教育プログラムを低学年から実施します。

4 学内・学外との連携を強化

医学部、体育学部、付属病院、医療技術短大、神奈川県、近隣自治体など、学内外の連携強化をはかり、東海大学でしか学べない高度な実践教育プログラムを実施。また本学のさまざまな専門研究機関による先端研究に触れることもできます。

取得可能な資格(予定)*

- 社会福祉士国家試験受験資格
- 精神保健福祉士国家試験受験資格
- 社会調査士
- 健康運動実践指導者
- 健康運動指導士
- サプリメントアドバイザー

* いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。

目指せる主な進路

一般企業(健康関連企業、フィットネスクラブ、測定機器メーカー、医薬品・健康食品・福祉用具・サプリメントアドバイザー、食品メーカー等)、ケースワーカー、病院職員、ケアマネージャー、福祉施設(デイサービス、介護予防サービス)、公務員など

学位:学士(健康マネジメント学) 定員:200名(予定)

(仮称／設置計画中)

学びの領域とカリキュラム

問題解決型の教育や能動的な研究活動による学びの中で、“健康社会”の基礎的な知識とともに、運動、栄養、メンタルヘルスなど、健康にかかわる多様な分野の専門知識と実践力を身につけた「T字型人材」を育成します。



履修モデルと将来イメージ

モデル1

子ども、障がい者、高齢者の誰もが、健康で安心して地域で暮らせるように支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + メンタルヘルス

社会福祉の相談援助の知識とスキルを学び、社会福祉の国家資格である「社会福祉士」や「精神保健福祉士」を取得し、子ども、障がい者、高齢者など多様な人々を支援できる社会福祉の相談援助のエキスパートになることを目指します。

【資格の取得例】 社会福祉士国家試験受験資格、
精神保健福祉士国家試験受験資格、社会調査士

モデル2

運動によって人びとの健康を支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動

健康運動実践指導者等の資格を取得し、年齢や体力、障がいにかかわらず皆が共に楽しめる健康スポーツの開発、イベントの企画、指導ができる人を目指します。

【資格の取得例】 健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会調査士

モデル3

栄養と運動の知識を活用して、健康に関する商品・サービスを開発する企業で活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、食品、運動、福祉ビジネスなどの企業で商品開発やサービスコーディネートができる人を目指します。

【資格の取得例】 サプリメントアドバイザー、社会調査士

モデル4

保健・医療・福祉の現場で、マネジメントリーダーとして活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ メンタルヘルス + 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、さらにマネジメントやリーダーシップを身につけ、自治体や病院・施設、健康に関する企業でのマネジメントリーダーになれる人を目指します。

【資格の取得例】 社会調査士

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

湘南キャンパス（神奈川県平塚市）

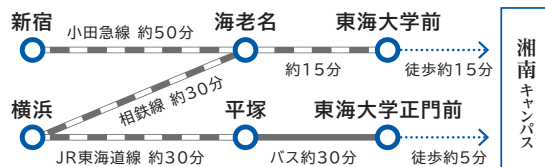
9学部約2万人が学ぶメインキャンパス。公園都市をイメージさせる豊かな自然環境の中、文理融合型総合大学の多様性とスケールの大きさが実感できます。



ACCESS

小田急線「東海大学前」駅下車
徒歩約15分
JR東海道線「平塚」駅より、
バス乗車（約30分）、
「東海大学正門前」下車
徒歩約5分

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-6422



伊勢原キャンパス（神奈川県伊勢原市）

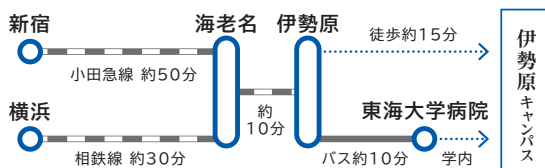
東海大学医学部付属病院を併設する伊勢原キャンパス。ここでは最先端の医療現場に触れながら、人間性豊かな医療人としての専門教育を受けることができます。



ACCESS

小田急線「伊勢原」駅下車、
「東海大学病院」行きバス、
または
「愛甲石田駅」行きバス（約10分）で
「東海大学病院」下車

〒259-1193
神奈川県伊勢原市下糟屋143
TEL.0463-93-1121



お問い合わせ | 大学運営本部高等教育室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-1211（内線：2260・2281）

〈湘南キャンパス〉

文化社会学部（仮称／設置計画中）／健康学部（仮称／設置計画中）／
文学部／政治経済学部／法学部／教養学部／体育学部／理学部／
情報理工学部／工学部（医学生体工学科のみ1～2年次）／観光学部（1年次）／大学院

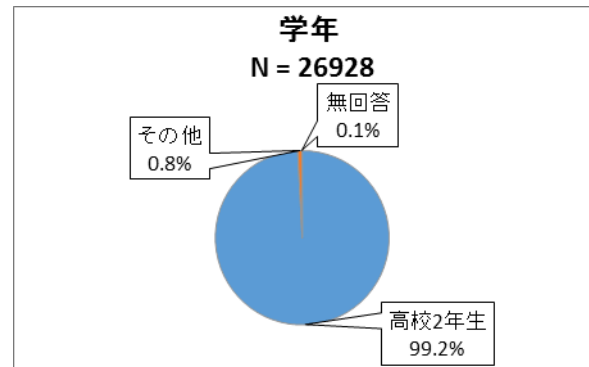
〈伊勢原キャンパス〉

医学部看護学科（仮称／設置計画中）／医学部医学科／
工学部（医学生体工学科3～4年次）／大学院

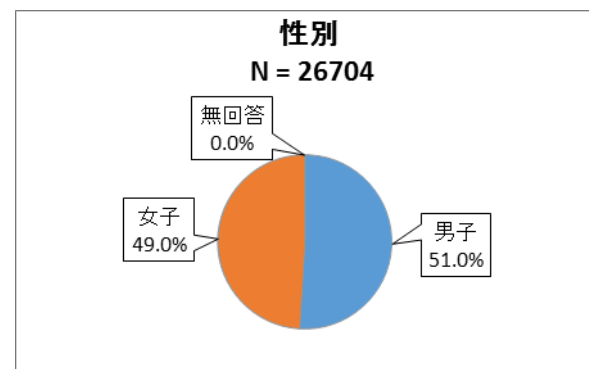
[http:// www.u-tokai.ac.jp/](http://www.u-tokai.ac.jp/)

単純集計表

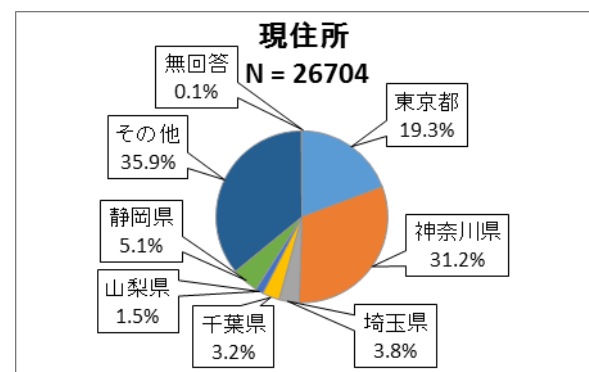
学年			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	26,704	99.2
2	その他	210	0.8
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,928	100



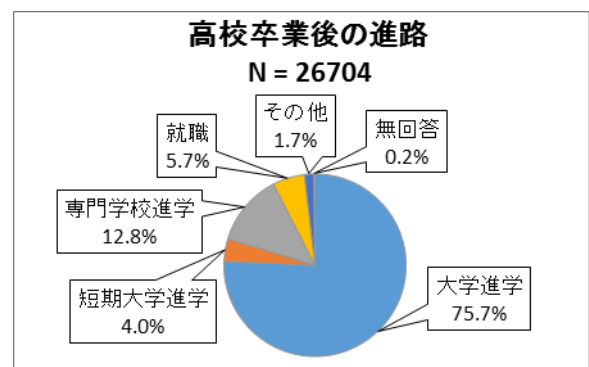
性別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	13,610	51.0
2	女子	13,082	49.0
	無回答	12	0.0
	N (%ベース)	26,704	100



現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100

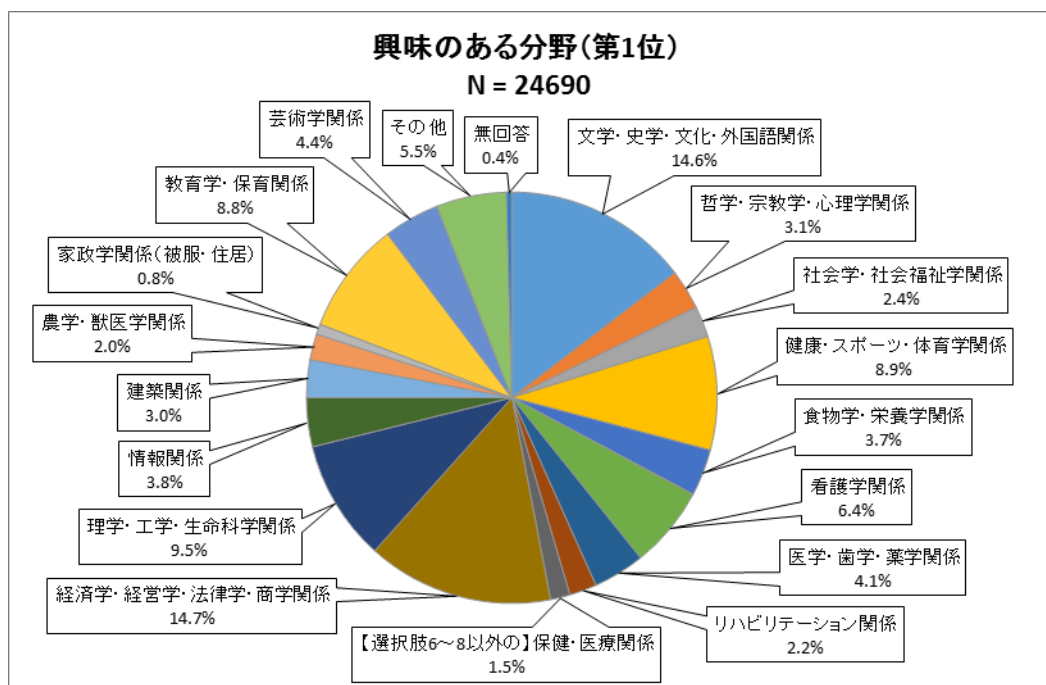


高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100



興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100

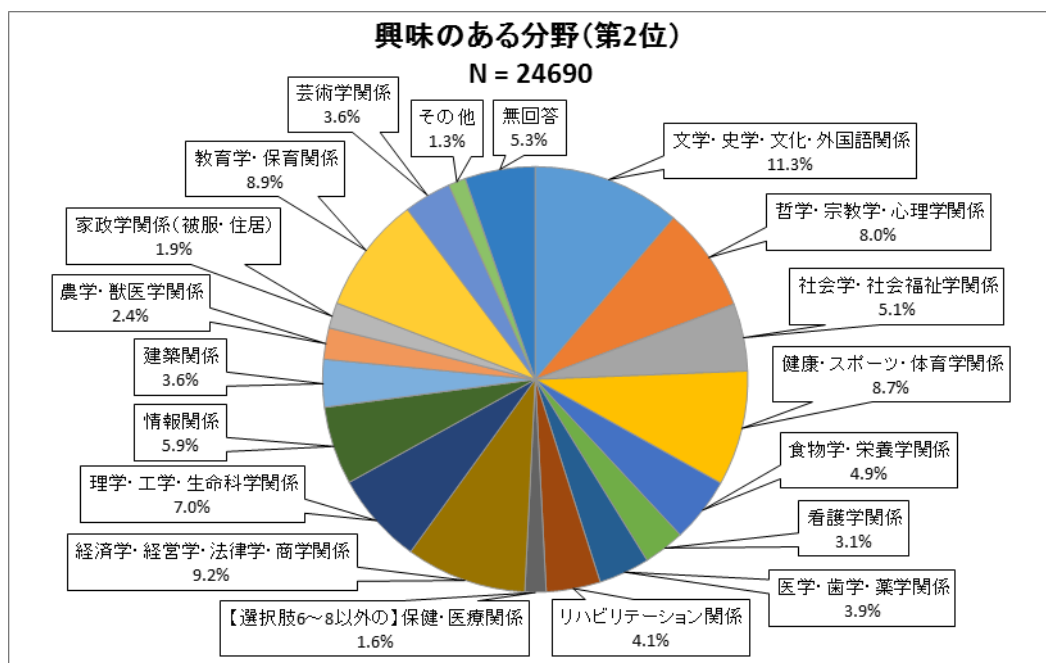


興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100

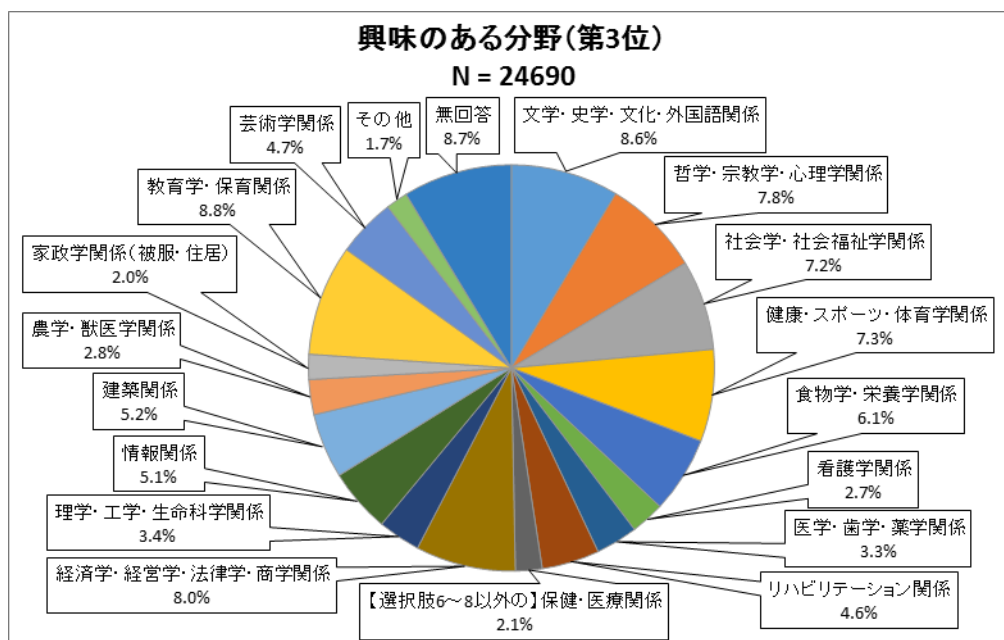
興味のある分野(第2位)

N = 24690



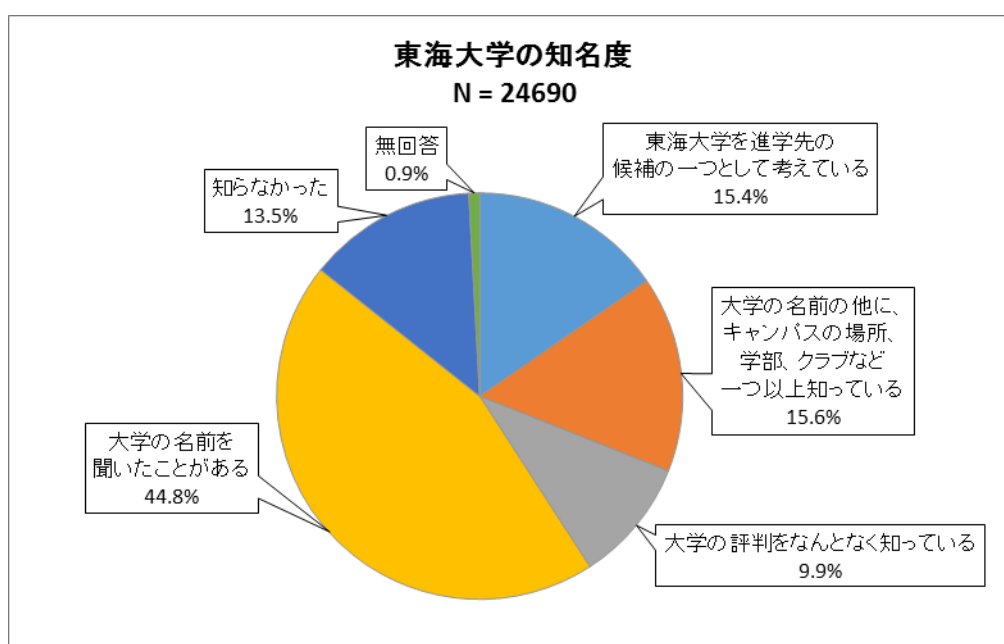
興味のある分野(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



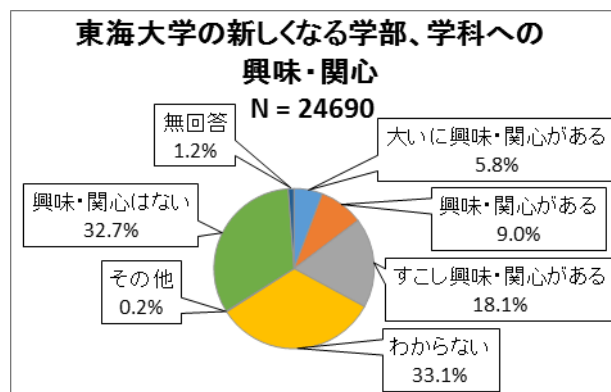
東海大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

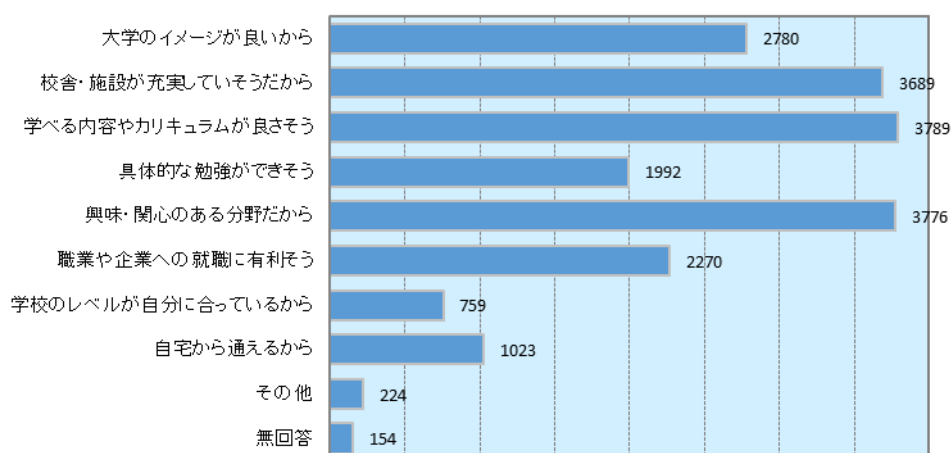
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

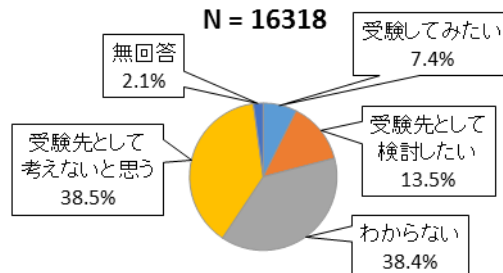
東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

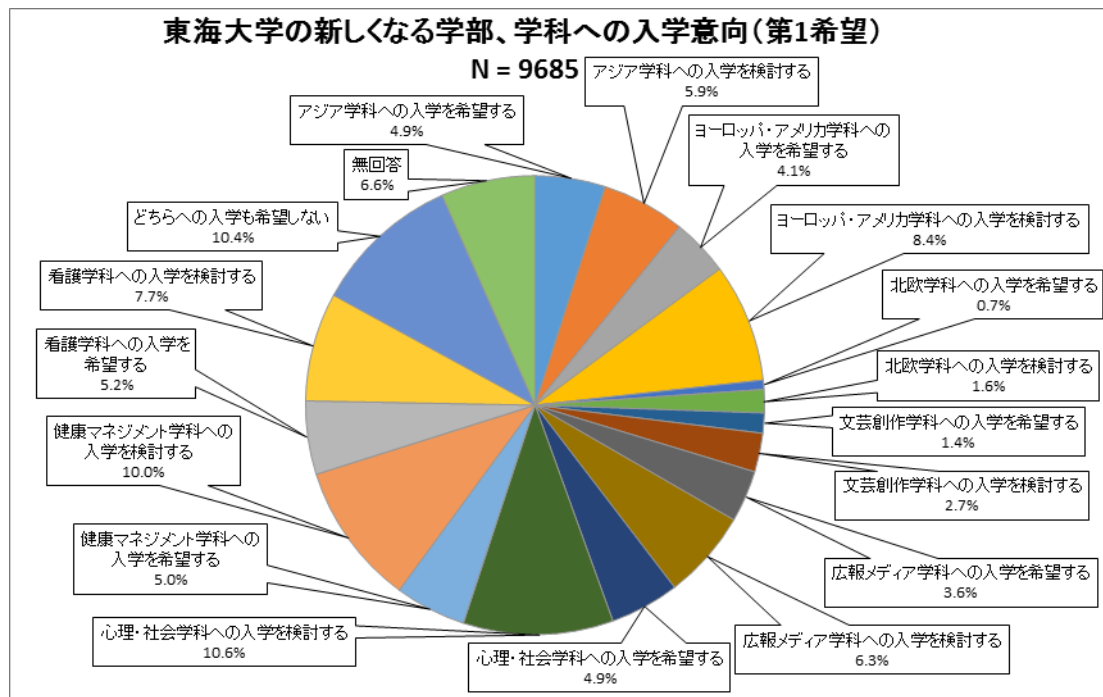
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100

東海大学の新しくなる学部、学科への
受験意向
N = 16318



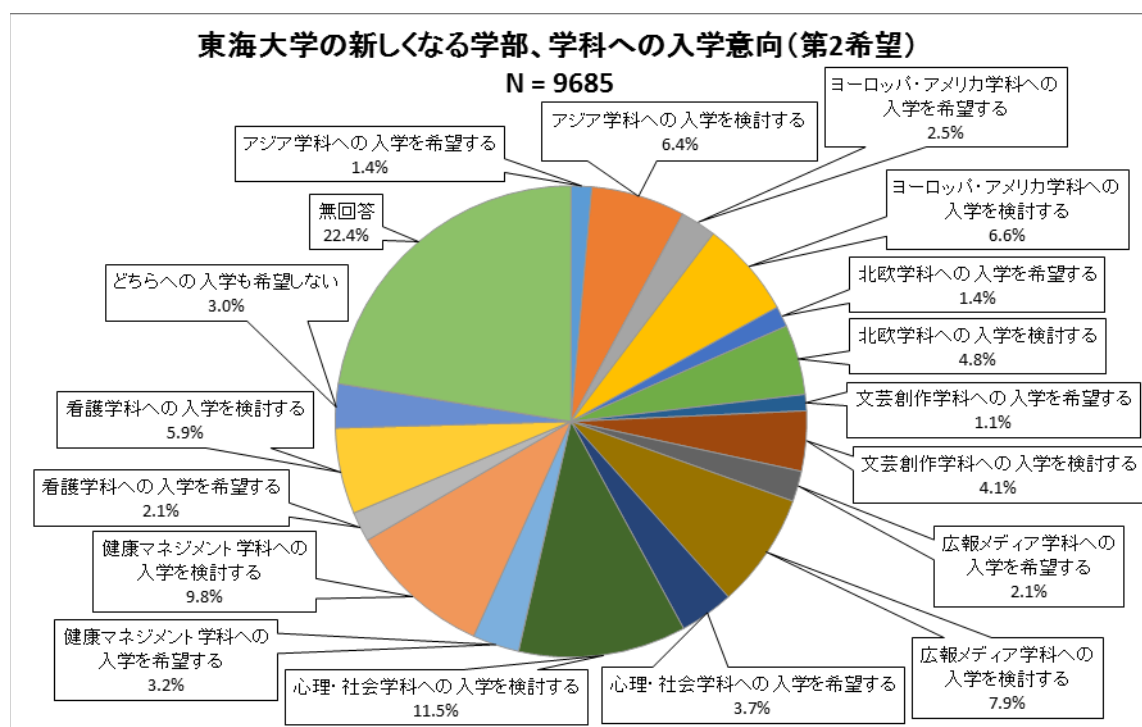
東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100



東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



資料3 「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況

基盤工学部電気電子情報工学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	80	80	80	80	80	0.63
志願者数	189	191	172	117	155	
受験者数	177	181	158	103	142	
合格者数	145	147	135	83	114	
入学者数	71	58	46	25	55	
入学定員超過率	0.88	0.72	0.57	0.31	0.68	

国際文化学部デザイン文化学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	70	70	70	70	70	0.62
志願者数	123	109	106	87	131	
受験者数	118	107	104	82	127	
合格者数	97	94	94	74	102	
入学者数	49	40	38	35	56	
入学定員超過率	0.70	0.57	0.54	0.50	0.80	

東海大学
「健康学部 健康マネジメント学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
【企業対象調査】
結果報告書

平成28年12月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2018年4月に開設予定の東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」の新設構想に関して、企業の人材ニーズを把握する。

2. 調査概要

企業対象調査		
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		全国 (岩手県、富山県、奈良県、和歌山県、沖縄県を除く)
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	2,400社
	回収数(回収率)	608社(25.3%)
調査時期		2016年10月12日(水)～2016年11月3日(木)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・人事採用への関与度 ・本社(本部)所在地 ・業種 ・従業員数 ・正規社員の過去3か年平均採用数 ・本年度の採用予定数 ・採用したい学問系統 ・「健康学部 健康マネジメント学科」の特色に対する魅力度 ・「健康学部 健康マネジメント学科」の社会的必要性 ・「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生に対する採用意向 ・「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※ 本調査は、東海大学が新たに設置する予定の「健康学部 健康マネジメント学科」に対する人材需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、東海大学の卒業生が就職している、もしくは就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、608企業・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は28.6%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が60.5%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、代々木キャンパス、高輪キャンパスの所在地である「東京都」が30.8%で最も多い。次いで、「健康学部 健康マネジメント学科」設置予定の湘南キャンパス、伊勢原キャンパスの所在地である「神奈川県」が17.6%と高い。
- 回答企業の業種としては、「卸売・小売業」が最も多く29.8%。次いで、「製造業」(27.1%)、「医療・福祉」(19.9%)と続く。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は「100名～500名未満」が48.2%で最も多い。

回答企業の採用状況(過去3か年)

- 回答企業の正規社員の過去3か年平均採用数は、「10～20名未満」が22.0%で最も多い。次いで、「1～5名未満」が19.4%、「5～10名未満」が16.4%。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が53.5%で最も多い。次いで、「増やす」が33.6%。
- 回答企業の採用したい学問系統は、「学部や学問系統にはこだわらない」が最も高く49.8%。次いで、「経済・経営・商学系統」(24.0%)、「理学系統」(20.6%)、「農・水産学系統」(19.1%)、「工学系統」(18.9%)、「社会学系統」(17.8%)、「看護・保健学系統(体育・健康科学含む)」(17.4%)と続く。

企業対象 調査結果まとめ

「健康学部 健康マネジメント学科」の特色に対する魅力度

- 「健康学部 健康マネジメント学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で6割を超える。
- 中でも、「栄養、運動、メンタルヘルス、福祉の専門知識・技能の習得をベースにした、“健康”における社会の仕組みや問題の解決を目的とした複合的なカリキュラムにより、地域社会や企業と連携・協働できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材を育成します。」の魅力度は85.9%で、特色4項目中最も高い。次いで、「地域または海外でのフィールドワークや、企業・自治体・NPOなどでのインターシップを低学年から実施し、現場に対する高い意識を身につけます。」(84.0%)が高い。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「健康学部 健康マネジメント学科」の社会的必要性

- 「健康学部 健康マネジメント学科」の社会的必要性について「必要だと思う」と答えた企業は93.1% (566件)と、多くの企業でこれからの社会にとって必要な学科だと認識されている。

企業対象 調査結果まとめ

「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生に対する 採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

- ・「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は83.2% (506件) である。
- ・「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた506件に対し、「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聴取したところ、合計は785名程度であり、予定されている入学定員(200名)の約3.9倍である。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

「健康学部 健康マネジメント学科」 卒業生に対する採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- ・「健康学部 健康マネジメント学科」設置予定の湘南キャンパスの所在地である「神奈川県」の企業からの採用意向は82.2% (88件)。

◇業種別

- ・「医療・福祉」からの採用意向は92.6% (112件)、「サービス業」からの採用意向は95.3% (61件)。

◇採用したい学問系統別

- ・採用したい学問系統別に採用意向を見ると、「健康学部 健康マネジメント学科」と関連のある「看護・保健学系統」を学んだ学生を採用したいと考える企業の採用意向は94.3% (100件)。「社会学系統」「経済・経営・商学系統」を学んだ学生を採用したいと考える企業の採用意向は、それぞれ89.8% (97件)、81.5% (119件)。

企業対象 調査結果

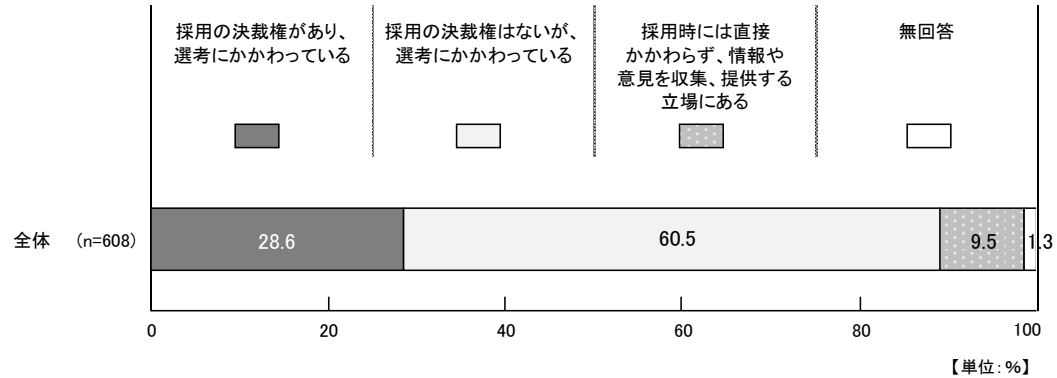


回答企業(回答者)の属性

(人事採用への関与度／本社＜本部＞所在地)

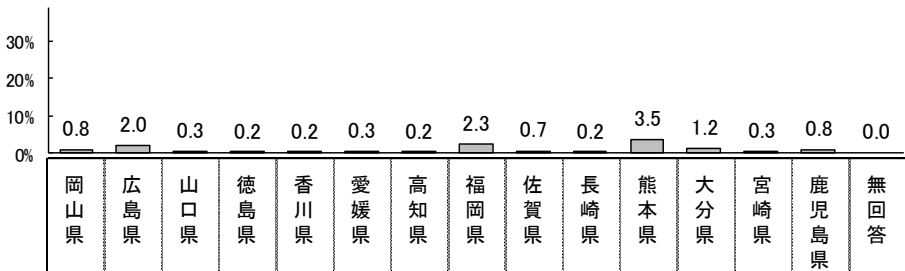
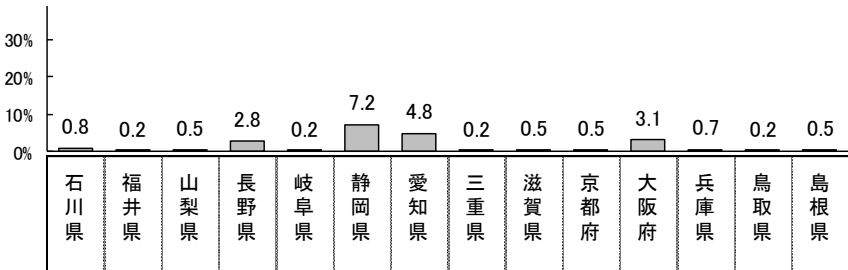
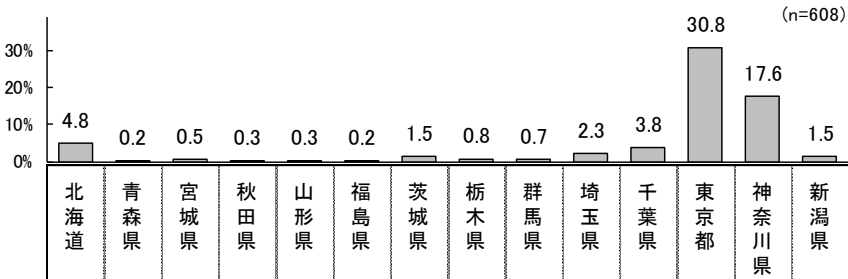
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまるもの1つだけ)



■本社(本部)所在地

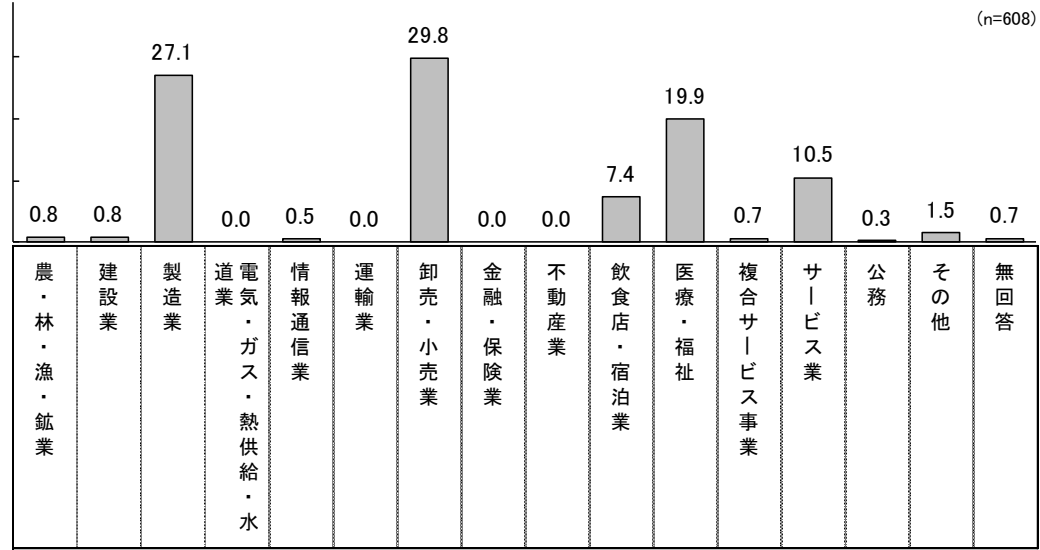
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種／従業員数)

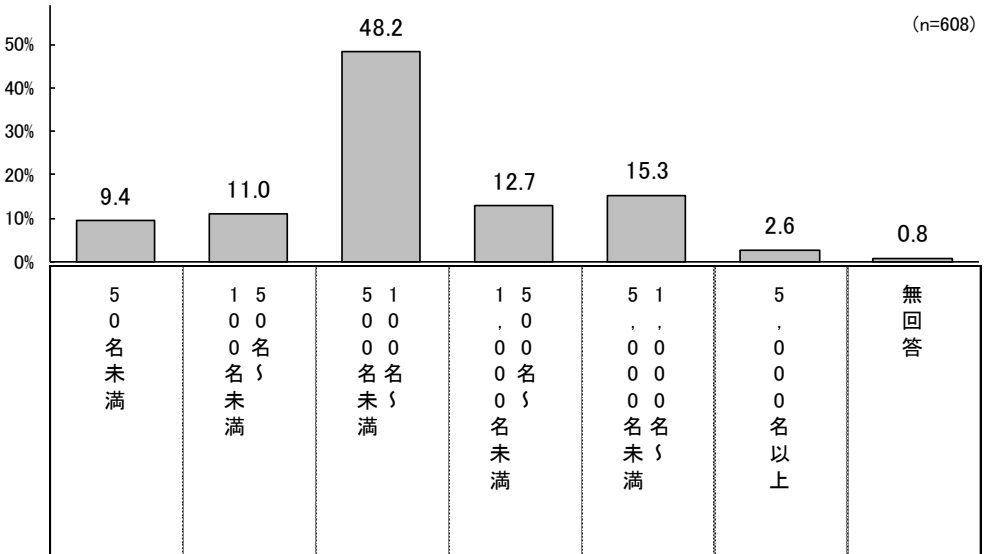
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)



■従業員数

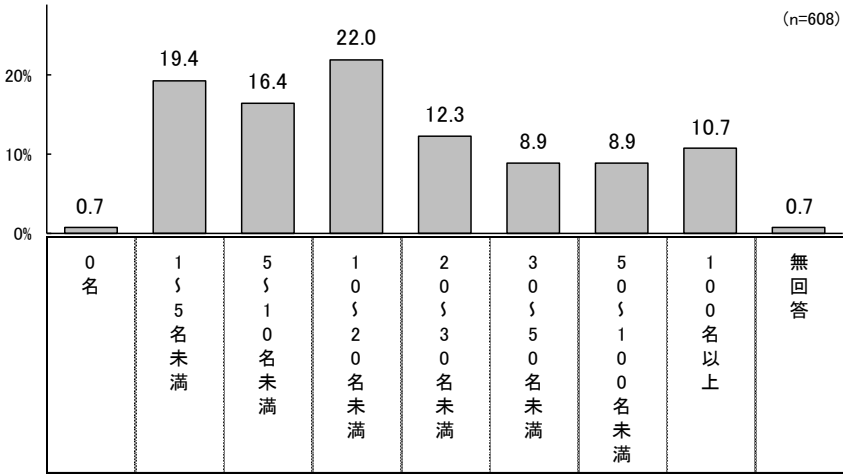
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)



正規社員の過去3か年平均採用数／本年度の採用予定数／採用したい学問系統

■ 正規社員の過去3か年平均採用数

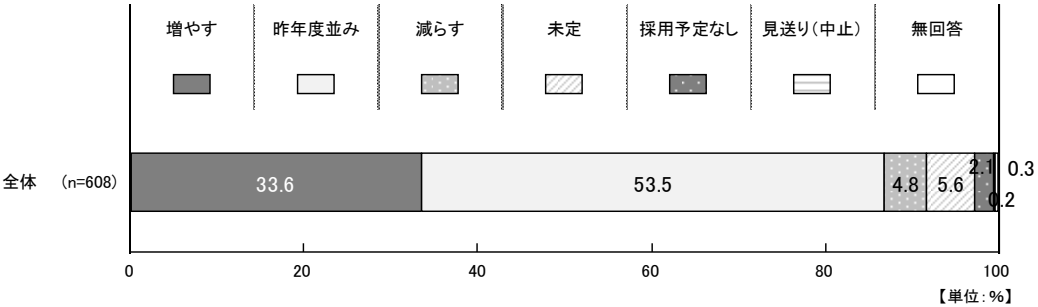
Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。



※自由記述で聴取した人数をカテゴリー分けしてグラフ化

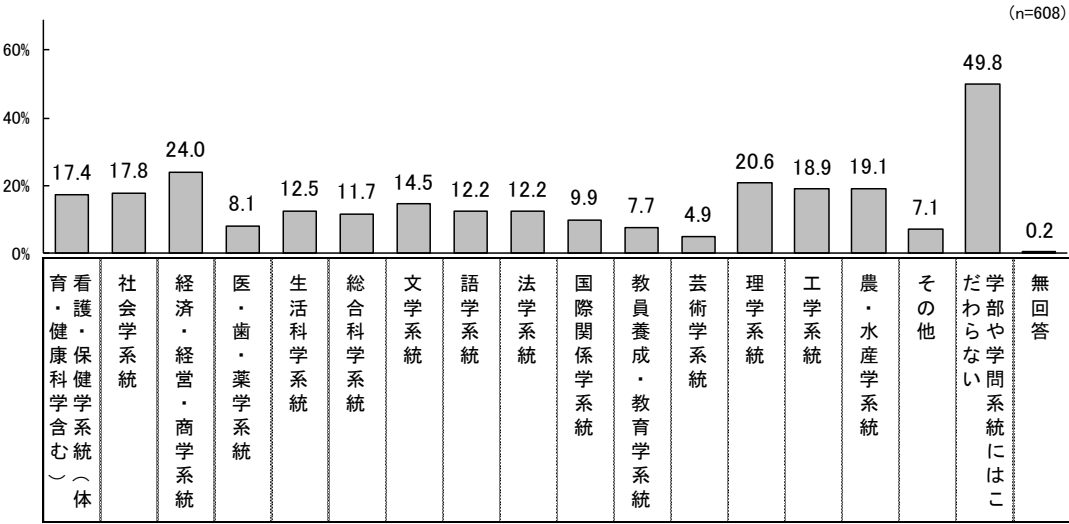
■ 本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまるもの1つだけ)



■ 採用したい学問系統

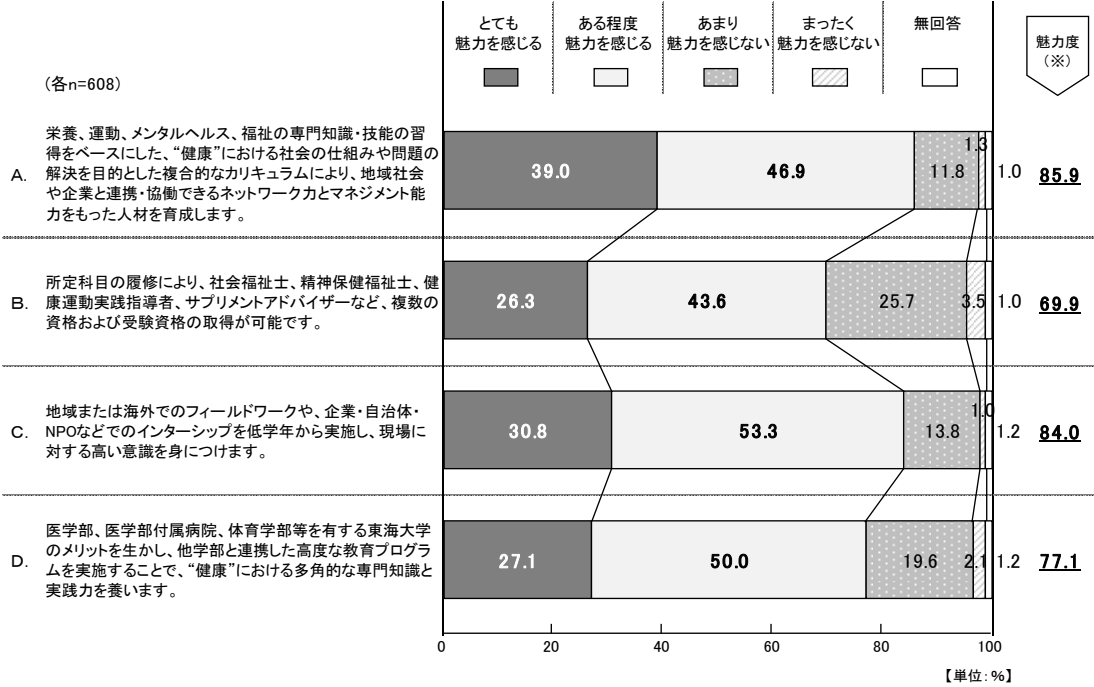
Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまるものすべて)



「健康学部 健康マネジメント学科」の特色に対する魅力度

■「健康学部 健康マネジメント学科」の特色に対する魅力度

Q8. 東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

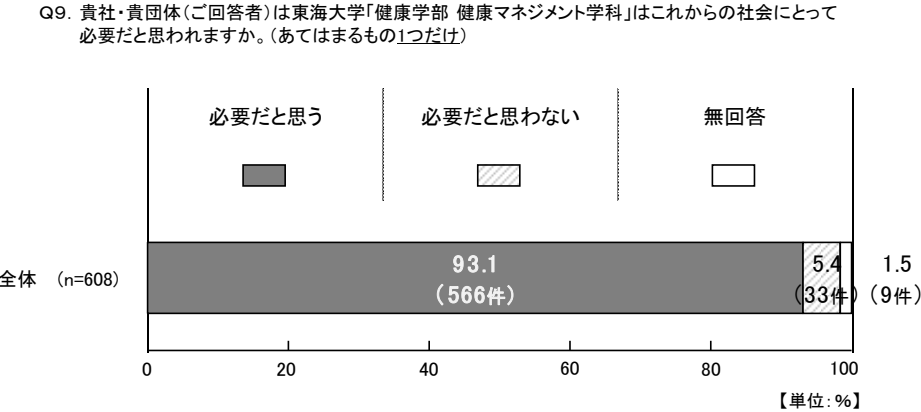


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

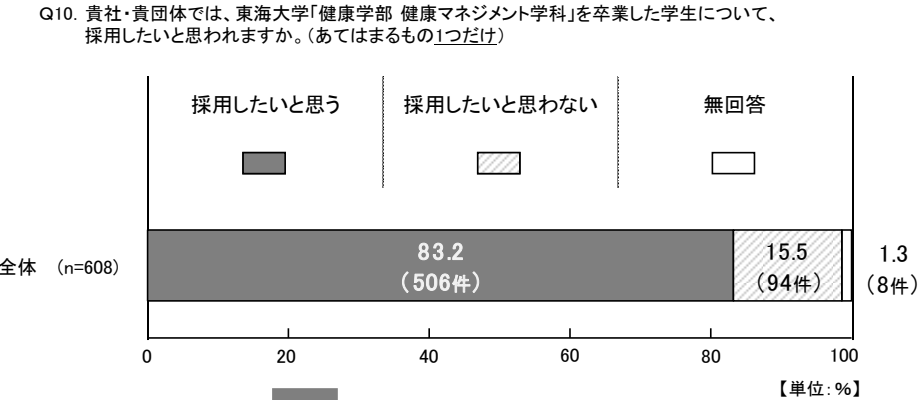
※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「健康学部 健康マネジメント学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

「健康学部 健康マネジメント学科」の社会的必要性



「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生に対する採用意向



「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた506件のみ抽出

「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまるもの1つだけ)

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名 以上	人数は未 確定	無回答	毎年の採用 想定 (人数・計※)
全体	506	12.1	7.1	7.3	0.6	4.0	1.8	67.0	0.2	⇒ 785
		61	36	37	3	20	9	339	1	

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

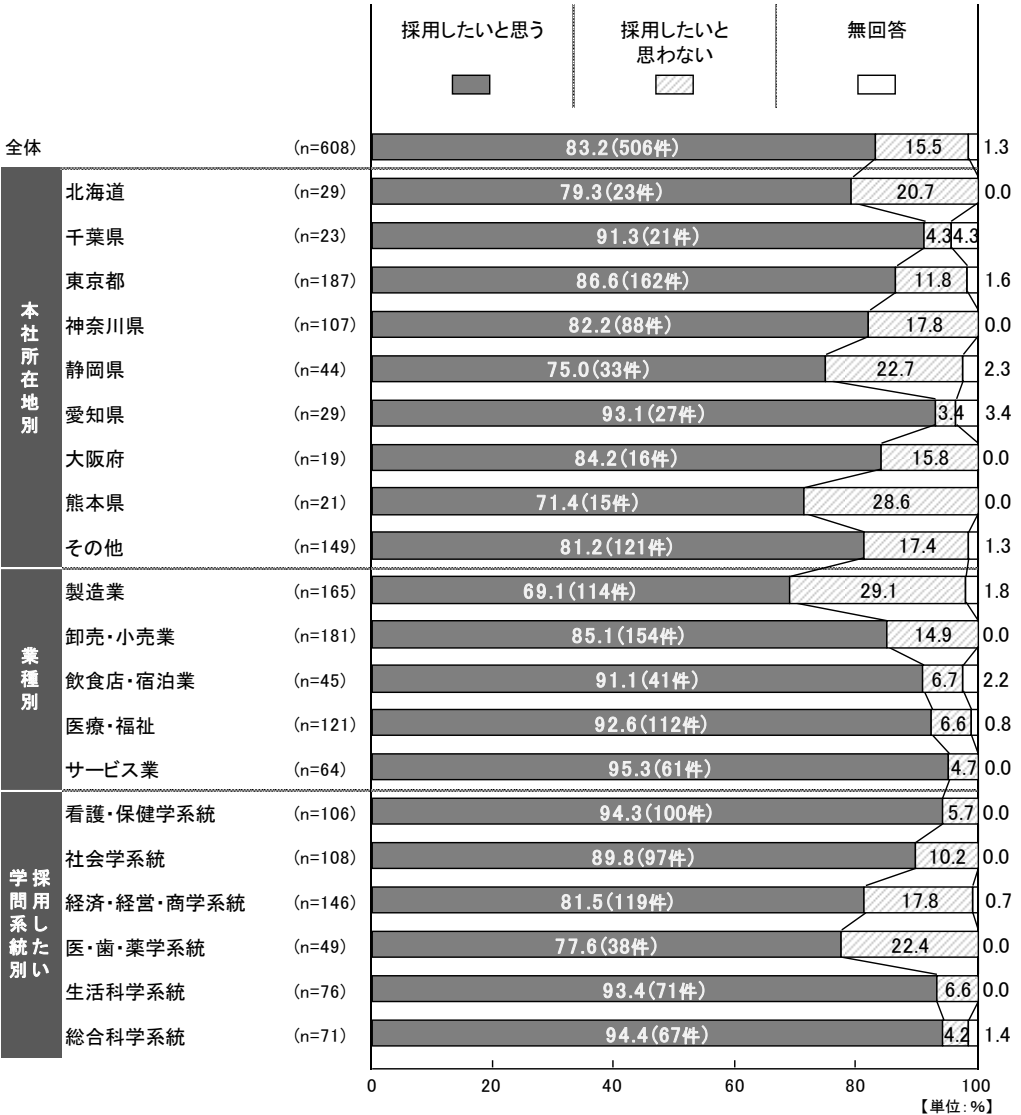
「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生に対する採用意向

<属性別>

■「健康学部 健康マネジメント学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つだけ)

<属性別>



卷末資料 調查票



企業対象 調査票

16013

No.

『東海大学 健康学部 健康マネジメント学科』(仮称)に関するアンケート

東海大学では2018年(平成30年)4月より、「健康学部 健康マネジメント学科」の設置を計画しています。
このアンケートは人事採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートと同封した資料に記載されている「健康学部 健康マネジメント学科」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

記入の方法

1 回答は、あてはまる項目の□枠に✓をつけてください。

2 この用紙は、電算処理しますので、汚さないようにしてください。

3 記入にあたっては、必ず鉛筆またはシャープペンシルで濃く書いてください。

4 質問により、1つだけ答えるものと、複数答えるものがあります。

5 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

【記入例】

Q.どのような学部を卒業した人物を採用したいですか。(いくつでも)

良い記入例

☒ 文学

☐ 法学

☐ 社会学

☐ 教育学

☐ 心理学

☐ 言語学

☒ 国際関係

悪い記入例

☒ 文学

☐ 法学

☐ 社会学

☐ 教育学

☐ 心理学

☒ 言語学

☐ 国際関係

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまるもの1つだけ)

- ☐ 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- ☐ 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある
- ☐ 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地 ☐ 都 ☐ 道 ☐ 府 ☐ 県 ←1つだけ

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)

- ☐ 農・林・漁・鉱業
- ☐ 運輸業
- ☐ 医療・福祉
- ☐ 建設業
- ☐ 卸売・小売業
- ☐ 複合サービス事業
- ☐ 製造業
- ☐ 金融・保険業
- ☐ サービス業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 不動産業
- ☐ 公務
- ☐ 情報通信業
- ☐ 飲食店・宿泊業
- ☐ その他

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)

- ☐ 50名未満
- ☐ 100名～500名未満
- ☐ 1,000名～5,000名未満
- ☐ 50名～100名未満
- ☐ 500名～1,000名未満
- ☐ 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均 名程度 ※アラビア数字(1,2,3・・・)でご記入ください。

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまるもの1つだけ)

- ☐ 増やす
- ☐ 減らす
- ☐ 採用予定なし
- ☐ 昨年度並み
- ☐ 未定
- ☐ 見送り(中止)

裏面へ続く→

企業対象 調査票

16014

Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。（あてはまるものすべて）

- ☐ 看護・保健学系統
（体育・健康科学含む）
- ☐ 文学系統
- ☐ 理学系統
- ☐ 社会学系統
- ☐ 語学系統
- ☐ 工学系統
- ☐ 経済・経営・商学系統
- ☐ 法学系統
- ☐ 農・水産学系統
- ☐ 医・歯・薬学系統
- ☐ 国際関係学系統
- ☐ その他
- ☐ 生活科学系統
- ☐ 教員養成・教育学系統
- ☐ 学部や学問系統にはこだわらない
- ☐ 総合科学系統
- ☐ 芸術学系統

ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください。

Q8. 東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまるものを1つだけ）

		とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ ☐	☒	☐	☐
A.	栄養、運動、メンタルヘルス、福祉の専門知識・技能の習得をベースにした、“健康”における社会の仕組みや問題の解決を目的とした複合的なカリキュラムにより、地域社会や企業と連携・協働できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材を育成します。	→ ☐	☐	☐	☐
B.	所定科目の履修により、社会福祉士、精神保健福祉士、健康運動実践指導者、サプリメントアドバイザーなど、複数の資格および受験資格の取得が可能です。	→ ☐	☐	☐	☐
C.	地域または海外でのフィールドワークや、企業・自治体・NPOなどでのインターンシップを低学年から実施し、現場に対する高い意識を身につけます。	→ ☐	☐	☐	☐
D.	医学部、医学部付属病院、体育学部等を有する東海大学のメリットを生かし、他学部と連携した高度な教育プログラムを実施することで、“健康”における多角的な専門知識と実践力を養います。	→ ☐	☐	☐	☐

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」はこれからの社会にとって必要だと思いますか。（あてはまるもの1つだけ）

- ☐ 必要だと思う
- ☐ 必要だと思わない

Q10. 貴社・貴団体では、東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。（あてはまるもの1つだけ）

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

Q11. Q10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、東海大学「健康学部 健康マネジメント学科」を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。（あてはまるもの1つだけ）

- ☐ 1名
- ☐ 2名
- ☐ 3名
- ☐ 4名
- ☐ 5名～9名
- ☐ 10名以上
- ☐ 人数は未確定

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。